

目次

郡山市立美術館年報 令和3年度

目次

I	沿革・郡山市立美術館の目的と性格	2
II	展覧会事業	3
	1) 常設展	4
	2) 企画展	20
III	教育普及事業	42
	1) 講演会	42
	2) アーティストトーク	42
	3) スライドトーク	42
	4) 文化講座	43
	5) ワークショップ	43
	6) ミュージアム・シアター	43
	7) ミュージアム・コンサート	43
	8) 学校との連携事業	43
	9) 対外協力	44
	10) 図書資料・視聴覚資料	44
	11) 刊行物	44
	12) 館外での活動及び関連記事・報道	46
IV	作品収集・保存管理事業	47
	1) 新収蔵作品・美術資料一覧	47
	2) 収蔵作品貸出状況	55
	3) 収蔵作品等の掲載	56
	4) 収蔵作品修復状況	56
	5) その他の保存管理事業	59
V	利用者数	60
	1) 展覧会	60
	2) 教育普及事業	61
	3) 過去5年間の利用者数の推移状況	61
	4) 教育普及事業別参加者数の推移状況	62
VI	管理運営	63
	1) 関係法規	63
	2) 名簿・組織	67
	3) 建築設備概要・平面図・面積表	68
	4) 利用案内	72

I 沿革・郡山市立美術館の目的と性格

沿革

1981（昭和56）年 9月	美術館建設懇談会設置
1982（昭和57）年 2月	美術館基本構想懇話会設置
1983（昭和58）年 3月	「郡山市美術館基本構想」答申
1985（昭和60）年12月	美術品取得基金条例公布・施行
1987（昭和62）年 4月	美術館建設準備室設置
1987（昭和62）年 6月	郡山市立美術館建設検討委員会設置
1988（昭和63）年 1月	美術館建設場所決定
1989（平成元）年11月	美術館建設設計競技審査会開催
1990（平成2）年 1月	収蔵美術品特別展示開催（於：郡山市民文化センター） （株）TAK建設・都市計画研究所の設計案当選（同社に設計を委託）
1990（平成2）年 3月	美術館建設基本設計完了
1990（平成2）年10月	美術館建設実施設計完了
1990（平成2）年12月	美術館建設工事着工
1992（平成4）年 6月	美術館建設本体工事完了
1992（平成4）年 7月	郡山市立美術館条例施行 美術館建設準備室を解散して美術館としてスタート
1992（平成4）年11月	美術館建設外構工事完了 11月21日 美術館開館
2017（平成29）年10月 1日	改修工事のため休館
2018（平成30）年 7月 7日	再オープン

郡山市立美術館の目的と性格

郡山市立美術館は、「市民がすぐれた美術作品に接することにより美術文化に対する深い理解と親しみを持ち、より豊かな市民生活を享受できる場とするとともに、郷土ゆかりの美術作品、国際的視野と高い水準をもった美術作品及び美術資料を収集・保存・展示して市民文化の向上を図る」という構想のもとに建設が計画された。

作品の収集は、①イギリス近代美術、②日本近代美術、③郷土ゆかりの美術、④本(版)の美術という柱をもっておこなわれている。特にイギリス近代美術について、体系的に収集したコレクションはこれまでの国内の美術館においても例を見ないもので、内外の大きな評価を得ている。

今後についても、この特色あるコレクションの一層の充実を図りつつ、調査研究、展示、教育普及など多彩な活動をおこなっていく。

また、郡山市街から安達太良山までを一望できる緑豊かな丘陵地の自然を背景とした恵まれた立地条件を十分に生かし、多くの方々にやすらぎを与える場とするために、整備していく。

Ⅱ 展覧会事業

1) 常設展

第1期 令和3年4月28日～7月18日

展示室1：イギリス美術の肖像

展示室2：もうひとつの「芳」の系譜

展示室3：郷土ゆかりの美術

展示室4：①西洋版 地獄めぐり－ダンテ『神曲』

②魅せるテーブルウェア

第2期 令和3年7月21日～10月3日

展示室1：小特集：イギリスの彫刻家たち

展示室2：洋画上洛！－京都洋画と浅井忠

展示室3：日本の前衛・画家の試み

展示室4：①版画と福島

②佐藤潤四郎のガラス

第3期 令和3年10月6日～12月26日

展示室1：イギリス美術のイギリス性

展示室2：美の明治：工部美術学校と東京美術学校

展示室3：大集合！形が楽しい絵画たち

展示室4：①版画で旅する日本

②暮らしのなかの工芸

第4期 令和4年2月11日～4月24日

展示室1：小特集：イギリス－水彩画への誘い

展示室2：西洋に学んだ画家たち

展示室3：今日の立体アート

展示室4：①美しい本の世界

②素材とかたち

2) 企画展

令和3年4月24日～6月6日

挑む浮世絵 国芳から芳年へ

令和3年6月19日～8月29日

「無言館」展 遺された絵画からのメッセージ

令和3年9月10日～10月10日

郡山の美術とであう

令和3年10月23日～12月26日

東日本大震災10年 やなせたかしの世界 －愛と叙情 アンパンマンを生んだひと－

令和4年2月11日～3月27日

(令和4年3月17日、18日は地震の影響により臨時休館)

スイス プチ・バレ美術館展 ルノワールからエコール・ド・パリへ

1) 常設展

令和3年度 第1期 令和3年4月28日～7月18日

展示室1 イギリス美術の肖像

イギリスでは、地理的また宗教的要因などから他のヨーロッパ諸国とは異なる美術の展開を見せました。貴族社会であることを背景に、自身の威厳ある姿を残すための肖像画が多く制作され、ホガース、ゲインズボロ、レイノルズらが活躍します。また、大陸の影響を受けながら風景画が隆盛を極め、ターナー、コンスタブルの二大巨匠が登場、さらに神話や文学の世界からインスピ

レーションを受けたラファエル前派、世紀末に彗星のごとく現れたビアズリーと、多彩な美術が開いてきました。

当館の誇る肖像画の優品を中心に、風景画そして世紀末美術へ…輝かしい個性を放つ画家たちの作品をとおして、18世紀後半から19世紀イギリス美術の輪郭をめぐる

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
ウィリアム・ホガース	サミュエル・マーティンの肖像	1758-60頃	油彩・キャンバス	
トマス・ゲインズボロ	オース夫人の肖像	1767	油彩・キャンバス	
サー・トマス・ローレンス	ラビー・ウィリアムズ牧師	1790年代初頭	油彩・キャンバス	
サー・ジョシュア・レイノルズ	キティ・フィッシャーの肖像習作	1760-62頃	油彩・キャンバス	
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンバス	
トマス・ゲインズボロ	荷馬車のいる丘陵地帯の森の風景	1745-46頃	油彩・キャンバス	
トマス・ゲインズボロ	牧夫と牛のいる森の風景	1758頃	鉛筆・紙	
ポール・サンドビー	グラモーガン州ブリトン・フェリーにて家屋よりニース河上流を眺める	1775	アクリット、エッチング・紙/ポトフオリオ	
ポール・サンドビー	ペンブローク城	『ウェールズ12景』第1部	1775	アクリット、エッチング・紙/ポトフオリオ
ポール・サンドビー	西方、グラモーガン州カーディフ城門	『ウェールズ12景』第3部	1777	アクリット、エッチング・紙/ポトフオリオ
ポール・サンドビー	西方から望むカーディフ城	『ウェールズ12景』第3部	1777	アクリット、エッチング・紙/ポトフオリオ
ジョン・ヴァーレー	ポントシスリット・アクアダクト	1826	水彩・紙	
ジョン・コンスタブル	穀物畑の農家	1844頃	メゾチント・紙	
ジョン・コンスタブル	ヤーマス、ノーフォーク	1832	メゾチント、手彩色・紙	
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カンバーランド州のコールダー・ブリッジ	1810	油彩・キャンバス	
ジョン・クローム	ヘレスドンの眺め	1807頃	油彩・キャンバス	
ジョン・マーティン	フレッシュウォーター・ベイ	1815頃	油彩・キャンバス	
サー・ジョン・エヴァレット・ミレイ	自画像		エッチング・紙	
サー・ジョン・エヴァレット・ミレイ	ジェームズ・クラーク・フックの肖像		エッチング・紙	
サー・エドワード・コラー・バーン＝ジョーンズ	フローラ	1868-84	油彩・キャンバス	
アルバート・ジョゼフ・ムーア	黄色いマーガレット	1881	油彩・キャンバス	
ジェームズ・アボット・マクニール・ホイッスラー	寝床での読書	1858	エッチング・紙	
ジェームズ・アボット・マクニール・ホイッスラー	ランプの明かりでの読書	1858-59	エッチング、ドライポイント・紙	
オーブリー・ビアズリー	ジュゼッペ・ヴェルディ		写真製版・紙	
オーブリー・ビアズリー	レジャース		写真製版・紙	
オーブリー・ビアズリー	レジャース	1893-94	ラインブロック・紙	

展示室2 もうひとつの「芳」の系譜

歌川国芳には70人にも及ぶ門人がいたと伝えられますが、浮世絵師として一門の隆盛を支えた芳年等とは異なる系譜に連なった画家たちを、同時代に活躍した画家らと合わせて紹介します。

五姓田芳柳は、弟子に「芳」の字を与えて自らも国芳門下を誇っていましたが、新しい画風の習得を試み、息子・義松には西洋の表現を学ばせるなど、近代美術黎明期に

大きな足跡を残しました。彼の元からは「芳」の字を継いだ者ばかりでなく、多くの門人が育ちました。

芳柳が活躍した横浜は、居留地として発展した都市独特の雰囲気がいまも伝わっています。この地で外国人の土産物として描かれたいわゆる横浜絵の絵師となった中山年次は、芳年の弟子として、やはり「芳」の系譜に連なる画家ということができます。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
五姓田 芳柳	風俗図屏風		水彩・紙/六曲一隻屏風
五姓田 芳柳	六美人図		水彩・絹
山本 芳翠	園田銚像	1885(明治18)	油彩・キャンバス
山本 芳翠	菊と燕と蝸牛		油彩・キャンバス、板
五姓田 義松	婦人像	1871(明治4)頃	油彩・キャンバス
五姓田 義松	園田御令嬢肖像	1902(明治35)	コンテ・紙

作者名	作品名	制作年	技法・材質
五姓田 芳柳(二世)	清国渡航	1901(明治34)	水彩・紙
五姓田 芳柳(二世)	月の瀬・奥の谷		水彩・紙
五姓田 芳柳(二世)	妙義山第一門		水彩・紙
五姓田 芳柳(二世)	街道風景(信濃追分)		水彩・紙
五姓田 芳柳(二世)	風景		水彩・紙
山内 愚仙	風景		水彩・紙
中山 年次	日本風俗 I		水彩・絹
中山 年次	日本風俗 II		水彩・絹
チャールズ・ワグマン	西洋紳士スケッチの図	1870年代	油彩・スケッチボード
チャールズ・ワグマン	ふたりの日本女性		水彩・紙
チャールズ・ワグマン	座る日本女性		水彩・紙
高橋 由一	風景(鳥海山)	1880年代	油彩・キャンバス
亀井 至一	『観古図説 陶器之部一』 (著述者出版人蜷川式胤、石版画師亀井至一、製造所玄々堂)	1876(明治9)	石版、手彩色、一部卵白引き・紙/本
亀井 至一	『観古図説 陶器之部四』 (著述者出版人蜷川式胤、石版画師亀井至一、製造所玄々堂)	1877(明治10)	石版、手彩色、一部卵白引き・紙/本
亀井 至一	美人	1894(明治27)	石版・紙 秋本倫子氏寄贈
亀井 至一	東京隅田堤之景	1882(明治15)	石版・紙
亀井 至一	五姓田義松像 玄々堂人物写生帳より		水彩・紙 亀井よし子氏寄贈
亀井 至一	亀井家伝来資料より 素描10点		水彩・紙 佐藤家兄弟寄贈
亀井 竹二郎	石版『懐古東海道五十三驛真景』油彩原画より 草津驛 姥ヶ餅屋 土山驛 松ノ尾川 關駅 地藏堂 四日市驛 燈明臺 池鯉鮒驛 明神社 二川驛 岩谷観音 舞阪驛 自渡口望荒井 鳥田驛 吉原驛 暁霧望富士山 戸塚驛 神奈川驛 川崎驛 六合川眺望	1877-78(明治10-11)	油彩・紙

展示室3 郷土ゆかりの美術

当館では、郷土ゆかりの美術を作品収集の柱のひとつとして展示しています。そのなかで今回は、令和元年度と2年度、新たに収集された作品を中心に展示します。

花鳥画を得意とし、中国に渡って日中の美術交流と発展に寄与した渡邊晨畝、近代の南画界で活躍し、静かで味わい深い作風に到達した湯田玉水。長期間フランスを

拠点に活動した土橋醇は、洗練された色彩と、鉄板などを用いた技法が特徴的な抽象表現を生み出しました。田口安男は、イタリア留学中に会った古典技法、黄金背景テンペラなどの熱心な技法研究によって自らの作品に新たな展開をもたらしました。郷土が生んだ作家とその関係作家の作品をご覧ください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
渡邊 晨畝	鷹		絹本着色 齋藤哲生氏寄贈
渡邊 晨畝	松上に鶴		絹本着色
湯田 玉水	冬村図	1921(大正10)	絹本墨画
湯田 玉水	ぶどうに栗鼠	1921(大正10)	紙本墨画
湯田 玉水	夏		紙本墨彩
鎌田 正蔵	鳥が落ちる	1986(昭和61)	アクリル・キャンバス
鎌田 正蔵	ロボット家族(B)	1982(昭和57)	アクリル・キャンバス
土橋 醇	生きている夜	1973(昭和48)	油彩・キャンバス 土橋千鶴子氏寄贈
土橋 醇	星の幻想B	1975(昭和50)	油彩、鉄板・板 土橋千鶴子氏寄贈
土橋 醇	喜望の星(幻想の星)	1977(昭和52)	油彩、水彩・紙 土橋千鶴子氏寄贈
土橋 醇	無題	1978(昭和53)	油彩、鉄板・板 土橋千鶴子氏寄贈
田口 安男	鉢・ひも・手	1956(昭和31)	油彩・キャンバス 田口安男氏寄贈
田口 安男	手繰り出す眼	1965(昭和40)	油彩・キャンバス 田口安男氏寄贈
田口 安男	波から焔へA	1987(昭和62)	油彩、テンペラ・キャンバス 田口安男氏寄贈
田口 安男	波から焔へB	1987(昭和62)	油彩、テンペラ・キャンバス 田口安男氏寄贈
田口 安男	白いトルソー呼ー	2007(平成19)	テンペラ・パネル
秋山 泰計	仮面	1972(昭和47)	木版・紙 1988年秋山泰計遺作管理会刷
秋山 泰計	Yaoyorozoo・八百萬	1985(昭和60)	木版・紙 1987年秋山泰計遺作管理会刷

展示室4-① 西洋版 地獄めぐりーダンテ『神曲』

西暦1300年4月、聖木曜日の晩、イタリアの詩人ダンテ・アリギエーリは地獄と煉獄、天国をめぐる彼岸の旅に出ます。この旅路は、ダンテが自身を主人公として『神曲』に著しており、後世の多くの芸術家を惹きつけました。

19世紀イギリスの芸術家では、ウェッジウッドのデザインで知られる彫刻家、ジョン・フラクスマンが輪郭線

のみですっきりと描くことで、この旅路の精神性を強調しました。一方、「幻視者」ウィリアム・ブレイクによる地獄篇は、その対極ともいえる熱量をはらみながらも、おなじく現実から離れたヴィジョンを表しています。

今年はちょうどダンテ没後700年です。この機会に版画をたどって、日本の地獄とは一味違うヨーロッパの地獄めぐってみませんか。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
ウィリアム・ブレイク	ダンテの『神曲』のための連作より 愛欲者の圏谷：パオロとフランチェスカ	1826-27	エングレーヴィング・紙
サー・エドワード・コリー・バーン＝ジョーンズ	風と共に（『フラワー・ブック』より）	1905	リトグラフ・紙/ポートフォリオ
ウィリアム・ブレイク	ダンテの『神曲』のための連作より 腐敗した役人の圏谷：チャンポロを痛めつける悪魔	1826-27	エングレーヴィング、ドライポイント・紙
	腐敗した役人の圏谷：互いに引き裂き合う悪魔	1826-27	エングレーヴィング・紙
	盗人たちの圏谷：六本足の蛇に襲われるアニュエロ・ブルネレスキ	1826-27	エングレーヴィング、ドライポイント・紙
	盗人たちの圏谷：蛇に襲われたプロオゾ	1826-27	エングレーヴィング、ドライポイント・紙
	偽造者たちの圏谷：悪臭に鼻を覆うダンテとウエルギリウス	1826-27	エングレーヴィング、ドライポイント・紙
	背信者たちの圏谷：ボッカ・デリ・アパーティを踏みつけるダンテの足	1826-27	エングレーヴィング、ドライポイント・紙
ジョン・フラクスマン原画、トマーゾ・ビロリ版刻	ダンテ『神曲』より 「ウゴリーノ伯の死」	1793	エングレーヴィング・紙/本
ジョン・マーティン	ミルトン『失楽園』(第1巻)より 謀反の天使たちの墮落	1825-27	メゾチント・紙/本
ジョン・マーティン	墜落した天使たちを呼び覚ますサタン	1825	メゾチント・紙
ジョン・マーティン	ミルトン『失楽園』(第2巻)より イヴを誘惑するサタン	1825-27	メゾチント・紙/本
ウィリアム・ブレイク	『ヨブ記』挿絵より 扉絵	1825	エングレーヴィング・紙/ポートフォリオ
	神の玉座の前のサタン	1825	エングレーヴィング・紙/ポートフォリオ
	サタンによるヨブの息子たちと娘たちの破滅	1825	エングレーヴィング・紙/ポートフォリオ
	主の御前から進んで行くサタンとヨブの施し	1825	エングレーヴィング・紙/ポートフォリオ
	腫物でヨブを撃つサタン	1825	エングレーヴィング・紙/ポートフォリオ
	3人の友によって難詰されるヨブ	1825	エングレーヴィング・紙/ポートフォリオ

展示室4-② 魅せるテーブルウェア

日々の生活の中で用いられる道具たちは、さまざまなシーンでくらしを豊かに彩る役割も果たしています。本来工芸作品には、人々の眼を愉しませるような色やかたち、質感などと同時に実用性が求められます。すぐれた作品には、作家の個性のみならず、卓抜した技と機能美に応じたデザインがみごとに調和しているのです。

今回は、郡山市出身のガラス工芸家佐藤潤四郎、イギ

リス19世紀末の工芸デザイナー、クリストファー・ドレッサーのコレクションから、テーブルウェアを特集します。中には、時代の流れとともに現在ではほとんどみることがなくなった道具類も含まれています。実際に手にした時の感触や使い心地、食のシーンなどを想像しながらご覧ください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
佐藤 潤四郎	オリンピックブルー硝子皿	1941(昭和16)頃	ガラス/宙吹	石井謙治氏寄贈
佐藤 潤四郎	『スーパーニッカ』手吹きボトル	1962(昭和37)頃	ガラス/宙吹	川崎清氏寄贈
佐藤 潤四郎	オブジェ・羊車	1980-82(昭和55-57)頃	ガラス/宙吹・プランツ	
佐藤 潤四郎	ルーマー杯・大好きな形		ガラス/宙吹・プランツ	
佐藤 潤四郎	ルーマー杯・なみなみのワインを		ガラス/宙吹・グラヴェール、プランツ	
佐藤 潤四郎	花器(グリーン)		ガラス/宙吹	
佐藤 潤四郎	植物文瓶		ガラス/宙吹・グラヴェール	
佐藤 潤四郎	灰皿		ガラス/型押し	
佐藤 潤四郎	竹に雀文ワイングラス		ガラス/宙吹・グラヴェール、プランツ	佐藤久枝氏寄贈
佐藤 潤四郎	タンブラー(20点)		ガラス/型吹ほか	佐藤久枝氏寄贈
佐藤 潤四郎	ブルー花器		ガラス/宙吹	
佐藤 潤四郎	ボウル(グリーン)		ガラス/宙吹き	
佐藤 潤四郎	タンブラー(スモークグラス)(2点組)		ガラス/宙吹き	
佐藤 潤四郎	アイスクリーム皿		ガラス/宙吹き	大方竜子氏寄贈
クリストファー・ドレッサー	トースト・ラック(ポイントアーチ型)	1879	金属、電気メッキ	
クリストファー・ドレッサー	トースト・ラック(青海波)	1879-82頃	金属、電気メッキ	

作者名	作品名	制作年	技法・材質
クリストファー・ドレッサー	青緑釉水差	1879-82頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	トースト・ラック	1881	金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	柳編み把手付きダブル・バスケット	1881	金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	トースト・ラック(楕円型)	1881	金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	塩入れとスプーン	1884	銀
クリストファー・ドレッサー	銀製ティー・セット	1885	銀、象牙、金メッキ
クリストファー・ドレッサー	色絵花模様大皿	1886	陶器
クリストファー・ドレッサー	色絵花模様皿とボウルのセット	1886	陶器
クリストファー・ドレッサー	黄緑釉水差(一対)	1892-95頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	黄緑釉アールヌーヴォー風装飾文皿	1892-95頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	刻文舟形容器	1892-95頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	クラレットジャグ(ぶどう酒用容器)		ガラス、金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	クラレットジャグ、黒檀把手(ぶどう酒用容器)		ガラス、金属、電気メッキ、黒檀把手
クリストファー・ドレッサー	蓋つきスープ入れ		金属、電気メッキ、黒檀把手
クリストファー・ドレッサー	ナイフとフォークのセット		金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	ケトルとケトルスタンド		真鍮、銅
クリストファー・ドレッサー	六角型薬味入れセット		ガラス、金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	スプーン・ウォーマー		金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	柳編み把手付きケトル		金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	蓋付きバスケット、黒檀把手		金属、銀メッキ、黒檀把手
クリストファー・ドレッサー	デカンター・セット(栓付き細首ぶどう酒瓶)		ガラス、金属金具、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	彩色金彩花模様水差		磁器
クリストファー・ドレッサー	染付鳥波濤文把手付鉢		磁器

ロビー展示 彫刻・他

作者名	作品名	制作年	技法・材質
●1階			
笠置季男	躍進	1958(昭和33)	セメント
アントニー・ゴームリー	量子雲XXIII	2000	ステンレス・スチール棒
アントニー・ゴームリー	領域XIII	2000	ステンレス・スチール棒
●2階展示ロビー			
アリストテイド・マイヨール	もの思い	1930	ブロンズ 大高善二郎氏寄贈
北村四海	井冰鹿の娘	1917(大正6)	大理石
植木 茂	体		木
堀内正和	顔	1955(昭和30)	鉄、セメント
●前庭			
バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ



第1期 常設展示室1



第1期 常設展示室2



第1期 常設展示室3



第1期 常設展示室4

令和3年度 第2期 令和3年7月21日～10月3日

展示室1 小特集：イギリスの彫刻家たち

ヘンリー・ムーア(1898-1986)とバーバラ・ヘップワース(1903-1975)は、20世紀のイギリスを代表する彫刻家です。ふたりは、1920年にリーズ芸術大学で出会い、ともにセヴン・アンド・ファイヴ・ソサイエティやユニット・ワンといった気鋭の芸術家グループに参加し、お互いに影響を与える存在でした。

そのユーモラスなかたちから「じゃが芋と割り箸の彫刻」と評されたケネス・アーミテイジ(1916-2002)もま

たムーアやヘップワースと同じリーズ芸術大学で学んだ彫刻家の一人です。彼は彫刻のみならず、版画や素描においても優れた作品を残しています。

ロンドンに生まれ、現在も活動を続けているアントニー・ゴームリー(1950-)は、自らの身体を型取った人体彫刻で知られ、現代のイギリス彫刻界をリードしています。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
ケネス・アーミテイジ	孤独な木(白い幹) No.54	1975	鉛筆、クレヨン、コラーージュ・紙 (榎カサハラ画廊寄贈)
ケネス・アーミテイジ	リッチモンド・オーク	1975	エッチング・紙 (榎カサハラ画廊寄贈)
ケネス・アーミテイジ	リッチモンド・オーク(2本の木)	1977	エッチング・紙 (榎カサハラ画廊寄贈)
ケネス・アーミテイジ	立っている人物	1971	フォトエッチング・紙 (榎カサハラ画廊寄贈)
ケネス・アーミテイジ	走っている少女と手すり	1974	エッチング・紙 (榎カサハラ画廊寄贈)
ケネス・アーミテイジ	走っているグループ(a)	1973	鉛筆、グワッシュ、コラーージュ・紙 (榎カサハラ画廊寄贈)
ケネス・アーミテイジ	2人の人物	1971	木炭、グワッシュ、コラーージュ・紙 (榎カサハラ画廊寄贈)
デイル・バーバラ・ヘップワース	ふたつのフォルム、青	1958	油彩・ボード
デイル・バーバラ・ヘップワース	オルフェウス(マケット2)	1956	真鍮、糸
デイル・バーバラ・ヘップワース	石柱(パヴァーヌ)	1953	油彩・パネル
ヘンリー・ムーア	『ストーン・ヘンジ』より 「バランスを保つ楣石」「空にそびえる」	1974	リトグラフ・紙/ポートフォリオ
ヘンリー・ムーア	座る人体：スカート	1980	ブロンズ
ヘンリー・ムーア	『スカulptチャー・アイデア』 V	1980	エッチング、アクアチント・紙/ポートフォリオ(7点組)
ヘンリー・ムーア	『スカulptチャー・アイデア』 VI	1980	エッチング、アクアチント・紙/ポートフォリオ(7点組)
アントニー・ゴームリー	領域 XIII	2000	ステンレス・スチール棒
アントニー・ゴームリー	量子雲 XXIII	2000	ステンレス・スチール棒
アントニー・ゴームリー	量子雲	2000	アニリン塗料・紙(3枚組)
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンバス
サー・エドワード・コリー・バーン＝ジョーンズ	フローラ	1868-84	油彩・キャンバス

展示室2 洋画上洛！—京都洋画と浅井忠

明治35(1902)年、フランス帰りの洋画家 浅井忠は、東京美術学校(現 東京藝術大学)教授の職を辞し、京都高等工芸学校(現 京都工芸繊維大学)教授として京都に移り住みました。浅井の入洛により、京都洋画壇は大いに活気づきます。浅井は京都にあった洋画塾をまとめあげ、自邸での聖護院洋画研究所の開設を経て、明治39(1906)年に関西美術院を開院します。関西美術院では、初代院

長の浅井のもと、伊藤快彦と都鳥英喜、鹿子木孟郎が教授となって、安井曾太郎、梅原龍三郎など日本の次代を担う若き洋画家を指導しました。

ここでは、浅井上洛前夜の京都洋画の黎明期から関西美術院ゆかりの画家の戦前までの活躍に焦点を当て、日本近代洋画史に残るその足跡を辿ります。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
山内 愚仙	風景		水彩・紙
伊藤 快彦	夏の静物		油彩・板
伊藤 快彦	子供像		油彩・キャンバス
浅井 忠	収穫	1893(明治26)	油彩・紙、板
浅井 忠	少女の顔	1878(明治11)	木炭・紙
浅井 忠	足尾村	1884(明治17)	インク・紙
鹿子木 孟郎	水車小屋		水彩・紙
鹿子木 孟郎	綾瀬		水彩・紙
小川 千甕	サン・ドニ風景	1913(大正2)	水彩・紙
梅原 龍三郎	静物		油彩・キャンバス
安井 曾太郎	初秋の北京	1944(昭和19)	油彩・キャンバス
安井 曾太郎	早春		水彩・紙
安井 曾太郎	公園風景	1928(昭和13)	水彩・紙
安井 曾太郎	バルコニーより		鉛筆・紙
榎原 一廣	塔の見える風景	1924(大正13)	油彩・キャンバス

作者名	作品名	制作年	技法・材質
斎藤 与里	海辺秋景	1937(昭和12)頃	油彩・キャンバス
石井 柏亭	ピサ	1911(明治44)	水彩・紙
石井 柏亭	江村(中川奥戸)	1936(昭和11)	水彩・紙
間部 時雄	洛北の秋	1907(明治40)	油彩・板
間部 時雄	カーニュにて	1923(大正12)	油彩・スケッチボード
前川 千帆	『書巻版画帖十連聚 其四 新野外小品』(アオイ書房)より「高原」	1942(昭和17)	木版・紙／本
前川 千帆	『版芸術』第4号(白と黒社)より「小品」	1932(昭和7)	木版・紙／本
河合 新蔵	ノウゼンカズラのある宿場		水彩・紙
河合 新蔵	武州五日市の雪景		水彩・紙
里見 勝蔵	軍人	1927(昭和2)	油彩・キャンバス
林 重義	顔(自画像)		油彩・キャンバスボード 武田光司コレクション寄贈

展示室3 日本の前衛・画家の試み

昭和前期、シュルレアリスムや抽象絵画という海外で20世紀に誕生した新しい芸術運動や絵画表現が日本に紹介されました。若い芸術家たちは、それらに敏感に反応して、次々に新しい実験と創造を繰り返しました。

戦後の日本美術は、戦前から活躍していた彼らを中心

にして再出発します。本格的に国際化の時代になり、表現方法の上でもさまざまな試みが行われました。1950年代後半には日本においてアンフォルメル旋風が巻き起こり、その力強い特異な表現は注目を集めました。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
瑛九	構図	1957(昭和32)	吹付・合板 武田光司コレクション寄贈
菅井 汲	黒	1959(昭和34)	油彩・キャンバス
佐藤 昭一	作品61	1961(昭和36)	油彩、パテ・キャンバス 佐藤昭一氏寄贈
土橋 醇	タルヌ峡谷のコンポジション	1957(昭和32)	油彩・キャンバス
白木 正一	予感	1955(昭和30)	油彩・キャンバス
早瀬 龍江	營	1940(昭和15)	油彩・キャンバス
鎌田 正蔵	白日夢	1938(昭和13)	油彩・キャンバス 鎌田正蔵氏寄贈
芳賀 忠行	虚構の風景—城	1974(昭和49)	油彩・キャンバス
杉全 直	ふたりの肖像	1949(昭和24)	油彩・キャンバス
村井 正誠	いそぐ人	1956(昭和31)	油彩・キャンバス
難波田 龍起	建物の構成	1954(昭和29)	油彩・キャンバス
堂本 尚郎	1962-18(二元的なアンサンブル)	1962(昭和37)	油彩・キャンバス
勝呂 忠	渾沌	1954(昭和29)	油彩・キャンバス
尾藤 豊	川口鑄物	1954(昭和29)	油彩・キャンバス
佐藤 昭一	コンポジション	1959(昭和34)	油彩・キャンバス
田淵 安一	ラ・セーヴ(樹の精)	1957(昭和32)	油彩・キャンバス

展示室4 ① 版画と福島

福島県出身の版画家には、渡辺光徳(須賀川市、1887-1945)、斎藤清(会津坂下町、1907-1997)、福田利秋(白河市、1911-2000)、岩谷徹(郡山市、1936-)、安部直人(耶麻郡塩川町、1952-)らがいます。郡山ゆかりの画家、土橋醇(1910-1978)は油彩画の制作と並行して、版画でも独自の抽象表現を展開しました。

また、福島 naturally 文化に魅せられて、森田恒友(1881

-1933)や石井柏亭(1882-1958)など画壇を牽引する画家たちが滞在、多くの作品を遺すとともに、当地の美術活動に影響を与えました。福島が生んだ版画家の到達した表現や、福島固有の気候風土が呼び集めた作家たちによる風景描写をとおして、版画と福島の風趣に富んだ魅力をご紹介します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
山本 芳翠	磐梯山噴火真図	1888(明治21)	木口木版・紙
森田 恒友	『日本風景版画 第二集 会津之部』(日本風景版画会)表紙	1917(大正6)	木版・紙／ポートフォリオ
森田 恒友	『日本風景版画 第二集 会津之部』(日本風景版画会)より 若松城跡	1917(大正6)	木版・紙／ポートフォリオ
森田 恒友	『日本風景版画 第二集 会津之部』(日本風景版画会)より 阿賀川	1917(大正6)	木版・紙／ポートフォリオ
森田 恒友	『日本風景版画 第二集 会津之部』(日本風景版画会)より 桧原湖畔	1917(大正6)	木版・紙／ポートフォリオ
森田 恒友	『日本風景版画 第二集 会津之部』(日本風景版画会)より 川上温泉	1917(大正6)	木版・紙／ポートフォリオ
森田 恒友	『日本風景版画 第二集 会津之部』(日本風景版画会)より 磐梯山麓小湖	1917(大正6)	木版・紙／ポートフォリオ
石井 柏亭	『日本風景版画 第一集 北陸之部』(日本風景版画会)表紙	1917(大正6)	木版・紙／ポートフォリオ
石井 柏亭	『日本風景版画 第一集 北陸之部』(日本風景版画会)より 能登字出津港	1917(大正6)	木版・紙／ポートフォリオ

作者名	作品名	制作年	技法・材質
前川 千帆	『書窓版画帖十連聚 其四 新野外小品』(アオイ書房)より「山峡」	1942(昭和17)	木版・紙／本
渡辺 光徳	すか川なべし橋	1925(大正14)	エッチング・紙
福田 利秋	磐梯山	1980(昭和55)	木版・紙 福田利秋氏寄贈
福田 利秋	蝶	1975(昭和50)	木版・紙 福田利秋氏寄贈
福田 利秋	茜雲	1976(昭和51)	木版・紙 福田利秋氏寄贈
岩谷 徹	赤い魚(小)	1983(昭和58)	メゾチント・紙
岩谷 徹	赤い魚(大)	1976(昭和51)	メゾチント・紙
岩谷 徹	夏の思い出	1976(昭和51)	メゾチント・紙
岩谷 徹	秋の山	1984(昭和59)	メゾチント・紙
岩谷 徹	二聖人同舟	1984(昭和59)	メゾチント・紙
安部 直人	黎明	1991(平成3)	エッチング、メゾチント・紙
安部 直人	胎芽III	1994(平成6)	エッチング、メゾチント・紙
土橋 醇	無題(墨)	1962(昭和37)	リトグラフ・紙
土橋 醇	無題(多色)	1960(昭和35)	リトグラフ・紙
土橋 醇	無題(墨、青)		リトグラフ・紙
斎藤 清	ノートルダム、パリ	1974(昭和49)	木版・紙
斎藤 清	珊瑚	1955(昭和30)	木版・紙

展示室4-② 佐藤潤四郎のガラス

郡山市出身のガラス工芸家、佐藤潤四郎(1907-1988)は、魚や仏足跡といった鑑賞を目的としたオブジェを制作していますが、花器やタンブラーなど実用的な用途をもった作品も残っています。なかでも、『スーパーニッカ』は、「温かいガラス」「柔らかなガラス」といわれる潤四郎デザインの象徴として位置づけられます。

当館では、これまで所蔵していた『スーパーニッカ』の初号モデルのほかに、1964(昭和39)年の東京オリンピック開催を記念した、五輪マークのカラーによる特別モデルを令和2年度に収蔵しました。

オリンピックイヤーにちなみ、東京五輪1964モデルを常設展示室でお披露目します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
佐藤 潤四郎	スタンドグラス・仏足跡		ガラス、鉄 佐藤久枝氏寄贈
佐藤 潤四郎	スタンドグラス・窯		ガラス、鉄 佐藤久枝氏寄贈
佐藤 潤四郎	オブジェ・羊車	1980-82(昭和55-57)頃	ガラス／宙吹・プランツ
佐藤 潤四郎	オブジェ・これ以上芽の出ない世界	1980-82(昭和55-57)頃	ガラス／宙吹
佐藤 潤四郎	竹に雀文ワイングラス		ガラス／宙吹・グラヴェール、プランツ 佐藤久枝氏寄贈
佐藤 潤四郎	オリンピックブルー硝子皿	1941(昭和16)頃	ガラス／宙吹 石井謙治氏寄贈
佐藤 潤四郎	手吹きウイスキーボトル(スーパーニッカ)東京五輪1964モデル・赤	1964(昭和39)頃	ガラス／宙吹 ニッカウキスキー(株)寄贈
佐藤 潤四郎	手吹きウイスキーボトル(スーパーニッカ)東京五輪1964モデル・緑	1964(昭和39)頃	ガラス／宙吹 ニッカウキスキー(株)寄贈
佐藤 潤四郎	手吹きウイスキーボトル(スーパーニッカ)東京五輪1964モデル・黒	1964(昭和39)頃	ガラス／宙吹 ニッカウキスキー(株)寄贈
佐藤 潤四郎	手吹きウイスキーボトル(スーパーニッカ)東京五輪1964モデル・黄	1964(昭和39)頃	ガラス／宙吹 ニッカウキスキー(株)寄贈
佐藤 潤四郎	手吹きウイスキーボトル(スーパーニッカ)東京五輪1964モデル・青	1964(昭和39)頃	ガラス／宙吹 ニッカウキスキー(株)寄贈
佐藤 潤四郎	クリスタル六角鉢		ガラス／宙吹
佐藤 潤四郎	鍛鉄吹込花器(顔)	1986(昭和61)	ガラス、鉄／鍛鉄吹込
佐藤 潤四郎	鍛鉄吹込花器(グリーン)	1986(昭和61)	ガラス、鉄／鍛鉄吹込
佐藤 潤四郎	魚(ブルー)	1973-76(昭和48-51)頃	ガラス／宙吹・カレット封入
佐藤 潤四郎	魚(オレンジ)	1973-76(昭和48-51)頃	ガラス／宙吹・カレット封入
佐藤 潤四郎	花器(カレット入り)		ガラス／宙吹・カレット封入
佐藤 潤四郎	アイスクリーム皿		ガラス／宙吹き 大方竜子氏寄贈
佐藤 潤四郎	ウイスキーボトル「インベリアル」		ガラス／機械吹き・カット サントリー(株)寄贈
佐藤 潤四郎	『スーパーニッカ』手吹きボトル	1962(昭和37)頃	ガラス／宙吹 川崎清氏寄贈
佐藤 潤四郎	花器(グリーン)		ガラス／宙吹
佐藤 潤四郎	ブルー花器		ガラス／宙吹
佐藤 潤四郎	灰皿		ガラス／型押し
佐藤 潤四郎	花器・一寸考えて		ガラス／宙吹

ロビー展示 彫刻・他

作者名	作品名	制作年	技法・材質
● 1階 笠置季男	躍進	1958(昭和33)	セメント
● 2階展示ロビー 舟越保武	少女	1956(昭和31)	砂岩
北村四海	井冰鹿の娘	1917(大正6)	大理石
佐藤忠良	群馬の人	1952(昭和27)	ブロンズ
堀内正和	顔	1955(昭和30)	鉄、セメント
● 前庭 バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ



第2期 常設展示室1



第2期 常設展示室4

展示室1 イギリス美術のイギリス性

18世紀は、イギリス美術がヨーロッパ大陸とは異なる「イギリスらしさ」を追求した転換期でした。それまでイギリスは外国から来た画家たちが勢力をふるい、国内の画家たちは活躍の場を失っていました。

その停滞を打開したのがウィリアム・ホガース(1697-1764)です。彼はイギリスが新教国であり、教会から宗教画制作の依頼が少ないことを逆にとり、人間観察に

よって生み出される肖像画や風刺画に活路を見いだしたのです。

そして、鋭い観察眼は風景にも向けられました。霧が多く、天候の移ろいやすいイギリス独自の風景を、ターナー(1775-1851)、コンスタブル(1776-1837)らがとらえようとしてきました。

独自の展開をみせたイギリス美術をご紹介します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
ウィリアム・ホガース	美の分析 I	1753	エッチング・紙
ウィリアム・ホガース	美の分析 II	1753	エッチング・紙
ウィリアム・ホガース	『当世風結婚』(6点組)	1745	エッチング・紙
ウィリアム・ホガース	サミュエル・マーティンの肖像	1758-60頃	油彩・キャンバス
トマス・ゲインズボロ	オース夫人の肖像	1767	油彩・キャンバス
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンバス
サー・ジョシュア・レイノルズ	キティ・フィッシャーの肖像習作	1760-62頃	油彩・キャンバス
サー・トマス・ローレンス	ラビー・ウィリアムズ牧師	1790年代初頭	油彩・キャンバス
トマス・ゲインズボロ	荷馬車のいる丘陵地帯の森の風景	1745-46頃	油彩・キャンバス
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カンバーランド州のコールダー・ブリッジ	1810	油彩・キャンバス
ジョン・コンスタブル	デダムの谷	1802	油彩・紙、キャンバス
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	エディスタン灯台	1824	メゾチント・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カレー沖の釣船(ドーバー海峡)	1830	メゾチント・紙
ジョン・コンスタブル	虹、ソールズベリー大聖堂	1834-7	メゾチント・紙
サー・エドワード・コッリー・バーン＝ジョーンズ	フローラ	1868-84	油彩・キャンバス

展示室2 美の明治：工部美術学校と東京美術学校

明治新政府が設置した工部美術学校は、西欧の製図や印刷の技術を学ぶ、実用を目的とした美術教育を目指していました。西洋画の指導を任されたイタリア人画家・フォンタネージは、基礎的な技法を教えると同時に、写實的に描くだけでなく、情趣を効果的に伝えることの大切さを説き、日本の西洋画芸術の萌芽を促します。一方、明治20年代末に設置された東京美術学校西洋画科で

は、日清戦争後の自由主義や個人主義の風潮に後押しされて、内面を表現する芸術性を重視した考え方が主流となってゆきました。

ここでは、工部美術学校の画学生たちと東京美術学校の西洋画科教師たちの作品を中心に、日本近代西洋画の流れを概観します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
伝 岡村 政子	板垣伯之肖像 ※『時事新報』明治24年6月8日第3044号付録 信陽堂(石印)	1891(明治24)	石版・紙
小山 正太郎	日本パノラマ館日清戦争図のためのパノラマ図解		木版、手彩色・紙 大谷芳久氏寄贈
小山 正太郎	庚申山、山寺	1884(明治17)頃	鉛筆・紙
小山 正太郎	「両国烟火」	1890(明治23)	石版・紙
小山 正太郎	「品川湾秋月」	1890(明治23)	石版・紙
小山 正太郎	「愛宕山晚眺」	1890(明治23)	石版・紙
守住 勇魚	住吉神社之真景	1879(明治12)頃	石版・紙
疋田 敬蔵	北海道小樽港有幌之景	1881(明治14)	石版・紙
岡村 政子	仙女伏姫幽窟において読経の図	1889(明治22)	石版、手彩色・紙
岡村 政子	みなつる姫 ※酒井鈴子(石画者)信陽堂(印刷)	1889(明治22)	石版、手彩色・紙
浅井 忠	綾瀬川付近	1885(明治18)	墨・紙
浅井 忠	収穫	1893(明治26)	油彩・紙、板
五姓田 義松	婦人像	1871(明治4)頃	油彩・キャンバス
山本 芳翠	園田銚像	1885(明治18)	油彩・キャンバス
山本 芳翠	菊と燕と蝸牛		油彩・キャンバス、板
黒田 清輝	東久世伯肖像エスキース	1894(明治27)	油彩・キャンバス
黒田 清輝	旅順砲台突貫之圖 ※合田清(刻)『北国新聞』明治31年12月1日第1926号付録	1898(明治31)	木口木版・紙
小坂 象堂	釈迦と賤婦之図	1895-99(明治28-32)頃	岩絵具・絹／軸
岡田 三郎助	ゆびわ ※『大阪時事新報』明治41年1月1日第1023号付録	1908(明治41)	石版・紙

作者名	作品名	制作年	技法・材質
和田 英作	こだま ※『時事新報』明治37年1月1日第7243号付録	1904(明治37)	石版・紙
和田 英作	上総風景	1897(明治30)	油彩・キャンバス
藤島 武二	がくの花	1901(明治34)	油彩・キャンバス
小林 万吾	朽葉の袖	1907(明治40)	油彩・キャンバス
松田 義之	樹蔭	1937(昭和12)	エッチング・紙
南 薫造	郊外の小道		水彩・紙
南 薫造	京城、景福宮建春門	1925(大正14)	油彩・板
安井 曾太郎	初秋の北京	1944(昭和19)	油彩・キャンバス
梅原 龍三郎	静物		油彩・キャンバス

展示室3 大集合！形が楽しい絵画たち

戦中期から現代まで激しく複雑に変化してきた社会情勢は、芸術家に美術そのものの在り方を問いただし、現実世界の再現という従来の枠組みを超えた、先鋭的な表現が次々と生み出されました。芸術の中心フランス、そしてアメリカで登場したシュールレアリスム(超現実主義)や抽象表現主義などの最新の美術潮流は、日本やイギリスにおいても個性豊かに発展します。

重層的な線や色面の重なり、あるいは単純化されたフォルムなどで描かれた作品には、自身の内面世界、社会への言い知れぬ不安、さらには絵画という二次元上での表現の可能性を追求する姿勢が表れています。日本とイギリスの絵画から、形の妙を感じさせる作品をご紹介します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
ヴィクター・パスモア	ワインレッド(version 1)	1964	レリーフペインティング、パネル・紙
ウィリアム・スコット	水さしの詩 No.14	1980	油彩・キャンバス (株)カサハラ画廊寄贈
ベン・ニコルソン	水差しと楕円形	1973	オイルウォッシュ、鉛筆・紙、木製ボード
リチャード・ゴーマン	フラット(『ナイン・ペインティングス』より)	2000	油彩・キャンバス
難波田 龍起	建物の構成	1954(昭和29)	油彩・キャンバス
古賀 春江	蝸牛のいる田舎	1928(昭和3)	油彩・キャンバス
菅井 汲	黒	1959(昭和34)	油彩・キャンバス
勝呂 忠	作品(イーD)	1962(昭和37)	油彩、樹脂・キャンバス 勝呂忠氏寄贈
平澤 熊一	発芽	1938(昭和13)頃	油彩・板 平澤三之助氏寄贈
平澤 熊一	建築物と月	1950年代	油彩・キャンバス 平澤三之助氏寄贈
今西 中通	抽象	1936-38(昭和11-13)頃	水彩・紙
瑛九	作品10	1939(昭和14)	エアブラシ、水彩・紙
瑛九	作品1	1935(昭和10)	水彩・紙
瑛九	作品23	1959(昭和34)	インク、フェルトペン、カットアウト・紙
瑛九	作品4		クレヨン・紙
池田 満寿夫	コラージュ	1968(昭和43)	コラージュ、グワッシュ・紙
駒井 哲郎	コレクション・ド・ラ・メール1		水彩・紙
駒井 哲郎	コレクション・ド・ラ・メール2		水彩・紙
鶴岡 政男	ひとりぼっち		パステル、色鉛筆・紙
山口 長男	コラージュ I	1950-51(昭和25-26)	コラージュ・紙
山口 長男	コラージュ II	1950-51(昭和25-26)	コラージュ・紙
草間 彌生	無題	1954(昭和29)	水彩、インク・紙
佐藤 昭一	廃坑	1956(昭和31)	油彩・キャンバス 佐藤昭一氏寄贈
鎌田 正蔵	作品		油彩・キャンバス 鎌田正蔵氏寄贈
白木 正一	ポイント	1955(昭和30)	油彩、エナメル・キャンバス
野地 正記	○の顔	1975-77(昭和50-52)	水彩・紙 野地友子氏寄贈
野地 正記	遊び	1968-70(昭和43-45)	水彩・紙 野地友子氏寄贈
池田 龍雄	化物の系譜シリーズ『像』	1956(昭和31)	インク、コンテ・紙



第3期 常設展示室1 見学風景



第3期 常設展示室2 鑑賞風景

展示室 4 - ① 版画で旅する日本

山や海といった美しい自然の風景、歴史に彩られた神社仏閣などは芸術家たちに大きなインスピレーションを与えてきました。絵画作品はさることながら、版画においても浮世絵の「名所絵」をはじめとして、さまざまな名所風景が描かれてきました。江戸時代後期には西洋から銅版画の技術が伝えられ、江戸や京都の名所が描かれた版画は旅の土産物としての役割を果たすようになりま

す。生活様式が変わりつつある現在、私たちはなかなか遠くへ出かける「旅」ができていないです。美術館の中では存分に「旅」を楽しんでいただけるよう、ここでは明治の銅版画を中心に、版画の中に描き出された各地の風景をご紹介します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
梅川 夏北	大日本國掌覽全圖	1846(弘化3)	銅版・紙
松本 保居	大日本豊秋津洲一望之圖		銅版・紙
松田 龍山	大日本輿地略圖		銅版・紙
岡田 春燈斎	江戸上野東叡山花盛		銅版・紙
岡田 春燈斎	江戸両国橋大納涼		銅版・紙
岡田 春燈斎	江戸名所 水道橋雪之景		銅版・紙
橋本 澄月	江戸神田明神社内風景		銅版・紙
橋本 澄月	江戸上野東叡山花見之景		銅版・紙
松田 緑山	東京佃嶋遠望商船入津川蒸気出帆之圖		銅版・紙
岡田 春燈斎	江戸八勝景		銅版・紙
岡田 春燈斎	祇園石鳥居		銅版・紙
松田 緑山	東本願寺御堂風景		銅版・紙
松田 緑山	音羽山清水寺之春細図		銅版・紙
岡田 春燈斎	太秦廣隆寺		銅版・紙
松本 保居	洛北金閣寺		銅版・紙
石田 有年	洛北銀閣寺(『京都名所五十景』より)	1891(明治24)	銅版・紙
松田 龍山	日本三景其一奥州松島風景	1863(文久3)	銅版・紙
松田 緑山	陸奥東海金華山正面圖	1865(元治2)	銅版・紙
岡田 春燈斎	相州鎌倉鶴ヶ岡八幡宮社前之風景		銅版・紙
岡田 春燈斎	相州江之嶋風景		銅版・紙
打田 霞山	大阪名所天保山之風景		銅版・紙
松田 緑山	高野山八勝景		銅版・紙
松田 緑山	比叡山四明嶽ヨリ琵琶湖八勝一望圖		銅版・紙
岡田 春燈斎	伊勢古市踊之図		銅版・紙
玄々堂	伊勢太々御神楽之盃觴		銅版・紙
太田 節次	江の島真景	1893(明治26)	石版・手彩色・紙
村井 罷之助	亀井戸天満宮真景(『東京名所』(有山定次郎版)より)	1883(明治16)	石版・紙
作者不詳	谷中天王寺景(『東京名所』(渡辺忠久版)より)	1890(明治23)	石版・紙
作者不詳	赤坂御所(『東京名所』(渡辺忠久版)より)	1890(明治23)	石版・紙
福宮 源治郎	東京上野公園之景	1885(明治18)	石版・手彩色・紙
二神 純孝	ニコライ堂(『西洋画譜』(第一秩)東京真景(第一)より)	1890(明治23)	石版・紙
水野 孤芳	日光神橋之図	1887(明治20)	石版・手彩色・紙
作者不詳	日光東照宮鳥居(『日光名所』(渡辺忠久版)より)	1891(明治24)	石版・紙
作者不詳	日光夜叉門(『日光名所』(渡辺忠久版)より)	1891(明治24)	石版・紙
蔭山 文僊	尾張国名古屋城真景	1879(明治12)	石版・紙
ウイルヘルム・ハイネ	下田浴場図(『ベルリ日本遠征記』挿絵)	1856(安政3)	石版・紙
石井 柏亭	加賀山中温泉(『日本風景版画 第一集 北陸之部』より)	1917(大正6)	木版・紙/ポートフォリオ
石井 柏亭	能登和倉温泉(『日本風景版画 第一集 北陸之部』より)	1917(大正6)	木版・紙/ポートフォリオ
前川 千帆	別府明礬温泉(『H A N G A 第三輯』より)	1924(大正13)	木版・紙/ポートフォリオ
前川 千帆	温泉(『白と黒 第四号』)	1937(昭和12)	木版・紙/本
武藤 完一	別府温泉(『版芸術 創刊号』)	1932(昭和7)	木版・紙/本
織田 一磨	本郷龍岡町(『東京風景』より)	1917(大正6)	リトグラフ・紙
畦地 梅太郎	上高地		木版・紙
小杉 未醒	首里古城(『日本風景版画 第七集 琉球之部』より)	1918(大正7)	木版・紙/ポートフォリオ
福田 利秋	金沢兼六園	1988(昭和63)	木版・紙 福田利秋氏寄贈
福田 利秋	室蘭にて	1960(昭和35)	木版・紙 福田利秋氏寄贈
秋山 泰計	成増風景	1963(昭和38)	木版・紙 1987年秋山泰計遺作管理会副

展示室4-② 暮らしのなかの工芸

機能が追及された美しい器や道具たちは、それぞれの用途で活躍するとともに、私たちの暮らしを豊かに彩ってくれます。

郡山市出身のガラス工芸家である佐藤潤四郎(1907-1988)は、手になじむかたちにこだわったぬくもりあるデザインと、丁寧な手仕事による味わい深い作品を数多く生み出しました。クリストファー・ドレッサー(1834-

1904)は、モダン・デザインの先駆けとなる重要な仕事を遺したイギリスの工業デザイナーです。機能美と造形美が調和する洗練されたデザインの製品を、富裕層のみならず広く一般に普及させることにも貢献しました。

日々の生活空間を演出する作品の数々を、使い心地を想像しつつお楽しみください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
佐藤 潤四郎	ステンドグラス・仏足跡		ガラス、鉄
佐藤 潤四郎	ステンドグラス・窯		ガラス、鉄
クリストファー・ドレッサー	ケトルとスタンド		真鍮、銅
クリストファー・ドレッサー	緑釉サラダボウル(サーバー付き)	1879-82頃	陶器、金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	スプーン・ウォーマー		金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	スプーン・ウォーマー		金属、電気メッキ、黒檀把手
クリストファー・ドレッサー	塩入れとスプーン	1884	銀
クリストファー・ドレッサー	シュガー・バスケット(穴あきふるい付き)	1884	金属、銀メッキ
クリストファー・ドレッサー	トースト・ラック(青海波)	1879-82頃	金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	彩色金彩ロータス文大皿		陶器
クリストファー・ドレッサー	クラレットジャグ(ぶどう酒用容器)		ガラス、金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	クラレットジャグ(ぶどう酒用容器)		ガラス、金属、電気メッキ
佐藤 潤四郎	タンブラー(5点)		ガラス/型吹ほか
佐藤 潤四郎	ルーマー杯・なみなみのワインを		ガラス/宙吹・グラヴェール、プランツ
佐藤 潤四郎	花器・一寸考えて		ガラス/宙吹
佐藤 潤四郎	花器・何をしようか	1986(昭和16)	ガラス/宙吹
佐藤 潤四郎	瓶・ガラスの神様		ガラス/宙吹・グラヴェール、プランツ
各務 鑛三	クリスタル花瓶《鱗影》	1970(昭和45)頃	ガラス/宙吹・気泡封入、グラヴェール
吉田 丈夫	クリスタル瓶《瓢》		ガラス/宙吹
クリストファー・ドレッサー	花瓶(緑色クルーサ・ガラス)		ガラス
クリストファー・ドレッサー	花瓶(赤色クルーサ・ガラス)		ガラス
クリストファー・ドレッサー	ローマン瓶(緑色クルーサ・ガラス)		ガラス
クリストファー・ドレッサー	緑釉植物刻文花瓶	1892-95頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	緑釉把手付花瓶	1879-82頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	緑釉刻文花瓶	1879-82頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	ファイヤードッグ(暖炉の薪台)		真鍮
クリストファー・ドレッサー	真鍮製燭台(一対)		真鍮
クリストファー・ドレッサー	紅地緑釉壺	1879-82頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	緑釉球形花生	1892-95頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	紅地彩釉壺	1879-82頃	陶器
バーナード・リーチ	白磁魚絵皿	1961	磁器
バーナード・リーチ	鉄絵碗		陶器

ロビー展示 彫刻・他

作者名	作品名	制作年	技法・材質
●1階			
アントニー・ゴームリー	領域 XIII	2000	ステンレス・スチール棒
アントニー・ゴームリー	量子雲 XXIII	2000	ステンレス・スチール棒
笠置季男	躍進	1958(昭和33)	セメント
●2階展示ロビー			
舟越保武	少女	1956(昭和31)	砂岩
北村四海	井冰鹿の娘	1917(大正6)	大理石
佐藤忠良	群馬の人	1952(昭和27)	ブロンズ
堀内正和	顔	1955(昭和30)	鉄、セメント
●前庭			
バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ

令和3年度 第4期 令和4年2月11日～4月24日

展示室1 小特集：イギリス—水彩画への誘い

水彩画は四季の変化に富み自然に恵まれたイギリスで発達しました。水彩画自体は昔から多くの画家たちによって描かれていましたが、主に油彩画のための習作やデッサンのために使用されていたに過ぎませんでした。しかし、18世紀後半から19世紀にかけて、イギリスではカズ

ンズ父子、サンドビー、ガーティン、ターナーなどの優れた水彩画家を多数輩出し、水彩画が美術の一つのジャンルとして確立されます。今回は、繊細かつ緻密な彩色が施されたイギリスの水彩画をご紹介します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
ポール・サンドビー	ウォーリック城シーザー塔	1778-82	水彩、インク・紙
トマス・ローランドソン	ヘント付近、ローエン駅に着く馬車	1790代	水彩・紙
アレクサンダー・カズンズ	川岸に神殿のある風景		水彩・紙
ジョン・ロバート・カズンズ	サヴォワ地方、サランシュ附近のアルプス溪谷		水彩・紙
ジョン・ヴァーレー	ポントシスリット・アクアダクト	1826	水彩・紙
トマス・ガーティン	エクセター大聖堂	1798頃	水彩・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	サン・ゴタル峠の下り道	1848	水彩・紙
トマス・マイルズ・リチャードソン・ジュニア	コンウェイ城の日没	1855	水彩・紙
ピーター・デ・ウィント	ウィットビー		水彩・紙
ジョン・セル・コットマン	ルーアン、ラ・ピュセル広場のブルトルルド館	1823	水彩・紙
デイヴィッド・コックス	川辺の騎手と人物	1850	水彩、鉛筆、チョーク・紙
リチャード・ウィルソン	キケロの別荘		油彩・キャンバス
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カンバーランド州のコールダー・ブリッジ	1810	油彩・キャンバス
ジョン・コンスタブル	デダムの谷	1802	油彩・紙、キャンバス
サー・エドワード・コーリー・パーン＝ジョーンズ	フローラ	1868-84	油彩・キャンバス
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンバス
ジョン・ウィリアム・ウォーターハウス	フローラ		油彩・キャンバス

展示室2 西洋に学んだ画家たち

明治時代、多くの画家が西洋絵画を学びに、パリをはじめヨーロッパの各都市に留学しました。そのなかのひとり、五姓田義松は、1880(明治13)年にフランスに旅立ち、翌年のサロンでは、日本人初となる入選の快挙をたしました。

留学した画家のなかには、フランス美術の巨匠から直接学んだ日本人もいます。梅原龍三郎はルノワールから、中山巍はヴラマンクから指導を受けました。

ここでは、当館コレクションのなかから、西洋に学んだ日本人画家を紹介します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
黒田 清輝	東久世伯爵肖像エスキース	1894(明治27)	油彩・キャンバス
五姓田 義松	園田御令嬢肖像	1902(明治35)	コンテ・紙
五姓田 義松	婦人像	1871(明治4)頃	油彩・キャンバス
和田 英作	上総風景	1897(明治30)	油彩・キャンバス
鹿子木 孟郎	水車小屋		水彩・紙
満谷 国四郎	冬	1922(大正11)	油彩・キャンバス
安井 曾太郎	初秋の北京	1944(昭和19)	油彩・キャンバス
梅原 龍三郎	静物		油彩・キャンバス
山本 芳翠	園田銚像	1885(明治18)	油彩・キャンバス
藤島 武二	「耕到天」習作	1936(昭和11)	油彩・キャンバス
斎藤 豊作	風景	1912(明治45)	油彩・キャンバス
里見 勝蔵	軍人	1927(昭和2)	油彩・キャンバス
中山 巍	赤ジレ座婦	1927(昭和2)	油彩・キャンバス
中山 巍	花鳥B	1934(昭和9)	油彩・キャンバス
内田 巖	首飾りの女	1937(昭和12)頃	油彩・キャンバス
土橋 醇	イル・ド・フランス	1956(昭和31)	油彩・キャンバス

武田光司コレクション寄贈

展示室3 今日の立体アート

1950年代以降、伝統的な彫刻とは違ったありようを示しながら、三次元の空間に新たな表現を展開しようとする作家たちが現われました。

イギリス彫刻の騎手として活躍したバーバラ・ヘップワースは、幾何学的かつ有機的な抽象作品を石や金属を用いて制作しました。イギリス美術界を牽引するトニー・クラッグは、プラスチックや廃材などを複合させ、

具象的なイメージを生み出しています。様々な金属線を駆使して可動する作品を制作する西野康造は、重力を意識した緻密な作品を手がけています。

自然と社会と人との関わりを主題とし、素材への深い探究心に裏打ちされた彼らの作品は、私たちに新鮮な視覚体験と思索の時をもたらしてくれます。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
バーバラ・ヘップワース	オルフェウス(マケット2)	1956	真鍮、糸
トニー・クラッグ	山と湖	1984	木
西野康造	翼の森	2019(令和元)	ステンレス、鉄
西野康造	ホルン	1986(昭和61)	ステンレス
クリスト	日本とアメリカ合衆国とによる共同計画 アンブレラ(青)	1987	鉛筆、木炭、クレヨン、パステル、地図、 エナメル塗装・紙
クリスト	日本とアメリカ合衆国とによる共同計画 アンブレラ(黄)	1987	鉛筆、木炭、クレヨン、パステル、地図、 エナメル塗装・紙

展示室4-① 美しい本の世界

イギリスでは18世紀末、トマス・ビューイック(1753-1828)によって木口木版が開拓されました。木を輪切りに切り出した版木は、密度が高く細密な描写が可能であり、耐久性に優れた凸版になるため活字と同時に刷ることができ、木口木版による挿絵は盛んに書物を飾るようになります。

19世紀末から20世紀前半には、理想の書物づくりを目

指し、ウィリアム・モリス(1834-1896)が設立したケルムスコット・プレスをはじめとする私家版印刷工房から、多くの詩集や物語集が出版されました。大量生産文化の到来を前に、芸術家たちの丁寧な手仕事によって、貴重な美しい書物が生み出されたのです。

装丁、挿絵、活字、レイアウトなど、書物に広がる芸術世界をお楽しみください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
トマス・ビューイック(画・刻)	『四足獣概説』	1790	木口木版/本
トマス・ビューイック(画・刻)	『英国鳥類誌 第2巻 水鳥編』	1804	木口木版/本
トマス・ビューイック(画・刻)	『イソップ寓話集』	1818	木口木版/本
ディエル兄弟(刻)	『イギリス風景画集』	1863	木口木版/本
ディエル兄弟(刻)	W.ワーズワース『詩集』	1859	木口木版/本
トマス・ガーティン他(画)	リンカーン州の名所風景	1797-1801	ライン・エングレーヴィング/本
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー(画)	S.ロジャーズ『詩集』第1巻		ライン・エングレーヴィング/本
ジョン・レイトン(画・刻)	J.キーブル『教会暦年』		エッチング/本
ディエル兄弟他(刻)	A.テニスン『詩集』	1859	木口木版/本
ディエル兄弟(刻)	R.ブキャナン『北海岸と詩』	1868	木口木版/本
ディエル兄弟(刻)	『救世主イエス・キリストの寓話』	1864	木口木版/本
ディエル兄弟(刻)	J.インジェロー他『家庭の思想と情景』	1865	木口木版/本
ディエル兄弟(刻)	R. A.ウィルモット編『英国宗教詩集』	1863	木口木版/本
リュシアン・ピサロ(画)	C.ペロー『眠れる美女と赤ずきん』	1899	木口木版/本
アーサー・ジョセフ・ギヤスキ(画)	S.ベアリング・グールド編『童話集』	1895	木口木版/本
ウィリアム・ブラウン・マクドゥーガル(画)	J.キーツ『イザベラ(バジルの壺)』	1898	木口木版/本
サー・エドワード・コリー・バーン=ジョーンズ(画)	W.モリス『世界の果ての泉』	1896	木口木版/本
サー・エドワード・コリー・バーン=ジョーンズ(画)	F.エリス編纂『ジェフリー・チョーサー作品集』	1896	木口木版/本
ジョゼフ・クロホール(画・刻)	『古風な版画集』	1889	木口木版、手彩色/本
ジョゼフ・クロホール(画・刻)	『クロホールの呼売本の花冠』	1883	木口木版、手彩色/本
ウィリアム・ニコルソン(画)	『ロンドン・タイプス』	1898	リトグラフ/本
クレア・ペロニカ・ホープ・レイトン(画・刻)	『四つの生け垣』	1935	木口木版/本
オーブリー・ピアズリー	『ピエロ・ライブラリー』表紙見返しデザイン	1896	ラインブロック
オーブリー・ピアズリー	『イエロー・ブック』第5巻表紙デザイン	1895	ラインブロック
オーブリー・ピアズリー	おまえの口に口づけしたよ、ヨカーン (オスカー・ワイルド『サロメ』挿絵)	1893	ラインブロック
エリック・ギル(画・刻)	『四福音書』	1931	木口木版/本
エリック・ギル	磔刑	1931	木口木版
エリック・ギル	降架	1931	木口木版
ロバート・ギビングス(画・刻)	L.ボウイス『生命の栄光』	1934	木口木版/本
【参考出品】ロバート・ギビングス	L.ボウイス『生命の栄光』版木		
ロバート・ギビングス(画・刻)	『獣と聖者』プルーフ集 より	1934頃	木口木版

展示室4-② 素材とかたち

成形した粘土を焼いて作る陶磁器は、自在にかたちを作ることができ、釉薬によって色や表情を加えたり、絵付けによって細かい絵柄を入れることもできます。ガラスは高温では液状になることから、成形しながら色や模様といった変化を生むことができ、何よりも透明性という魅力的な特徴を持つ素材です。金属は薄く曲げることができる、輝きを持つという魅力があります。今回は、

クリストファー・ドレッサーの作品を中心に、こうした素材とかたちの関係をご覧ください。

佐藤潤四郎の作品では、鍛鉄吹込作品を特集展示します。また合わせて、日本と関係の深いバーナード・リーチと、一緒に活動した浜田庄司のやきもの作品をお楽しみください。

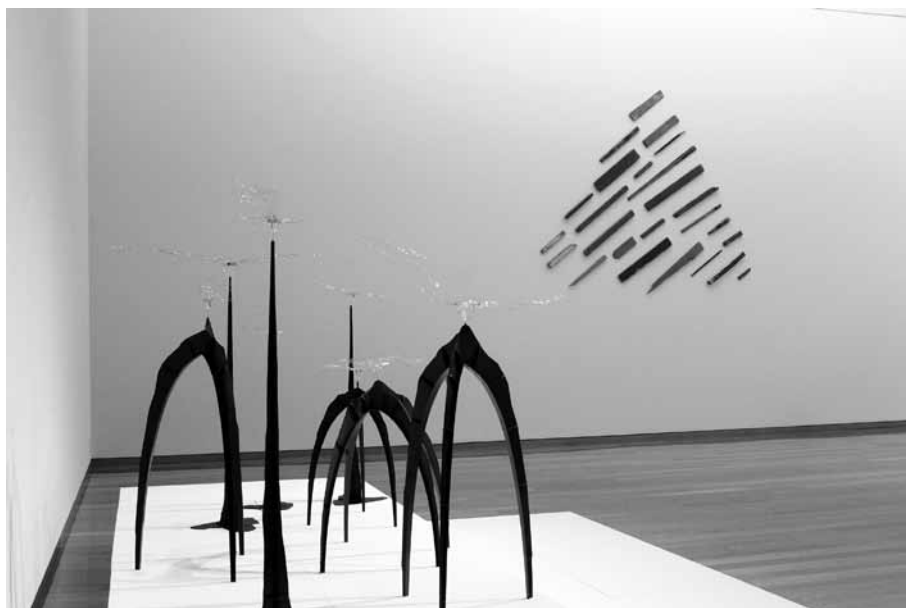
作者名	作品名	制作年	技法・材質
クリストファー・ドレッサー	把手付き燭台		真鍮、木製把手
クリストファー・ドレッサー	真鍮製燭台(一対)		真鍮
クリストファー・ドレッサー	ケトルとスタンド		銅、真鍮、鍛鉄
クリストファー・ドレッサー	刻文舟形容器	1892-95頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	青緑釉水差	1879-82頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	青釉水差	1879-82頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	黄緑釉水差(一対)	1892-95頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	紅地線文把手付花瓶(一対)	1892-95頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	緑釉球形花生	1892-95頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	うに形容器	1879-82頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	紅地彩釉壺	1879-82頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	紅地緑釉壺	1879-82頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	水差し「ラクダの背」	1879-82頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	褐釉瓢箪型花瓶	1879-82頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	緑釉刻文花瓶	1879-82頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	色絵蝶花模様瓢箪形壺	1892-95頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	色絵花模様大皿	1886	陶器
クリストファー・ドレッサー	色絵花模様隅切角皿(4枚)	1886	陶器
クリストファー・ドレッサー	花瓶(赤色クルーサ・ガラス)		ガラス
クリストファー・ドレッサー	瓶(淡緑色クルーサ・ガラス)		ガラス
クリストファー・ドレッサー	瓶(茶色クルーサ・ガラス)		ガラス
クリストファー・ドレッサー	瓶(緑色クルーサ・ガラス)		ガラス
クリストファー・ドレッサー	プロペラ瓶(緑色クルーサ・ガラス)		ガラス
クリストファー・ドレッサー	ローマン瓶(緑色クルーサ・ガラス)		ガラス
クリストファー・ドレッサー	花瓶(緑色クルーサ・ガラス)		ガラス
クリストファー・ドレッサー	花瓶(緑色クルーサ・ガラス)		ガラス
クリストファー・ドレッサー	トースト・ラック	1881	金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	トースト・ラック(楕円型)	1881	金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	トースト・ラック(ポイントアーチ型)	1879	金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	トースト・ラック(青海波)	1879-1882頃	金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	スプーン・ウォーマー		金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	柳編み把手付きダブル・バスケット	1881	金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	クラレットジャグ、黒檀把手(ぶどう酒用容器)		ガラス、金属、電気メッキ、黒檀把手
クリストファー・ドレッサー	クラレットジャグ(ぶどう酒用容器)		ガラス、金属、電気メッキ
バーナード・リーチ	鉄絵碗		陶器
バーナード・リーチ	白磁魚絵皿	1961	磁器
浜田 庄司	鉛釉花打茶碗		陶器
浜田 庄司	白釉鉄絵茶碗		ストーンウェア
浜田 庄司	黒釉鏝流描角皿		陶器 麻山富義氏寄贈
佐藤 潤四郎	鍛鉄吹込花器(グリーン)	1986(昭和61)	ガラス、鉄/鍛鉄吹込
佐藤 潤四郎	鍛鉄吹込花器(顔)	1986(昭和61)	ガラス、鉄/鍛鉄吹込
佐藤 潤四郎	鍛鉄吹込花器		ガラス、鉄/鍛鉄吹込・雲母封入
佐藤 潤四郎	鍛鉄吹込花器・灯もつけて	1986(昭和61)	ガラス、鉄/鍛鉄吹込

ロビー展示 彫刻・他

作者名	作品名	制作年	技法・材質
●1階			
アントニー・ゴームリー	領域XIII	2000	ステンレス・スチール棒
アントニー・ゴームリー	量子雲XXIII	2000	ステンレス・スチール棒
笠置季男	躍進	1958(昭和33)	セメント
●2階展示ロビー			
舟越保武	少女	1956(昭和31)	砂岩
アリスティード・マイヨール	もの思い	1930	ブロンズ 大高善二郎氏寄贈
北村四海	井冰鹿の娘	1917(大正6)	大理石
佐藤忠良	群馬の人	1952(昭和27)	ブロンズ
堀内正和	顔	1955(昭和30)	鉄、セメント
●前庭			
バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ



第4期 2階展示ロビー



第4期 常設展示室3

2) 企画展

挑む浮世絵 国芳から芳年へ

会 期:令和3年4月24日(土)～6月6日(日)

観 覧 料:一般800円(640)円

高校・大学生・65歳以上500(400)円

※()内は団体料金。中学生以下、障がい者手帳をお持ちの方は無料。

趣 旨

歌川国芳(1797-1861)は、ダイナミックな武者絵やユニークな戯画で、幕末期の衰えつつあった浮世絵界に新機軸を打ち出した“奇想の浮世絵師”として注目を集めていた。人情に厚く、生粋の江戸っ子であった国芳のもとには多くの弟子が集ったが、なかでも国芳から大きな影響を受けた絵師のひとりが、血みどろで残酷な場面を多く描き“最後の浮世絵師”と称される月岡芳年(1839-92)である。

本展では、幕末から明治にかけての激動の時代にあつて、旺盛な好奇心と柔軟な発想、豊かな表現力で新たな画題や描き方に挑戦し続けた国芳から芳年へ、さらには芳年とともに国芳門下の双璧をなした落合芳幾(1833-1904)らに受け継がれていった「芳」の系譜を紹介した。

関連行事

○講演会「国芳と芳年の『怪』と『快』」

講師:神谷 浩

(徳川美術館副館長兼学芸部長、元名古屋博物館副館長)

日時:令和3年5月3日(月・祝)午後2時から

場所:多目的スタジオ

○講演会「浮世絵末流の近代 芳年、年方から清方へ」

講師:篠原 聡(東海大学准教授)

日時:令和3年5月30日(日)午後2時から

場所:多目的スタジオ

○スライドトーク「国芳と芳年の画風」

講師:富岡進一(当館学芸員)

日時:令和3年5月16日(日)午後2時から

場所:多目的スタジオ

○スライドトーク「国芳一門の魅力」

講師:塚本敬介(当館学芸員)

日時:令和3年6月6日(日)午後2時から

場所:多目的スタジオ

発行物

『挑む浮世絵 国芳から芳年へ』

25.7×18.2cm 224ページ

発行日:平成31年2月

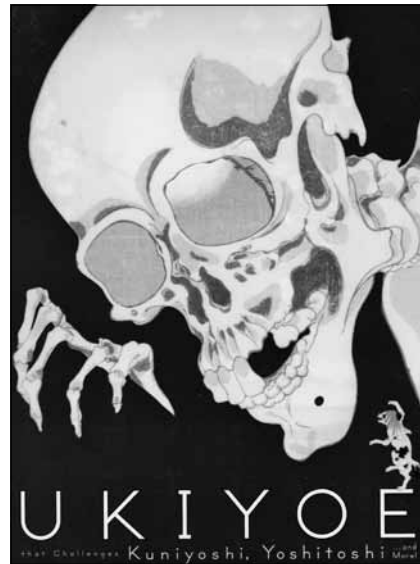
編集:名古屋市博物館、中日新聞社事業部

発行:中日新聞社

内容:謝辞/ごあいさつ/目次/「芳」の系譜/国芳と芳年の「快感」(神谷浩)/作品図版 1章 ヒーローに挑む/column_01「好き」をつらぬく/2章 怪奇に挑む/column_02 世界観を支える印刷技術/column_03 英名二十八衆句にみる交友/3章 人物に挑む/4章 話題に挑む/column_04 土蜘蛛インパクトの余波/終章「芳」ファミリー/作品解説/主要参考文献/年表/作品リスト



ポスター



図録

関連記事

「型破りな浮世絵並ぶ」、『福島民友』令和3年4月27日付。

塚本敬介「『芳』の浮世絵 受け継ぐ奇想 歌川国芳一門の系譜たどる」、『福島民友』令和3年5月12日付。

出品リスト

1章 ヒーローに挑む

No.	作者名	作品名	制作年代	判型(様式)
1	歌川国芳	通俗水滸伝豪傑百八人之一人 花和尚魯知深初名魯達	文政10年(1827)頃	大判
2	勝川春亭	源頼光酒呑童子退治	文政2年(1819)	大判三枚続
3	歌川国芳	大江山酒呑童子	嘉永4年(1851)	大判三枚続
4	歌川国芳	源頼光土蜘蛛退治	文政年間(1818~30)後期	大判三枚続
5	歌川国芳	朝比奈三郎鰐退治	嘉永2年(1849)	大判三枚続
6	歌川国芳	將軍太郎良門 蛙の力あらい	弘化元~3年(1844~46)	大判三枚続
7	歌川国芳	兇雷也と大蝦蟇	嘉永5年(1852)	大判三枚続
8	歌川国芳	龍宮玉取姫之図	嘉永6年(1853)	大判三枚続
9	歌川国芳	誠忠義士伝 六 吉田定右エ門兼貞	弘化4~嘉永元年(1847~48)	大判
10	歌川国芳	誠忠義士聞書之内 討入本望之図	嘉永5年(1852)	大判三枚続
11	歌川国芳	二十四孝童子鑑 楊香	天保14~弘化元年(1843~44)	大判
12	歌川国芳	源三位頼政鶴退治	文政年間(1818~30)後期	大判三枚続
13	歌川国芳	源三位頼政鶴退治	天保14年(1843)	大判三枚続
14	歌川国芳	宇治川合戦之図	弘化元~3年(1844~46)	大判三枚続
15	歌川国芳	宇治川合戦之図	嘉永2年(1849)	大判三枚続
16	歌川国芳	忠臣蔵十一段目 両国橋勢揃図	文政10年(1827)頃	大判三枚続
17	歌川国芳	八犬伝之内芳流閣	天保11年(1840)	大判三枚続
18	歌川国芳	列猛伝 源三位頼政	弘化2年(1845)頃	長大判
19	歌川国芳	列猛伝 宮本武三四	弘化2年(1845)頃	長大判
20	歌川国芳	真勇競 弁慶	弘化2年(1845)頃	長大判
21	歌川国芳	弁慶が勇力戯に三井寺の梵鐘を叡山へ引揚る図	弘化2~3年(1845~46)頃	大判三枚続
22	歌川国芳	吉野山合戦	嘉永4年(1851)頃	大判三枚続
23	月岡芳年	清玄墮落之図	明治22年(1889)	大判二枚続
24	歌川国芳	唐土廿四孝 閔子騫	嘉永年間(1848~54)	中判
25	歌川国芳	唐土廿四孝 董永	嘉永年間(1848~54)	中判
26	歌川国芳	和漢準源氏 乙女 天羅国班足王 悪狐萃陽夫人顯	安政2年(1855)	大判
27	歌川国芳	甲越川中島大合戦	嘉永5年(1852)	大判三枚続
28	歌川国芳	川中島合戦対陣図	弘化元~3年(1844~46)	大判三枚続
29	歌川芳宗	身延山合戦之図	嘉永2年(1849)	大判三枚続
30	歌川国芳	曾我致宗本意を達し右幕下の本陣へ切込捕はるゝ図 曾我夜討之図	弘化元~3年(1844~46)	大判六枚続
31	月岡芳年	敵ヶ原大合戦之図	明治元年(1868)	大判六枚続

2章 怪奇に挑む

No.	作者名	作品名	制作年代	判型(様式)
32	歌川国芳	相馬の古内裏	弘化2~3年(1845~46)頃	大判三枚続
33	歌川国芳	白井権八と亀菊 山中団九郎を討つ	弘化4~嘉永3年(1847~50)	大判三枚続
34	歌川国芳	誠忠義臣名々鏡 ち 堀部矢兵衛金丸	安政4年(1857)	大判
35		英名二十八衆句 目録	慶応3年(1867)	大判
36	月岡芳年	英名二十八衆句 勝間源五兵衛	慶応2年(1866)	大判
37	月岡芳年	英名二十八衆句 遠城喜八郎	慶応3年(1867)	大判
38	月岡芳年	英名二十八衆句 団七九郎兵衛	慶応2年(1866)	大判
39	月岡芳年	英名二十八衆句 御所五郎藏	慶応2年(1866)	大判
40	月岡芳年	英名二十八衆句 因果小僧六之助	慶応2年(1866)	大判
41	月岡芳年	英名二十八衆句 白井権八	慶応3年(1867)	大判

No.	作者名	作品名	制作年代	判型(様式)
42	月岡芳年	英名二十八衆句 福岡貢	慶応3年(1867)	大判
43	月岡芳年	英名二十八衆句 高倉屋助七	慶応3年(1867)	大判
44	月岡芳年	英名二十八衆句 姐妃の於百	慶応2年(1866)	大判
45	月岡芳年	英名二十八衆句 古手屋八郎兵衛	慶応3年(1867)	大判
46	月岡芳年	英名二十八衆句 稲田九藏新助	慶応3年(1867)	大判
47	月岡芳年	英名二十八衆句 直助権兵衛	慶応3年(1867)	大判
48	月岡芳年	英名二十八衆句 笠森於仙	慶応3年(1867)	大判
49	月岡芳年	英名二十八衆句 由留木素玄	慶応3年(1867)	大判
50	落合芳幾	英名二十八衆句 十木伝七	慶応2年(1866)	大判
51	落合芳幾	英名二十八衆句 遠城治左エ門	慶応3年(1867)	大判
52	落合芳幾	英名二十八衆句 鬼神於松	慶応3年(1867)	大判
53	落合芳幾	英名二十八衆句 げいしや美代吉	慶応3年(1867)	大判
54	落合芳幾	英名二十八衆句 佐野治郎左エ門	慶応3年(1867)	大判
55	落合芳幾	英名二十八衆句 邑井長庵	慶応3年(1867)	大判
56	落合芳幾	英名二十八衆句 天日坊法策	慶応2年(1866)	大判
57	落合芳幾	英名二十八衆句 国沢周治	慶応3年(1867)	大判
58	落合芳幾	英名二十八衆句 西門屋啓十郎	慶応3年(1867)	大判
59	落合芳幾	英名二十八衆句 春藤治郎左エ門	慶応3年(1867)	大判
60	落合芳幾	英名二十八衆句 鳥井又助	慶応3年(1867)	大判
61	落合芳幾	英名二十八衆句 鞠ヶ瀬秋夜	慶応3年(1867)	大判
62	落合芳幾	英名二十八衆句 仁木直則	慶応3年(1867)	大判
63	落合芳幾	英名二十八衆句 浜島正兵衛	慶応3年(1867)	大判
64	月岡芳年	東錦浮世稿談 幡随院長兵衛 神田伯勇	慶応3年(1867)	大判
65	月岡芳年	魁題百撰相 鬼小島弥太郎	明治元年(1868)	大判
66	歌川国芳	信州川中島百勇将戦之内 真田喜兵衛昌幸	天保14~弘化3年(1843~46)	大判

3章 人物に挑む

No.	作者名	作品名	制作年代	判型(様式)
67	歌川国芳	文月の七夕	天保年間(1830~44)中期	大判
68	歌川国芳	清月の月	天保年間(1830~44)中期	大判
69	歌川国芳	縞揃女弁慶 暦を見る美人	弘化元年(1844)	大判
70	歌川国芳	江戸じまん名物くらべ こま込のなす	弘化元~3年(1844~46)	中判
71	歌川国芳	大願成就有ケ瀧綺 文覚上人	弘化元~3年(1844~46)	大判
72	歌川国芳	註文御詠染 あいねつミ	嘉永5年(1852)	団扇絵判
73	歌川芳重	睦月 中万字屋内錦木	天保年間(1830~44)	大判
74	歌川芳員	稲本屋内小稲	安政年間(1854~60)頃	大判
75	歌川芳盛	当世夏景色	嘉永年間(1848~54)頃	大判
76	落合芳幾	新吉原角街稲本楼ヨリ仲之街仁和賀一覽之図	明治2年(1869)	大判三枚続
77	月岡芳年	古今比女鑑 秋色	明治8~9年(1875~76)	大判
78	月岡芳年	皇都会席別品鏡 久保町売茶亭 春本いく	明治11年(1878)	大判
79	歌川国芳	山海めでたいつゑ 十 天気にしたい 土佐鱈節	嘉永5年(1852)	大判
80	歌川国芳	山海愛度図会 五十七 はやく酔をさましたい 豊前小倉綺	嘉永5年(1852)	大判
81	月岡芳年	見立多以尽 おしやくがしたい	明治11年(1878)	大判
82	月岡芳年	見立多以尽 とりけしたい	明治11年(1878)	大判
83	月岡芳年	見立多以尽 洋行がしたい	明治11年(1878)	大判
84	月岡芳年	見立多以尽 手があらひたい	明治11年(1878)	大判
85	月岡芳年	風俗参十二相 かゆさう 嘉永年間 かこゐものの風ぞく	明治21年(1888)	大判
86	月岡芳年	風俗参十二相 暗さう 明治年間妻君の風俗	明治21年(1888)	大判
87	歌川国芳	織越大領政知	嘉永4年(1851)	大判二枚組のうち右
88	歌川国芳	四代目中村歌右衛門死絵	嘉永5年(1852)	大判

No.	作者名	作品名	制作年代	判型(様式)
89	歌川国芳	日本駄右エ門猫之古事	弘化4年(1847)	大判三枚続
90	歌川芳虎	蛭狩り	文久2年(1862)	大判
91	落合芳幾	第二番目 三題咄高座新作	文久3年(1863)	大判三枚続
92	落合芳幾	見立橋弁慶	慶応3年(1867)	大判三枚続
93	月岡芳年	二代目沢村訥升の前田利家 市川左団次の佐久間盛政 沢村源平の三法師君 五代目坂東彦三郎の羽柴秀吉 九代目市川團十郎の柴田勝家	明治9年(1876)	大判三枚続
94	歌川国芳	立美人図	天保年間(1830~44)中期	絹本着色
95	月岡芳年	文殊菩薩図	明治	絹本着色

4章 話題に挑む

No.	作者名	作品名	制作年代	判型(様式)
96	歌川国芳	としよりのよふな若い人だ	弘化4年(1847)頃	大判
97	歌川芳艶	見立忠義むすめ	弘化4~嘉永3年(1847~50)	大判
98	歌川国芳	流行猫の戯 身の臭姪色時	弘化4年(1847)頃	大判
99	伝歌川国芳 (遠浪斎重光か)	深見草獅子彩色	弘化4~嘉永元年(1847~48)	大判
100	歌川国芳	亀喜妙々	嘉永元年(1848)頃	大判三枚続
101	歌川国芳	源頼光公館土蜘蛛妖怪図	天保13~14年(1842~43)	大判三枚続
102	歌川国芳	駒くらべ盤上太平棋	天保14年(1843)	大判三枚続
103	歌川国芳	駒くらべ将棋のたはむれ はだか玉将・まってくんねへまたねへ、、、	天保14年(1843)頃	中判二丁掛
104	歌川国芳	流行逢都絵希代稀物	嘉永元年(1848)頃	大判三枚続
105	歌川国芳	浮世又平名画奇特	嘉永6年(1853)	大判二枚続
106	歌川国芳	里すゝめねぐらの仮宿	弘化3年(1846)	大判三枚続
107	歌川国芳	きたいなめい医難病療治	嘉永3年(1850)	大判三枚続
108	歌川芳虎	道外武者 御代の若餅	嘉永2年(1849)	大判
109	歌川国芳	二代目竹沢藤次曲独楽 九尾の狐三国渡	弘化元年(1844)	大判
110	歌川国芳	二代目竹沢藤次曲独楽 お岩稲荷	弘化元年(1844)	大判
111	歌川国芳	浅草奥山生人形	安政2年(1855)	大判二枚続
112	歌川国芳	当盛見立人形の内 二かい座敷の図	安政3年(1856)	大判二枚続
113	歌川芳虎	流行菊花揃 巢鴨通 植木屋弥三郎	弘化元年(1844)	大判
114	歌川芳盛	浅茅ヶ原一ツ家之古図 師匠之筆意ニ習らつて	安政2年(1855)	大判
115	歌川国芳	当盛見立人形之内 一ツ家之図	安政3年(1856)	大判二枚続
116	歌川国芳	安達原一ツ家之図	安政3年(1856)	大判二枚続
117	歌川国芳	観世音靈験	天保13年(1842)か	大判三枚続
118	歌川国芳	木曾街道六十九次之内 四十八 大久手 一ツ家老婆	嘉永5年(1852)	大判
119	月岡芳年	一魁隨筆 一ツ家老婆	明治5年(1872)	大判
120	月岡芳年	奥州安達がはらひとつ家の図	明治18年(1885)	大判竪二枚続
121	月岡芳年	月百姿 孤家月	明治23年(1890)	大判

終章 「芳」ファミリー

No.	作者名	作品名	制作年代	判型(様式)
122	歌川国芳	大物の浦平家の亡霊	嘉永2~4年(1849~51)	大判三枚続
123	歌川芳艶	為朝誉十傑 白縫姫 崇徳院	安政5年(1858)	大判三枚続
124	歌川芳艶	太平記焼山越之図	文久元年(1861)	大判三枚続
125	歌川芳艶	矢島海底図	文久元年(1861)	大判三枚続
126	歌川芳房	清盛布引滝遊覧義平霊難波討図	安政3年(1856)	大判三枚続
127	歌川芳員	頼光山中ニ妖怪見る図	嘉永2~4年(1849~51)	大判三枚続
128	歌川芳員	外国写真鏡之図	万延元年(1860)	大判
129	歌川芳藤	端午の節句	嘉永5年(1852)	大判
130	歌川芳藤	清正朝鮮国ヨリ日本ノ富士ヲ見ル図	明治20年(1887)	大判三枚続
131	歌川芳虎	肉芝道人蛙合戦	元治元年(1864)	大判三枚続

No.	作者名	作品名	制作年代	判型(様式)
132	歌川芳虎	鹿兒嶋の女軍隊力戦の図	明治10年(1877)	大判三枚続
133	落合芳幾	東京日々新聞 百十一号	明治7年(1874)	大判
134	落合芳幾	東京日々新聞 七百四十八号	明治7年(1874)	大判
135	月岡芳年	川中瀧大合戦	慶応2年(1866)	大判三枚続
136	月岡芳年	西郷隆盛切腹図	明治10年(1877)	大判三枚続
137	月岡芳年	一魁随筆 山姥 怪童丸	明治6年(1873)	大判
138	月岡芳年	名誉八行之内 孝 日野阿若丸	明治11年(1878)	大判
139	月岡芳年	大日本名将鑑 道臣命	明治13年(1880)	大判
140	月岡芳年	芳年略画 志渡の浦玉取鬘 雷公行水	明治15年(1882)	中判二丁掛
141	月岡芳年	東名所墨田川梅若之古事	明治16年(1883)	大判三枚続
142	月岡芳年	修紫田舎源氏	明治17年(1884)	大判三枚続
143	月岡芳年	祐天不動の長剣を呑む図	明治18年(1885)	大判三枚続
144	月岡芳年	新撰東錦絵 延命院日当話	明治18年(1885)	大判二枚続
145	月岡芳年	新撰東錦絵 生嶋新五郎之話	明治19年(1886)	大判二枚続
146	月岡芳年	月百姿 高倉月 長谷部信連	明治18年(1885)	大判
147	月岡芳年	月百姿 四条納涼	明治18年(1885)	大判
148	月岡芳年	月百姿 信仰の三日月 幸盛	明治19年(1886)	大判
149	月岡芳年	月百姿 吼噓	明治19年(1886)	大判
150	歌川国芳	浮世よしづ久志	弘化3～嘉永元年(1846～48)	大判二枚続

「好き」をつらぬく

No.	作者名	作品名	制作年代	判型(様式)
151	尾崎久弥著	『江戸軟派研究』第1編第1～19冊、『浮世絵と頹廢派』	大正11～13年(1922～24)、大正14年(1925)	一式
152	高木繁著	『武者絵の復活』および原稿	昭和13年(1938)	一式

※作品は、すべて名古屋市博物館蔵



挑む浮世絵 展示室



挑む浮世絵 展示室

「無言館」展 遺された絵画からのメッセージ

会 期:令和3年6月19日(土)～8月29日(日)
主 催:郡山市立美術館、朝日新聞社、福島放送
企画協力:無言館

観 覧 料:一般500円(400円)

高校・大学生・65歳以上300円(240円)

※()内は団体料金。中学生以下、障がい者手帳をお持ちの方は無料。

趣 旨

長野県上田市郊外にある戦没画学生の絵画を集めた美術館、無言館は1997(平成9)年5月2日に開館した。若くして戦争の犠牲になった画学生の作品ばかりで成り立つ無言館は、1994(平成6)年4月に、館主の窪島誠一郎が画家の野見山暁治とともに遺族のもとを訪ね歩くことから始まった。開館後もその調査と収集は続けられており、現在では130名の約700点が保管・展示されている。

彼らが遺した作品には、恋人や妻、故郷など日常的な風景が描かれている。だが、そこには既に絶筆になることを予想して、生きているその時間を噛みしめるように、ひたむきに制作している姿勢が感じられる。

戦後76年を迎え、戦争を語り継ぐ世代がますます少なくなってきた。画家への志半ばで戦地に赴いた若者たちが、「生きる証」として残した作品は、現代の私たちに何を問いかけるのか。未公開を含む戦没画学生たちの命の証、134点を展示した。

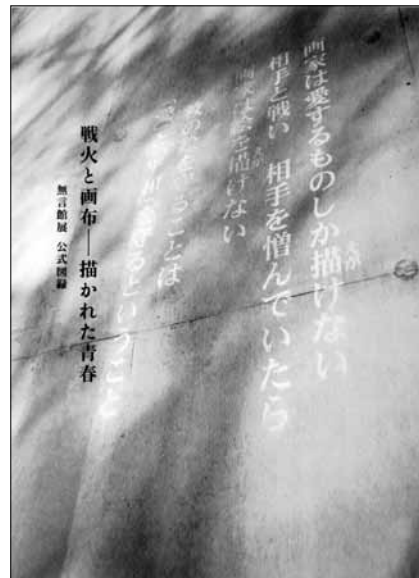
なお、本展は令和2年度4月29日(水)～6月9日(日)に予定されていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために中止となっていたもの。

関連行事

- 講演会「無言館のこと―戦没画学生が遺したもの」
講師:窪島誠一郎(無言館館主)
日時:令和3年8月15日(日)午後2時から
場所:多目的スタジオ
※8月19日(木)から、当日の録画を郡山市役所YouTubeチャンネルと当館Instagramで配信。
- スライドトーク「無言館―戦争と絵画」
講師:富岡進一(当館学芸員)
日時:令和3年7月3日(土)午後2時から
場所:多目的スタジオ
- スライドトーク「無言館の作家とその時代」
講師:杉原聡(当館学芸課長)
日時:令和3年7月17日(土)午後2時から
場所:多目的スタジオ
- スライドトーク「福島県と無言館の作家たち」
講師:菅野洋人(当館館長)
日時:令和3年8月9日(月・祝)午後2時から
場所:多目的スタジオ
- 映画会「青色の画布 十五歳 もうひとつの無言館」
日時:令和3年7月11日(日)午前11時から、午後2時から
場所:多目的スタジオ
- 映画会「二十歳の無言館」
日時:令和3年7月18日(日)午後2時から
場所:多目的スタジオ



ポスター



図録

発行物

『戦火と画布 描かれた青春 無言館展公式図録』

25.8×18.8cm 167ページ

発行日：令和2年4月

監修：戦没画学生慰霊美術館 無言館

編集・発行：朝日新聞社

内容：ごあいさつ／目次／「無言館」とは何か(窪島誠一郎)／戦いの場に消えて(野見山暁治)／図版「望郷」の章／「家族」の章／「自我」の章／「恋」の章／「夢」の章／出品作家 戦没地図／「無言館」の作家たちと戦前・戦中の前衛美術グループ(菅野洋人)／無言館展に寄せて(小松美羽)／作品リスト

関連記事

見崎浩一「無言館 特別展 きょうから郡山市立美術館」、『朝日新聞』福島県版、令和3年6月19日付。

「戦没画学生の遺作 「生きた証」を思う」、『福島民友』地域ワイド、令和3年6月23日付。

「戦没画学生の絵を展示 郡山市立美術館で企画展」、『福島民報』ワイド版、令和3年6月25日付。

高野裕樹「戦没画学生が遺した故郷、家族」、『福島民友』令和3年7月13日付。

「福島・郡山で「無言館」展」、菅野洋人「戦争を考える機会 若い人たちにぜひ」、『しんぶん 赤旗』令和3年8月9日付。

「戦争を知る世代 伝える義務ある」、『福島民報』投稿欄、令和3年8月12日付。

「「無言館」展 遺された絵画からのメッセージ」、『福島民友』令和3年8月13日付。

「知覧、無言館展で考える平和」、『福島民報』投稿欄、令和3年8月13日付。

菅野洋人「BOOKカフェ 八月がくるたびに」、『福島民友』令和3年8月14日付。

「平和を願う一助「無言館展」」、『福島民友』投稿欄、令和3年8月14日付。

真田裕久「論説 若者たちの夢」、『福島民報』令和3年8月14日付。

「平和願う活動続いてほしい」、『福島民報』投稿欄、令和3年8月14日付。

「もっともっと描きたかった」、「特集 遺された絵画からのメッセージ」、菅野洋人「生きていたらどんな絵描きになっていたか」、『日々の新聞』令和3年8月15日付。

「戦没画学生の絵 平和の尊さ思う」、『福島民報』令和3年8月18日付。

「画学生が残した作品に衝撃」、『福島民友』投稿欄、令和3年8月27日付。

「平和の大切さ 絵画展で実感」、『福島民報』投稿欄、令和3年9月7日付。

出品リスト

1 「望郷」の章

番号	作者	作品名	技法材質	制作年	寸法(mm)
1	椎野 修	屋根裏	油彩・板	1941	243×293
2	椎野 修	船小屋の茶店	油彩・画布	1941	220×275
3	椎野 修	春近し	油彩・画布	1944	335×460
4	椎野 修	島の道	油彩・画布	1938	320×410
5	曾宮俊一	風景	油彩・板		240×330
6	曾宮俊一	風景	油彩・画布		452×600
7	曾宮俊一	風景・山	油彩・画布		317×410
8	西岡健児郎	花	油彩・板		240×333
9	西岡健児郎	港湾風景	油彩・板		240×333
10	西岡健児郎	風景	油彩・板		242×334
11	西岡健児郎	家	油彩・板		240×330
12	岡田弘文	風景・山	油彩・画布	1940	216×270
13	岡田弘文	風景・海	油彩・画布		380×450
14	白澤龍生	風景	油彩・画布		405×530
15	白澤龍生	風景	油彩・画布		410×530
16	河口正喜	ふるさと	油彩・画布		532×655
17	河口正喜	帽子の少女	油彩・画布		912×644
18	片桐 彰	街	油彩・画布		655×530
19	片桐 彰	風景(根羽)	油彩・画布		380×455
20	岩田良二	故郷風景(病床にて)	水彩・紙		625×820
21	桑原喜八郎	寺の一隅	紙本着色		900×1070
22	桑原喜八郎	冬の山	鉛筆、水彩・紙		563×767

番号	作者	作品名	技法材質	制作年	寸法(mm)
23	近藤隆定	風景(大輪寺)	水彩・紙		210×295
24	近藤隆定	小諸ニテ鳥帽子岳ヲ望ム	水彩・紙	1941	335×515
25	近藤隆定	秃鶴(はげこう)	ブロンズ		660×270×400
26	佐藤 孝	風景	油彩・画布		335×455
27	佐藤 孝	山の風景	油彩・画布		410×530
28	佐藤 孝	風景	油彩・厚紙		239×332
29	中村萬平	風景	油彩・板		315×409
30	田中角治郎	初夏(井之頭公園)	油彩・画布	1932	655×910
31	岸田録郎	木立ちのある風景	油彩・画布		318×410
32	堀井正四	斜光	油彩・画布		502×605
33	岩村 實	風景	油彩・画布		410×533
34	坂本康男	風景	油彩・画布	1940	730×911

2 「家族」の章

番号	作者	作品名	技法材質	制作年	寸法(mm)
35	太田 章	風景	紙本着色		766×1051
36	太田 章	風景	紙本着色		920×1280
37	太田 章	妹の像	紙本着色	1941	1680×1270
38	原田 新	風景	油彩・画布		374×450
39	原田 新	妹・千枝子の像	油彩・画布		727×530
40	原田 新	自画像	油彩・画布	1936	453×379
41	原田 新	妹・悦子の像	油彩・画布		805×604
42	興梠 武	編みものする婦人	油彩・画布		728×535
43	伊澤 洋	我祖父像	油彩・画布		606×458
44	伊澤 洋	大平風景	油彩・板		240×330
45	益田卯咲	首里城風景	油彩・画布	1941	912×1168
46	益田卯咲	母と妹	油彩・画布	1940	728×609
47	益田卯咲	父・柳外の像	油彩・画布		529×458
48	山之井 龍朗・俊朗	少女(合作)	油彩・板	1941	333×242
49	山之井俊朗	父・豊蔵の像	油彩・画布		910×730
50	山之井俊朗	母・かめ於の像	油彩・画布	1942	910×725
51	桑田 一彦	自画像	油彩・画布	1940	532×406
52	桑田 一彦	妹・郁子の像	油彩・板		333×242
53	桑田 一彦	アネモネ	油彩・画布		723×600
54	中村良明	きょうだい	油彩・画布		1165×906
55	岸 二郎	母・つねの像	油彩・画布		445×382
56	岸 二郎	風景・金華山	油彩・板		241×334

3 「自我」の章

番号	作者	作品名	技法材質	制作年	寸法(mm)
57	日高安典	六つの林檎	油彩・画布		147×550
58	日高安典	自画像	油彩・板		301×239
59	日高安典	櫻島風景	油彩・板		354×784
60	日高安典	八月のホロンバイルの夕暮	油彩・画布		145×326
61	前田美千雄	風景(四月四日)	鉛筆、水彩・紙		256×361
62	吉田二三男	培風寮炊事場	コンテ・紙	1936	282×372
63	吉田二三男	風景・椎名町	油彩・板	1940	233×330
64	吉田二三男	風景	油彩・板	1942	237×331
65	梅澤一雄	自画像	油彩・画布		912×730

番号	作者	作品名	技法材質	制作年	寸法(mm)
66	渡辺 武	人々	油彩・画布	1941	915×730
67	渡辺 武	人物	油彩・画布		1000×805
68	五十嵐 弘	自画像	油彩・画布	1933	533×459
69	鶴頭盛次	自画像	油彩・板		329×239
70	野末恒三	風景	油彩・画布		910×1170
71	野末恒三	人物	油彩・画布		1165×910
72	伊藤守正	樹のある風景(入営前日に)	油彩・画布	1943	535×455
73	伊藤守正	自画像	油彩・板		330×238
74	伊藤守正	風景	油彩・板		457×382
75	伊藤守正	伐折羅大将(ばさらだいしょう)	油彩・画布		460×339
76	手島守之輔	少女像	油彩・板	1934	331×237
77	手島守之輔	女性の顔	油彩・板		228×157
78	手島守之輔	自画像	油彩・板	1931	227×155
79	手島守之輔	風	油彩・画布		1882×1289
80	手島守之輔	奇蹟の渴望	油彩・画布		1853×1293
81	小野春男	屏風絵・茄子	複製(二曲一隻)		886×1470
82	小野春男	自画像	鉛筆・色鉛筆・紙	1939	309×233
83	池澤 賢	崖上の白亜の家	紙本着色		803×971
84	池澤 賢	蒙古の少女	水彩・紙		362×258
85	本儀 信	白い建物	油彩・画布		529×409
86	秋庭 昂	少年像	油彩・板		331×239
87	秋庭 昂	風景	油彩・板		240×331
88	伊藤文雄	花	油彩・画布		497×606
89	伊藤文雄	自画像	油彩・板		415×275

4 「恋」の章

番号	作者	作品名	技法材質	制作年	寸法(mm)
90	佐久間 修	静子像	油彩・板		271×218
91	佐久間 修	女性像	油彩・画布		580×683
92	結城 久	婦人像	油彩・画布		455×380
93	結城 久	川のある風景	油彩・画布		320×410
94	石原壽市	女の顔	油彩・紙		360×283
95	福井 勇	裸婦	水彩・紙		635×481
96	市原義夫	裸婦	水彩・紙		634×468
97	市瀬文夫	裸婦	油彩・画布		1160×910
98	市瀬文夫	婦人像	油彩・画布		905×720
99	市瀬文夫	温室の前	油彩・画布		1306×1824
100	田中兵部	屏風絵・婦人像	紙本着色(二曲一隻)		1718×1872
101	北古賀一郎	少女	石膏		297×247×320
102	大倉裕美	S嬢	油彩・画布		1458×1120
103	武内秀太郎	島田正鹿氏像	油彩・画布		606×501
104	武内秀太郎	自画像	油彩・ボード		276×201
105	武内秀太郎	足を組む裸婦	油彩・画布		535×337

5 「夢」の章

番号	作者	作品名	技法材質	制作年	寸法(mm)
106	矢崎 博信	雷	油彩・画布		605×723
107	小柏 太郎	天女の像	ブロンズ		255×94×230
108	川嶋 洞	屏風絵・無題	紙本着色(四曲一隻)		2080×3580
109	川崎 雅	屏風絵・無題	紙本着色(六曲一隻)		1545×3570

番号	作者	作品名	技法材質	制作年	寸法(mm)
110	川崎 雅	あざみ於自宅	紙本着色	1941	770×547
111	川崎 雅	海老と貝	紙本着色	1941	442×670
112	川崎 雅	牡丹	絹本着色		621×390
113	浜田清治	小憩(下図)	木炭・紙	1939	2450×1900
114	浜田清治	風景	水彩・厚紙		285×285
115	芳賀準録	温海の風景	油彩・画布	1943	910×1168
116	芳賀準録	静物	油彩・画布	1943	319×412
117	芳賀準録	自画像	油彩・画布		
118	渡邊友次郎	菊	油彩・画布		910×727
119	高橋助幹	雪の降る建物	油彩・紙		240×334
120	高橋助幹	静物	油彩・板	1944	333×244
121	大谷 元	木立ち	油彩・板		238×328
122	大谷 元	船乗りのいる風景	油彩・板		238×330
123	大西 博	花	紙本着色		890×1191
124	庄司 正	花Ⅰ(習作)	紙本着色		665×454
125	庄司 正	花Ⅱ(習作)	紙本着色		452×665
126	高橋良松	鶏頭の花図	絹本着色		1355×730
127	高橋良松	風景	クレヨン・紙		254×178
128	高橋良松	風景	クレヨン・紙		254×178
129	永江千秋	静物	鉛筆、水彩・紙	1941	279×241
130	永江千秋	風景	水彩・紙	1942	210×297
131	永江千秋	家	水彩・紙	1942	297×210
132	釜井 清	杜鵑花子規(さつきほととぎす)	墨、水彩・紙		359×250
133	釜井 清	鷺雉(へっち)	墨・紙		254×382
134	猪飼俊一	葉牡丹	絹本着色		956×1324

※作品はすべて無言館蔵。番号は図録に依る。117の芳賀準録《自画像》は図録未掲載。



「無言館」展 講演会



「無言館」展 展示室

郡山の美術とであう

会 期：令和3年9月10日(金)～10月10日(日)
主 催：郡山市立美術館
観 覧 料：一般300円(240円)
 高校・大学生・65歳以上200円(160円)
 ※()内は団体料金。中学生以下、障がい
 者手帳をお持ちの方は無料。

趣 旨

本展では、郡山市立美術館のコレクションを通して、作品の技法と素材に着目。表現と密接にかかわる筆づかいや、素材の持ち味が豊かに感じられる所蔵品を選びすぎり、現在郡山を中心に活躍する作家の作品とあわせて展示した。

「郡山の美術とであう」本展の前半部分では、長きにわたり広く地域の文化発展に貢献した、横田治右衛門(1880-1958)のコレクションを紹介した。郡山の旧家に生まれた横田は、東京で洋画を学ぶなど美術に造詣が深く、家業を営みながら同時代の画家たちと交流し、多くの美術品を収集した。また、大正期から美術雑誌『美術春秋』の発行に力を注いだほか、郡山における美術運動の推進に大きな刺激を与えた。明治期に郡山に滞在して絵筆をふるった春日光親(鉄山)をはじめ、横田がであり、愛蔵した美術品の一部を展示した。



ポスター

関連行事

(9月の行事は新型コロナウイルス感染拡大防止のために延期)

○アーティストトーク

講師：大石尚(彫刻家)、中村亞都子(画家)
日時：令和3年9月20日(月・祝)午後2時から
 (10月10日(日)午後2時に変更)

場所：多目的スタジオ

○アーティストトーク

講師：野口和洋(版画家)、齋藤ナオ(画家)
日時：令和3年9月23日(木・祝)午後2時から
 (10月3日(日)午後2時に変更)

場所：多目的スタジオ

○スライドトーク

講師：新田量子(当館学芸員)
日時：令和3年9月11日(土)午後2時から
 (10月2日(土)午後2時に変更)

場所：多目的スタジオ

○スライドトーク

講師：中山恵理(当館学芸員)
日時：令和3年10月9日(土)午後2時から
場所：多目的スタジオ

発行物

観賞ガイドブック『遺された画家の筆跡、素材と質感の魅力 郡山の美術とであう』

21.0×14.8cm 16ページ

発行日：令和3年9月10日

編集・発行：郡山市立美術館

デザイン：imagement

内容：はじめに／郡山に遺された筆跡／技法・素材を視る／郡山の美術、今



鑑賞ガイドブック

関連記事

「芸術の秋を楽しもう 郡山市立美術館で企画展」、『福島民報』令和3年9月12日付。

新田量子「制作の手法、注目を」、『福島民報』令和3年9月17日付。

「素材、筆跡 独特の持ち味 来月10日まで郡山市立美術館が企画展」、『福島民友』令和3年9月21日付。

出品リスト

第1章 郡山に遺された筆跡 —横田治右衛門コレクションより—

作者名	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
横田 治右衛門	我家の夜景		油彩・板	個人蔵
横田 治右衛門	和田英作《おうな》模写		油彩・キャンバス	個人蔵
二代 歌川 国輝	孝子彌五郎伝 郡山駅		木版・紙／軸	個人蔵
伝 亜欧堂 田善	湖邊武人之図		油彩・絹	個人蔵
亜欧堂 田善	『新鐫総界全図 付・日本境界略図』	1809(文化6)	銅版・紙／卷子	郡山市立美術館
横山 大観	雨後山窓		墨・絹／軸	個人蔵
富岡 鉄斎	秋山帰樵之図		墨、淡彩・絹／軸	個人蔵
春日 光親(鉄山)	春秋		岩絵具・絹／対幅	個人蔵
春日 光親(鉄山)	猛虎之図		墨、淡彩・紙／軸	個人蔵
春日 光親(鉄山)	鍾馗図		墨、淡彩・紙／軸	個人蔵
春日 光親(鉄山)	紅葉賀図屏風		岩絵具・紙／六曲一隻屏風	個人蔵
春日 光親(鉄山)	山水図屏風		墨、淡彩・紙／六曲一隻屏風	個人蔵
湯田 玉水	祭礼図屏風		岩絵具・絹／六曲一隻屏風	個人蔵
古川 狄風	群仙図屏風		墨、淡彩・紙／六曲一隻屏風	個人蔵
池田 龍甫	歌劇聖地揺籃	1929(昭和4)	岩絵具・紙／軸	個人蔵

第2章 技法・素材を視る —郡山市立美術館コレクションより—

作者名	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
高橋 勝蔵	桃と葡萄	1909(明治42)頃	油彩・キャンバス	郡山市立美術館
諫山 麗吉	甲州猿橋		油彩・キャンバス	郡山市立美術館
広瀬 孝次	田園景色	1890(明治23)	油彩・キャンバス	郡山市立美術館
石川 寅治	房総風景	1923-24 (大正12-13)頃	油彩・キャンバス	郡山市立美術館
栗原 忠二	ヴェニス風景	1921(大正10)	油彩・板	郡山市立美術館
高木 背水	紅海の夕焼		油彩・キャンバス	郡山市立美術館
牧野 義雄	ハイド・パークのアキレス像		油彩・キャンバス	郡山市立美術館
石川 欽一郎	牛荘(Newchowang)		水彩・紙	郡山市立美術館
吉田 博	風景		水彩・紙	郡山市立美術館
中川 八郎	おぼろ月夜		水彩・紙	郡山市立美術館
彭城 貞徳	雪景色		水彩・紙	郡山市立美術館

作者名	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
斎藤 豊作	風景	1912(明治45)	油彩・キャンバス	郡山市立美術館
藤島 武二	「耕到天」習作	1936(昭和11)	油彩・キャンバス	郡山市立美術館
中村 彝	朝顔	1923(大正12)	油彩・キャンバス	郡山市立美術館
山中 春雄	横浜風景	1960-2(昭和35-37)頃	油彩・キャンバス	郡山市立美術館 武田光司コレクション寄贈
山中 春雄	湖		油彩・キャンバス	郡山市立美術館 武田光司コレクション寄贈
平澤 熊一	林	1963(昭和38)	油彩・キャンバス	郡山市立美術館 平澤三之助氏寄贈
深沢 軍治	庭先植物生態学(B)	1984(昭和59)	油彩・キャンバス	郡山市立美術館
今井 俊満	コンポジション 23	1959(昭和34)	油彩・キャンバス	郡山市立美術館
佐藤 敬	石の対話	1958(昭和33)	油彩・キャンバス	郡山市立美術館
山下 菊二	顔の中の顔	1963(昭和38)	油彩、コラージュ・キャンバス	郡山市立美術館
黒沢 吉蔵	霽れる高地	1968(昭和43)	岩絵具・紙	郡山市立美術館
安藤 重春	雨の華	1979(昭和54)	岩絵具・紙	郡山市立美術館
土橋 醇	星の幻想B	1975(昭和50)	油彩、鉄板・板	郡山市立美術館 土橋千鶴子氏寄贈
鎌田 正蔵	基地の風景(B)	1991(平成3)	アクリル・キャンバス	郡山市立美術館 鎌田正蔵氏寄贈
佐藤 昭一	シリーズ透過02	2002(平成14)	アクリル・キャンバス	郡山市立美術館
田口 安男	白いトルソー呼一	2007(平成19)	テンペラ・パネル	郡山市立美術館

第3章 郡山の美術、今 一郡山で活躍する作家たち一

作者名	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
野口 和洋	ニコラ・ド・スタールの肖像	1995(平成7)	木口木版・紙	作家蔵
野口 和洋	Gの肖像	1996(平成8)	木口木版・紙	作家蔵
野口 和洋	Sの肖像	1996(平成8)	木口木版・紙	作家蔵
野口 和洋	かぼちゃと風船画伯く1946年の谷中安規	2003(平成15)	木口木版・紙	作家蔵
野口 和洋	3・11	2012(平成24)	木口木版・紙	作家蔵
野口 和洋	蔵書票		木口木版・紙	作家蔵
【参考出品】	版木		木	作家蔵
中村 亜都子	breath	1978(昭和53)	岩絵具・パネル、帆布	作家蔵
中村 亜都子	作品	1978(昭和53)	泥絵具・紙	作家蔵
中村 亜都子	跡のかたち	1996(平成8)	岩絵具・パネル、麻紙	作家蔵
齋藤 ナオ	雨日々	2007(平成19)	テンペラ、油彩、パステル・パネル	作家蔵
齋藤 ナオ	春の記憶～time of life～	2019(令和元)	テンペラ、油彩・パネル、キャンバス	作家蔵
齋藤 ナオ	夢の鍵～time is life～	2019(令和元)	テンペラ、油彩・パネル、キャンバス	作家蔵
大石 尚	O氏	1986(昭和61)	石膏	作家蔵
大石 尚	O氏	1987(昭和62)铸造	ブロンズ	作家蔵
大石 尚	座る	2012(平成24)	木	作家蔵

作者名	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
大石 尚	つながるいのち	2012(平成24)	木	作家蔵
大石 尚	かたち II	2003(平成15)	石膏	作家蔵
大石 尚	変身譚	2007(平成19)	石膏、紙	作家蔵
大石 尚	倚る I	1992(平成4)	石膏	作家蔵
大石 尚	水温む	2008(平成20)	陶	作家蔵
【参考出品】	《水温む》石膏型		石膏	作家蔵



郡山の美術とであう アーティストトーク



郡山の美術とであう 展示室

会 期：令和3年10月23日(土)～12月26日(日)
 主 催：やなせたかしの世界展実行委員会
 (郡山市立美術館/福島中央テレビ/福島民
 友新聞社)郡山市立美術館
 協 力：公益財団法人やなせたかし記念アンパンマン
 ミュージアム振興財団、やなせスタジオ、
 フレーベル館
 観 覧 料：一般1000円(800円)
 高校・大学生・65歳以上700円(560円)
 ※()内は団体料金。中学生以下、障がい
 者手帳をお持ちの方は無料。

趣 旨

子どもたちに絶大な人気を誇るアンパンマンを生んだやなせたかし(1919-2013)は、漫画家、詩人、イラストレーター、絵本作家など多才な芸術家であり、気鋭の編集者としても幅広く活躍した。

本展では、代表的な絵本原画をはじめ、雑誌『詩とメルヘン』の表紙原画、アンパンマンを主題にした絵画作品など約200点を展示し、やなせたかしの豊かな抒情世界と人間愛に満ちたメッセージを紹介した。



ポスター

関連行事

- スライドトーク「やなせたかしの抒情世界」
 講師：永山多貴子(当館学芸員)
 日時：令和3年12月5日(日)午後2時から3時30分
 場所：多目的スタジオ

発行物

『やなせたかしの世界 The world of Takashi Yanase』
 25.7×18.2cm 159ページ
 発行日：平成31年1月
 発行：やなせたかし記念アンパンマンミュージアム振興財団
 内容：目次／やなせたかし記念館アンパンマンミュージアム開館によせて／第1章 「アンパンマンミュージアム」ギャラリー／アンパンマンの変遷／第2章 「詩とメルヘン絵本館」ギャラリー／雑誌『詩とメルヘン』／第3章 「まんが」ギャラリー／漫画家の絵本の会／第4章 「詩と言葉」ギャラリー／手のひらを太陽に／第5章 「イラストレーション」ギャラリー／やなせメルヘン／第6章 「絵本」ギャラリー／やなせたかしの歩み／やなせたかし記念館紹介

関連記事

- 「愛が包む温かい作品」(やなせたかし記念館 仙波美由記事務局長インタビュー記事)『福島民友』 令和3年10月24日付。
- 永山多貴子「見どころ紹介・上 原点は大人のメルヘン」『福島民友』 令和3年10月19日付。
- 永山多貴子「見どころ紹介・下 叙情あふれる雑誌創造」『福島民友』 令和3年11月2日付。



図録

出品リスト

No.	タイトル	出典、出版社	制作年、出版年	種類
1	「ビール大王様」	ニッポンビール(現サッポロビール広告)		新聞スクラップ
2	「ビール大王様」	ニッポンビール(現サッポロビール広告)	1958(昭和33)年	新聞スクラップ
3	珍犬ミミ 歌を忘れたカナリヤ/長い長い傘/乾盃!花のサカツキで	『主婦と生活』主婦と生活社	1960(昭和35)年頃	漫画原稿
4	ボオ氏 作家の良心の巻/ブランコの巻/たまご色の月の出の巻		1967(昭和42)年頃	漫画原稿
5	「とべ! ANPANMAN」ストローこうもりのまき	『とべ! アンパンマン②』 フレーベル館	1991(平成3)年	漫画原稿
6	「とべ! ANPANMAN」ゴミラのまき	『とべ! アンパンマン②』 フレーベル館	1991(平成3)年	漫画原稿
7	飛べ! アンパンマン	『アリスのさくらんぼ』サンリオ	1973(昭和48)年	原画
8	『あんぱんまん』表紙絵	『キンダーおはなしえほん傑作選』 フレーベル館	1976(昭和51)年	原画
9	『あんぱんまんとばいきんまん』	『キンダーおはなしえほん傑作選』 フレーベル館	1979(昭和54)年	原画
10	『いちごえほん れんさいまんが あんぱんまん 3』	『いちごえほん』1981年8月号 サンリオ	1981(昭和56)年	漫画原稿
11	『それいけ! アンパンマン』	フレーベル館	1975(昭和50)年	原画
12	『チリンのすず』	フレーベル館	1978(昭和53)年	原画
13	『しろいうま』	フレーベル館	1976(昭和51)年	原画
14	『すぎのきとのぎく』		1974(昭和49)年頃	原画
15	『くものこいぬ』	フレーベル館	1982(昭和57)年	原画
16	「ヒヨロ松君」原画	陸前高田市のモザイクタイル	2013(平成25)年	原画
17	陸前高田へのメッセージ		2013(平成25)年	原稿
18	「ヒヨロ松さんは見習い天使」原稿	『やなせたかしのメルヘン絵本』 朝日学生新聞社	2013(平成25)年	原稿
19	メルヘンタペストリー絵本 「ヒヨロ松さんは見習い天使」	『やなせたかしのメルヘン絵本』 朝日学生新聞社		タペストリー
20	東日本大震災復興支援ポスター		2011(平成23)年	ポスター
21	『シェエラザード』	ジュニア・カセット音楽文庫3 ヤマハ音楽振興会	1988(昭和63)年	原画
22	無風地帯			原稿・原画
23	たったひとりで生まれてきて			原画
24	絶望のとなり			原画
25	手のひらを太陽に			原画
26	ヘン	『たそがれ詩集』1 かまくら春秋社	2009(平成21)年	原画
27	孤愁の道	『たそがれ詩集』2 かまくら春秋社	2009(平成21)年	原画
28	白馬の話 紫星のみち	『10人の漫画家の10の旅』	1987(昭和62)年頃	原画
29	虹 虹のきれはし			原画
30	室内の女性	『詩とメルヘン』1980年9月号掲載 「風の中のつぶやき」(詩・水原エリ)挿絵		原画
31	思い出の海			原画
32	童謡 雪			原画
33	創刊☆はじめて世に出る春の号	『詩とメルヘン』1973年4月創刊号 表紙絵		原画
34	いつのまにか黄色い草原の秋の号	『詩とメルヘン』1973年10月号 表紙絵		原画
35	新しい太陽とばら色の雲とそしてぼくとあなたと	『詩とメルヘン』1975年1月号 表紙絵		原画
36	ういういしいつばみがひらくような3月号	『詩とメルヘン』1975年3月号 表紙絵		原画
37	ひとつぶ雨がおちるたびにひとつの花が咲くんだ	『詩とメルヘン』1976年4月号 表紙絵		原画
38	美しい五月となれば風はそよぎ木は緑	『詩とメルヘン』1977年5月号 表紙絵		原画
39	夕やけのカーテンをまきとれば美しい夜	『詩とメルヘン』1977年11月号 表紙絵		原画
40	粉雪は風の小鳥かそれともちいさな天使	『詩とメルヘン』1978年2月号 表紙絵		原画
41	さびしそうな空を虹よはなやかにしてくれ	『詩とメルヘン』1979年10月号 表紙絵		原画
42	木の葉が赤い小鳥になってまいおちてくるよ	『詩とメルヘン』1980年11月号 表紙絵		原画
43	青い薔薇の月夜のスケーター	『詩とメルヘン』1983年2月号 表紙絵		原画
44	不安定な明日を信じる初日の出	『詩とメルヘン』1992年1月号 表紙絵		原画
45	野のはての秋の工場のセレナーデ	『詩とメルヘン』1993年10月号 表紙絵		原画
46	黄薔薇咲くただそれだけでうれしくて	『詩とメルヘン』1997年5月号 表紙絵		原画
47	おろしたてのパレットに似る初夏の蝶	『詩とメルヘン』1997年7月号 表紙絵		原画
48	惜別のワイングラスに海暮れる	『詩とメルヘン』2003年8月号 表紙絵		原画

No.	タイトル	出典、出版社	制作年、出版年	種類
49	『詩とファンタジー』創刊号(秋天)表紙原画	『詩とファンタジー』2007年創刊号 表紙絵		原画
50	『詩とメルヘン』 1973年4月創刊号		1973(昭和48)年刊	雑誌
51	『詩とメルヘン』 1973年10月号		1973(昭和48)年刊	雑誌
52	『詩とメルヘン』 1975年1月号		1975(昭和50)年刊	雑誌
53	『詩とメルヘン』 1975年3月号		1975(昭和50)年刊	雑誌
54	『詩とメルヘン』 1976年4月号		1976(昭和51)年刊	雑誌
55	『詩とメルヘン』 1977年5月号		1977(昭和52)年刊	雑誌
56	『詩とメルヘン』 1977年11月号		1977(昭和52)年刊	雑誌
57	『詩とメルヘン』 1978年2月号		1978(昭和53)年刊	雑誌
58	『詩とメルヘン』 1979年10月号		1979(昭和54)年刊	雑誌
59	『詩とメルヘン』 1980年11月号		1980(昭和55)年刊	雑誌
60	『詩とメルヘン』 1983年2月号		1983(昭和58)年刊	雑誌
61	『詩とメルヘン』 1992年1月号		1992(平成4)年刊	雑誌
62	『詩とメルヘン』 1993年10月号		1993(平成5)年刊	雑誌
63	『詩とメルヘン』 1997年5月号		1997(平成9)年刊	雑誌
64	『詩とメルヘン』 1997年7月号		1997(平成9)年刊	雑誌
65	『詩とメルヘン』 2003年8月号		2003(平成15)年刊	雑誌
66	春の絵本	『詩とメルヘン』 1976年5月号春の臨時増刊 「花咲く絵本」やなせ・たかし(詩と絵)		原画
67	仲良しの木	『詩とメルヘン』 1975年5月号春季臨時増刊号掲載 メルヘン「ハンナとハンス」 やなせ・たかし(文と絵)挿絵		原画
68	秋の林	『詩とメルヘン』 1976年10月号掲載 「ドギーとマギー」 やなせ・たかし(文と絵)挿絵		原画
69	雲の船	『詩とメルヘン』1983年6月号掲載 「青い平野のむこうに」 やなせ・たかし(詩と絵)		原画
70	しっぽ	月刊『詩とメルヘン』 1974年3月号掲載 「ヒスタ・愛」やなせ・たかし(文と絵)		原画
71	雨はやんだかな	「デュエット」シリーズ	1979(昭和54)年	原画
72	羊のけむり	「デュエット」シリーズ	1979(昭和54)年	原画
73	かもめは波から生まれる	「デュエット」シリーズ	1979(昭和54)年	原画
74	朝顔の恋人	「デュエット」シリーズ	1979(昭和54)年	原画
75	花が好き 歌が好き	「デュエット」シリーズ	1979(昭和54)年	原画
76	よく学びよく恋せよ	「デュエット」シリーズ	1979(昭和54)年	原画
77	蝶印ハーモニカ	「デュエット」シリーズ	1979(昭和54)年	原画
78	紙ドレス	「デュエット」シリーズ	1979(昭和54)年	原画
79	フィギュアローラースケート	「デュエット」シリーズ	1979(昭和54)年	原画
80	パレット島	「デュエット」シリーズ	1979(昭和54)年	原画
81	そうかんごうの創刊号	『いちごえほん』1975年1月号 創刊号 表紙絵		原画
82	雪の天使の2月号	『いちごえほん』1976年2月号 表紙絵		原画
83	カーネーションの5月号	『いちごえほん』1976年5月号 表紙絵		原画
84	ゆきふる2月号	『いちごえほん』1978年2月号 表紙絵		原画
85	ペンギンの3月号	『いちごえほん』1978年3月号 表紙絵		原画
86	きたかぜの12月号	『いちごえほん』1978年12月号 表紙絵		原画
87	うみのよあけの8月号	『いちごえほん』1980年8月号 表紙絵		原画
88	アンパンマンの8月号	『いちごえほん』1981年8月号 表紙絵		原画
89	みどりのマーチ5月号	『いちごえほん』1982年5月号 表紙絵		原画
90	おちばの10月号	『いちごえほん』1977年10月号 表紙絵		原画
91	ジャングルのかぜの7月号	『いちごえほん』1980年7月号 表紙絵		原画
92	れもん気球の11月号	『いちごえほん』1976年11月号 表紙絵		原画
93	はなさくはるの4月号	『いちごえほん』1979年4月号 表紙絵		原画
94	かもめのてんしの5月号	『いちごえほん』1981年5月号 表紙絵		原画
95	『いちごえほん』1975年1月号創刊号		1975(昭和50)年刊	雑誌

No.	タイトル	出典、出版社	制作年、出版年	種類
96	『いちごえほん』1976年2月号		1976(昭和51)年刊	雑誌
97	『いちごえほん』1976年5月号		1976(昭和51)年刊	雑誌
98	『いちごえほん』1978年2月号		1978(昭和53)年刊	雑誌
99	『いちごえほん』1978年3月号		1978(昭和53)年刊	雑誌
100	『いちごえほん』1978年12月号		1978(昭和53)年刊	雑誌
101	『いちごえほん』1980年8月号		1980(昭和55)年刊	雑誌
102	『いちごえほん』1981年8月号		1981(昭和56)年刊	雑誌
103	『いちごえほん』1982年5月号		1982(昭和57)年刊	雑誌
104	『いちごえほん』1977年10月号		1977(昭和52)年刊	雑誌
105	『いちごえほん』1980年7月号		1980(昭和55)年刊	雑誌
106	『いちごえほん』1976年11月号		1976(昭和51)年刊	雑誌
107	『いちごえほん』1979年4月号		1979(昭和54)年刊	雑誌
108	『いちごえほん』1981年5月号		1981(昭和56)年刊	雑誌
109	顔をあげるアンパンマン		1996(平成8)年	原画
110	手のひらを太陽に			原画
111	木の下の人		1996(平成8)年	原画
112	えんぴつ島のアンパンマン		1996(平成8)年	原画
113	かくれんぼの木			原画
114	夕陽の海			原画
115	ルビーのねがい			原画
116	やなせうさぎとアンパンマン			原画
117				
118	アンパンマン			原画
119	バタコさん			原画
120	めいけんチーズ			原画
121	しょくばんまん			原画
122	カレーパンマン			原画
123	メロンパンナちゃん			原画
124	ばいきんまん			原画
125	ドキンちゃん			原画
126	クリームパンダ			原画
127	ハンバーガーキッド			原画
128	おむすびまん			原画
129	アンパンマン			複製
130	ばいきんまん			複製
	アンパンマン	『ふしぎな絵本 十二の真珠』山梨シルクセンター	1970(昭和45)年刊	複製パネル
	父の死	「ホームキンダー」1977年4月号	1977(昭和52)年刊	複製パネル
	夏の川で	「ホームキンダー」1977年4月号	1977(昭和52)年刊	複製パネル



やなせたかしの世界 開会式



やなせたかしの世界 鑑賞風景

スイス プチ・パレ美術館展 ルノワールからエコール・ド・パリへ

会 期:令和4年2月11日(金・祝)~3月27日(日)

主 催:郡山市立美術館

企画協力:株式会社ホワイトインターナショナル

後 援:在日スイス大使館

観 覧 料:一般1000円(800円)

高校・大学生・65歳以上700円(560円)

※()内は団体料金。中学生以下、障がい者手帳をお持ちの方は無料。

趣 旨

スイス・ジュネーブのプチ・パレ美術館は、1880年から1930年代、印象派の台頭からポスト印象派、新印象派、フォーヴィスム、キュビスム、そしてエコール・ド・パリまで、パリの地で制作された作品を中心としたコレクションで知られている。創設者のオスカー・ゲーズ氏は美術館のモットーを「平和に奉仕する芸術」とし、優れた作品が多くの国々の間に平和と友好をもたらすという考えのもとに、1968年の開館以来、国外の大規模な展覧会に出品協力してきた。

本展ではオーギュスト・ルノワールから始まり、ギュスターヴ・カイユボット、モーリス・ドニ、モーリス・ド・ヴラマンク、藤田嗣治、モイズ・キスリングらの作品65点を展示。広く名の知られる大家だけでなく、同時期に活躍した周辺の作家も収集したゲーズ氏のコレクションから、芸術の都として最も隆盛を誇った時期の、パリの豊かな美術の様相を紹介した。

関連行事

○講演会

「フランス美術—豊穡の50年 印象派からエコール・ド・パリまで」

講師:佐々木吉晴

(宇都宮美術館館長、やないづ町立斎藤清美術館館長)

日時:令和4年3月6日(日)午後2時から

場所:多目的スタジオ

○スライドトーク

講師:田中有沙子、川上恵理(当館学芸員)

日時:令和4年2月23日(水・祝)、3月20日(日)

各日午後2時から

場所:多目的スタジオ

発行物

『スイス プチ・パレ美術館展』

26.0×18.8cm 135ページ

発行日:令和3年

監修・執筆:フランソワーズ・バリガン

編集:鹿児島市立美術館、郡山市立美術館、静岡市美術館、SOMPO美術館

翻訳:谷口雄三(鹿児島市立美術館)、深尾茅奈美(静岡市美術館)、田中有沙子(当館学芸員)、川上恵理(当館学芸員)、ホワイトインターナショナル

制作:クオラス

デザイン:NEWTONE/yot

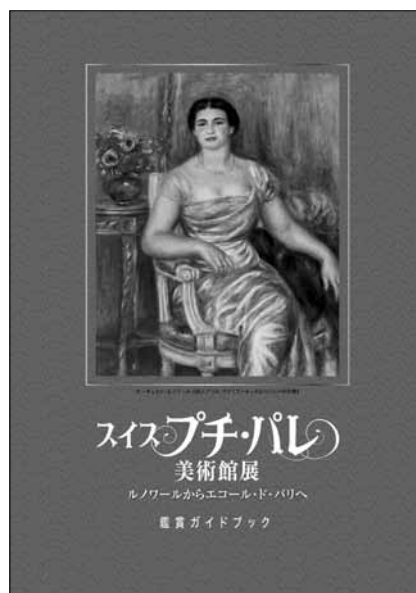
発行:ホワイトインターナショナル

内容:ごあいさつ/イントロダクション/凡例/目次/カタログ

1 印象派/2 新印象派/3 ナビ派とボン=タヴァン派/4 新印象派からフォーヴィスムまで/5 フォーヴィスムからキュビスムまで/6 ポスト印象派とエコール・ド・パリ



ポスター



鑑賞ガイドブック



図録

観賞ガイドブック「スイス プチ・パレ美術館展 ルノワールからエコール・ド・パリへ」

21.0×14.8cm 16ページ

発行日：令和3年

編集・発行：郡山市立美術館(田中有沙子、川上恵理)

デザイン：デザイナーズメッツ

内容：印象派／新印象派／ナビ派とポン＝タヴァン派／フォーヴィスム／キュビズム／エコール・ド・パリ／関連マップ／スイス プチ・パレ美術館、プチ・パレ美術館の創設者 オスカー・ゲーズ氏

関連記事

「ルノワールなど並び きょうから郡山市美術館 スイス プチ・パレ展」、『福島民報』令和4年2月11日付。

「パリ彩った絵画紹介 郡山市立美術館」、『福島民友』令和4年2月19日付。

田中有沙子「フランス近代絵画 百花繚乱 スイス プチ・パレ美術館展」、『福島民友』令和4年3月1日付。

「プチ・パレ美術館展 3月27日まで、郡山市立美術館」、『聖教新聞』令和4年3月4日付。

出品リスト

No.	作家名	作品名	制作年	素材
1 印象派 L'IMPRESSIONNISME				
1	アンリ・ファンタン＝ラトゥール	ヴェーヌスの身繕い	1880	油彩、カンヴァス
2	オーギュスト・ルノワール	詩人アリス・ヴァリエール＝メルツバッハの肖像	1913	油彩、カンヴァス
3	アルマン・ギョーマン	ポン＝マリー、パリ	1883	油彩、カンヴァス
4	ギュスターヴ・カイユボット	子どものモーリス・ユゴの肖像	1885	油彩、カンヴァス
2 新印象派 LE NÉO-IMPRESSIONNISME				
5	アルベール・デュボワ＝ピエ	ボニエールの近くの村	1888	油彩、カンヴァス
6	アルベール・デュボワ＝ピエ	冬の風景	1888-89	油彩、カンヴァス
7	シャルル・アングラン	画家の母の肖像	1885	油彩、カンヴァス
8	シャルル・アングラン	収穫	1887	油彩、カンヴァス
9	アンリ＝エドモン・クロス	遠出する人	1894	油彩、カンヴァス
10	アンリ＝エドモン・クロス	糸杉のノクチューン	1896	油彩、カンヴァス
11	マクシミリアン・リュス	若い女の肖像	1893	油彩、カンヴァス
12	マクシミリアン・リュス	フェイノールのムーズ川	1909	油彩、カンヴァス
13	アシル・ロージェ	花瓶の花束	1894	油彩、カンヴァス
14	アシル・ロージェ	窓辺	1899	油彩、カンヴァス
15	テオ・ファン・レイセルベルヘ	ファン・デ・フェルデ夫人と子どもたち	1903	油彩、カンヴァス
16	ジョルジュ・レメン	ラ・ユルプのフルマリエ家	1888	油彩、カンヴァス
17	ニコラス・アレクサンドロヴィッチ・タルコフ	ダンス	1904	油彩、カンヴァス
18	ニコラス・アレクサンドロヴィッチ・タルコフ	木陰	1907	油彩、カンヴァス
3 ナビ派とポン＝タヴァン派 LES NABIS ET L'ÉCOLE DE PONT-AVEN				
19	ポール＝エリー・ランソン	海辺の風景	1895	油彩、カンヴァス
20	エミール・ベルナール	カンカルの浜辺	1886	油彩、カンヴァス
21	モーリス・ドニ	母子像、アンヌ＝マリーの食事	1903	油彩、カンヴァス
22	モーリス・ドニ	休暇中の宿題	1906	油彩、カンヴァス
23	モーリス・ドニ	ペロス＝ギレックの海水浴場	1924	油彩、カンヴァス

No.	作家名	作品名	制作年	素材
4 新印象派からフォーヴィスムまで DU NÉO- IMPRESSIONNISME AU FAUVISME				
24	ルイ・ヴァルタ	帽子を被った女の肖像	1895	油彩、カンヴァス
25	ルイ・ヴァルタ	マキシムにて	1895	油彩、カンヴァス
26	ルイ・ヴァルタ	ブローニュの森の遊歩道	1898	油彩、カンヴァス
27	アンリ・マンギャン	室内の裸婦	1905	油彩、カンヴァス
28	アンリ・マンギャン	ヴィルフランシュの道	1913	油彩、カンヴァス
29	モーリス・ド・ヴラマンク	7月14日 踏切、バリ祭	1925	油彩、カンヴァス
30	ジャン・ピュイ	画家とそのモデル	1911	油彩、カンヴァス
31	ラウル・デュフィ	マルセイユの市場	1903	油彩、カンヴァス
32	キース・ヴァン・ドンゲン	村の広場	1906	油彩、カンヴァス
33	シャルル・カモワン	海岸の村	1905	油彩、カンヴァス
34	シャルル・カモワン	ナポリの若い女	1906	油彩、カンヴァス
35	シャルル・カモワン	バラ色の布の静物		油彩、カンヴァス
5 フォーヴィスムからキュビスムまで DU FAUVISME AU CUBISME				
36	ジャンヌ・リジールソー	白い胸あて	1911	油彩、カンヴァス
37	マリア・ブランシャール	輪回しをする子ども	1916-18	油彩、カンヴァス
38	マリア・ブランシャール	静物	1917	油彩、板
39	アルベール・グレーズ	座る裸婦	1909	油彩、カンヴァス
40	ジャン・メッツァンジェ	首飾りを着けた若い女	1911	油彩、カンヴァス
41	ジャン・メッツァンジェ	風景	1913	油彩、カンヴァス
42	ジャン・メッツァンジェ	スフィンクス	1920	油彩、カンヴァス
43	アンリ・エダン	ラム酒のある静物	1918	油彩、カンヴァス
44	アンドレ・ロート	バッカント (酒に酔う女)	1910	油彩、カンヴァスに紙
45	アンドレ・ロート	クルティザンヌ	1918	油彩、カンヴァス
46	アンドレ・ロート	ワトーへのオマージュ	1918	油彩、カンヴァス
47	ロジェ・ビシエール	窓辺の女たち	1920	油彩、カンヴァス
48	ロジェ・ビシエール	台所のビシエール夫人とロート夫人	1921	油彩、カンヴァス
49	マレヴナ	静物のある大きな自画像	1917	油彩、カンヴァス
6 ポスト印象派とエコール・ド・パリ LE POST- IMPRESSIONNISME ET L'ÉCOLE DE PARIS				
50	テオフィル＝アレクサンドル・スタンラン	猫と一緒に母と子	1885	油彩、カンヴァス
51	テオフィル＝アレクサンドル・スタンラン	2人のパリジェンヌ	1902	油彩、カンヴァス
52	テオフィル＝アレクサンドル・スタンラン	純愛	1909	油彩、カンヴァス
53	フェリックス・ヴァロットン	身繕い	1911	油彩、カンヴァス
54	シュザンヌ・ヴァラドン	コントラバスを弾く女	1908	油彩、カンヴァス
55	シュザンヌ・ヴァラドン	暴かれた未来、あるいはカード占いの女	1912	油彩、カンヴァス
56	ジョルジュ・ボッティエーニ	バーで待つサラ・ベルナルの肖像	1907	油彩、カンヴァス

No.	作家名	作品名	制作年	素材
57	ジョルジュ・ボッティエリ	フォーリー・ベルジェールのバー・カウンター	1907	油彩、カンヴァス
58	アンドレ・ドラク	横たわる金髪の裸婦	1934-39	油彩、カンヴァス
59	モーリス・ユトリロ	ノートル＝ダム	1917	油彩、カンヴァス
60	モーリス・ユトリロ	ヴィルフランシュの通り	1921	油彩、カンヴァス
61	藤田嗣治	2人の小さな友だち	1918	油彩、カンヴァス
62	モイズ・キスリング	ルシヨンの風景	1913	油彩、カンヴァス
63	モイズ・キスリング	緑の背景のレモンのある静物	1916	油彩、カンヴァス
64	モイズ・キスリング	サン＝トロペのシエスタ	1916	油彩、カンヴァス
65	モイズ・キスリング	赤毛の女	1929	油彩、カンヴァス



スイス ブチ・バレ美術館展 講演会



スイス ブチ・バレ美術館展 展示風景

Ⅲ 教育普及事業

1) 講演会 会場：多目的スタジオ 午後2時～ 参加者数 229名

回	月日	演題	講師	開催企画展	参加者数
1	5月3日(月・祝)	国芳と芳年の「怪」と「快」	神谷浩(徳川美術館副館長兼学芸部長)	挑む浮世絵	50
2	5月30日(日)	浮世絵末流の近代 芳年、年方から清方へ	篠原聡(東海大学准教授)	挑む浮世絵	50
3	8月15日(日)	無言館のこと—戦没画学生が遺したもの	窪島誠一郎(無言館館主)	無言館展	67
4	3月6日(日)	フランス美術—豊穡の50年 印象派からエコール・ド・パリまで	佐々木吉晴(宇都宮美術館長、やないづ町立斎藤清美術館長)	スイス プチ・パレ美術館展	62
合 計					229

2) アーティストトーク 会場：多目的スタジオ 午後2時～ 参加者数 110名

回	月日	演題	講師	開催企画展	参加者数
1	10月3日(日)	「郡山の美術とであう」アーティストトーク①	野口和洋(版画家) 齋藤ナオ(画家)	郡山の美術とであう	48
2	10月10日(日)	「郡山の美術とであう」アーティストトーク②	大石尚(彫刻家) 中村亜都子(画家)	郡山の美術とであう	62
合 計					110

3) スライドトーク 会場：多目的スタジオ 午後2時～ 参加者数 303名

回	月日	演題	講師	開催企画展	参加者数
1	5月16日(日)	国芳と芳年の画風	当館学芸員 富岡進一	挑む浮世絵	44
2	6月6日(日)	国芳一門の魅力	当館学芸員 塚本敬介	挑む浮世絵	34
3	7月3日(土)	無言館—戦争と絵画	当館学芸員 富岡進一	無言館展	36
4	7月17日(土)	無言館の作家とその時代	当館学芸課長 杉原聡	無言館展	46
5	8月9日(月・休)	福島県と無言館の作家たち	当館館長 菅野洋人	無言館展	37
6	10月2日(土)	郡山の美術とであう①	当館学芸員 新田量子	郡山の美術とであう	15
7	10月9日(土)	郡山の美術とであう②	当館学芸員 中山恵理	郡山の美術とであう	7
8	12月5日(日)	やなせたかしの抒情世界	当館学芸員 永山多貴子	やなせたかしの世界展	45
9	2月23日(水・祝)	スイス プチ・パレ美術館展①	当館学芸員 田中有沙子	スイス プチ・パレ美術館展	19
10	3月20日(日)	スイス プチ・パレ美術館展②	当館学芸員 川上恵理	スイス プチ・パレ美術館展	20
合 計					303

4) 文化講座 会場：多目的スタジオ 午後5時30分～ 参加者数 54名

回	月日	講座名	講師	参加者数
1	12月11日(土)	『しろいうま』とわたし	タテタカコ(ミュージシャン)	54
合 計				54

5) ワークショップ 会場：創作スタジオ 各日 午前10時～午後4時 参加者数 26名

回	月日	講座名	講師	参加者数
1	2月19日(土)、20日(日)、 26日(土)、3月5日(土)	線で表現 木口木版画講座	野口和洋(版画家)	11
2	3月12日(土)、13日(日)	はじめての「岩絵具」で描く	中村亜都子(画家)	15
合 計				26

6) ミュージアム・シアター 会場：多目的スタジオ 参加者数 304名

回	月日	上映作品	参加者数
1	7月11日(日) 午前11時～、午後2時～	青色の画布 十五歳もうひとつの無言館 (2011年/50分)	68
2	7月18日(日) 午後2時～	二十歳の無言館 (2016年/120分)	41
3	12月4日(土) 午後5時30分～	千夜一夜物語 (1969年/130分)	52
4	3月12日(土) 午後5時30分～	FOUJITA (2015年/126分)	99
5	3月19日(土) 午後5時30分～	巴里の屋根の下 (1930年/93分)	20
6	3月21日(月・祝) 午後5時30分～	巴里祭 (1933年/86分)	24
合 計			304

7) ミュージアム・コンサート 会場：階段ホール 午後6時～ 参加者数 72名

回	月日	タイトル	出演	参加者数
1	3月26日(土)	マダムギターパンダ	ギターパンダ(山川のりを) 長見 順(マダムギター) 岡地 曙裕(ドラム)	72
合 計				72

8) 学校との連携事業

①第19回風土記の丘の美術展 ～郡山市内の小学生による作品展～

主 催：郡山市立美術館、郡山市小学校造形教育研究会

郡山市内の小学生が図工教科の授業で制作した造形作品を美術館内に展示した。子どもたちの造形活動を促し、教科研究に役立てるとともに、市民が美術館に身近に接する機会をつくる目的で毎年開催している。

会 期：7月24日(土)～8月20日(金)

第1期(7月24日～7月30日)

日和田、高倉、行健、行健第二、明健、小泉、行徳、安積第一、安積第二、安積第三、永盛、柴宮

第2期(7月31日～8月6日)
 穂積、三和、多田野、河内、片平、喜久田、熱海、安子島、守山、御代田、高瀬、谷田川、金透
 第3期(8月7日～8月13日)

芳山、橘、小原田、開成、芳賀、桃見台、赤木、薫、富田、富田東、富田西、大槻、白岩

第4期(8月14日～8月20日)

東芳、桜、桑野、大島、緑ヶ丘第一、小山田、大成、朝日が丘、宮城、海老根、御館、西田学園、湖南

参加校：56校

作品点数：336点

会場：美術館ロビー

観覧者数：4,525名

②第13回風土記の空 ～郡山市内の中学校美術部による作品展～

郡山市内の中学校が、美術部活動や選択美術などにおいて制作した作品を美術館内に展示した。この展覧会は、美術館と中学校との連携と美術活動の活性化を目的に実施し、額装や展示等も中学生が行っている。

日和田中学校、郡山第四中学校、郡山第六中学校、小原田中学校(計4校)

会期：11月2日(火)～11月28日(日)

会場：美術館ロビー

観覧者数：8,735名

③鑑賞学習対応

幼稚園5園168名 小学校33校1,648名 中学校18校1,472名

高等学校2校84名 大学・専門学校他2校22名

合計60校 3,394名

9) 対外協力

①博物館実習(1件)

期間：7月30日(金)～8月4日(水)

受入校及び実習生数：3校5名

東北芸術工科大学 1名 / 文星芸術大学 1名 / 郡山女子大学短期大学部 3名

実習内容：作品の取扱(平面・立体)、各概論(収集・保存・展示・普及)、機器取扱(カメラ・温湿度計など)、野外彫刻洗浄、体験実習(ギャラリートーク、企画展立案及びプレゼンテーション)

10) 図書資料・視聴覚資料

調査研究及び教育普及を目的とし、昭和63年から図書、ビデオ、レーザーディスク、CD-ROM、DVDなどの二次資料を収集し、一部は開架式図書コーナーにおいて公開している。

この二次資料は、平成3年度末現在23,000件を越えているが、専門職員(司書)の配置がなされていないために、慢性的な未整理状態が続いている。早急な司書の配置が望まれる。

11) 刊行物

美術館ニュース「ザ・ルーフ」 A4判カラー 8ページ

第58号(令和3年7月27日発行)

記事

田口安男《白いトルソー呼—》.....	表紙
菅野洋人「[無言館]展と「グループ〈貌〉とその時代展」」.....	p.2
新田量子「遺された画家の筆跡、素材と質感の魅力」.....	p.3
鈴木誠一(当館前館長)	
「美術作品の収蔵 —郡山市立美術館の収蔵方針とコレクション形成」.....	p.4
「常設展示室紹介」.....	p.5
塚本敬介「福島と浮世絵：描かれた「鬼婆伝説」」.....	p.6
Report(ワークショップ等).....	p.7
INFORMATION、TOPICS.....	p.8

美術館ニュース「ザ・ルーフ」 A4判カラー 8ページ
 第59号(令和3年12月14日発行)

記事

古賀春江《蝸牛のいる田舎》	表紙
田中有沙子「創設者オスカー・ゲーズ氏のコレクションへの情熱」	p.2
永山多貴子「やなせたかしの抒情世界」	p.4
新田量子「報告 企画展「郡山の美術とであう」」	p.5
「令和2年度収蔵品紹介」	p.6
Report(ワークショップ等)	p.7
INFORMATION、TOPICS	p.8

ザ・ルーフ・ミュージアム・カレンダー

A4判三つ折り、片面4色、片面1色

常設展示目録

「常設展示目録 第1期	令和3年4月28日～7月18日	B4判二つ折り、両面1色
「常設展示目録 第2期	令和3年7月21日～10月3日	B4判二つ折り、両面1色
「常設展示目録 第3期	令和3年10月6日～12月26日	B4判二つ折り、両面1色
「常設展示目録 第4期	令和4年2月11日～4月24日	B4判二つ折り、両面1色

ポスター、チラシ、パンフレット

挑む浮世絵 国芳から芳年へ

ポスターB2判4色、チラシA4判両面4色

「無言館」展 遺された絵画からのメッセージ

ポスターB2判4色、チラシA4判両面4色

郡山の美術とであう

ポスターB2判4色、チラシA4判両面4色

東日本大震災10年 やなせたかしの世界 -愛と叙情 アンパンマンを生んだひと-

ポスターB2判4色、チラシA4判両面4色

スイス プチ・パレ美術館展 ルノワールからエコール・ド・パリへ

ポスターB2判4色、チラシA4判両面4色



ザ・ルーフ 第58号



ザ・ルーフ 第59号



カレンダー2021



年報 令和2年度

12) 館外での活動及び関連記事・報道

他機関からの委嘱

- ・杉原 聡：福島大学芸術による地域創造研究所客員研究員(平成21年度～)
- ・中山恵理：福島県立美術館収集評価委員会委員(令和元年12月～)、令和3年度東京藝術大学美術学部「杜の会賞」選考委員
- ・菅野洋人：第57回いわき美術協会展審査員(令和3年11月8日)
- ・富岡進一：郡山市上下水道局水道週間ポスター展審査委員

市政きらめき出前講座講師

- ・田中有沙子「郡山ゆかりの美術講座」橘地域公民館、令和3年7月14日(水)
- ・菅野洋人「美術に関する教養講座」あさかの学園大学、令和3年7月30日(金)
- ・永山多貴子「郡山ゆかりの美術講座」(中止)富久山楽ゆう塾、令和3年8月24日(火)
- ・新田量子「郡山ゆかりの美術講座」(延期)あさかの学園大学、令和3年9月24日(金)
- ・永山多貴子「美術に関する教養講座」10研修クラブ、令和3年11月30日(火)
- ・富岡進一「郡山ゆかりの美術講座」郡山市立郡山第一中学校、令和3年12月8日(水)
- ・菅野洋人「郡山ゆかりの美術講座」赤津区、令和4年1月16日(日)

その他講師

- ・永山多貴子「令和3年度郡山市小学校教育研究会 図画工作科研究部会研修会」
当館多目的スタジオ、令和3年7月29日(木)
- ・永山多貴子「講演会～小林かいちと抒情画の系譜～」呉市立美術館、令和4年2月13日(日)

関連記事

寄稿

- ・菅野洋人「さよならだけが人生だ 追悼・村田哲朗先生」、『美連協ニュース』2021年8月号第151号、美術館連絡協議会事務局、令和3年8月、『美術館連絡協議会 40年のあゆみ』美術館連絡協議会事務局、令和4年3月30日。
- ・菅野洋人「審査講評」、『第57回いわき美術協会展出品目録』いわき美術協会、令和3年11月9日。
- ・菅野洋人「明治期『時事新報』絵付録と信陽堂について」、『福澤諭吉年鑑48』一般社団法人福澤諭吉協会、令和3年12月20日。

その他

- ・宮下規久朗、川上恵理 訳「フェデリコ・ズッカリ『画家・彫刻家・建築家のアイデア(抄)』」、池上俊一 監修『原典 イタリア・ルネサンス芸術論』、上巻、名古屋大学出版会、令和3年6月、93-114頁。
- ・川上恵理「史料紹介 神聖ローマ皇帝ルドルフ2世による版画家への特権付与について」、『美術史論集』(神戸大学美術史研究会)、22号、令和4年2月、(1)-(13)頁。

IV 作品収集・保存管理事業

1) 新収蔵作品・美術資料一覧

美術品の収集は、(1)イギリスの近代美術、(2)日本の近代美術、(3)郡山ゆかりの美術、(4)本(版)の美術、の4つの柱を基本方針として行っている。

令和3年度の収集状況は、購入8件、寄贈55件で、内訳は下表のとおりである。

	油彩画	水彩画、素描画	日本画	版画	彫刻	工芸	計	美術資料
平成13年度まで	233	353	30	1,219	25	168	2,028	103
平成14年度	16	27	0	29	6	16	94	0
平成15年度	2	0	2	0	0	0	4	0
平成16年度	9	1	1	0	0	0	11	0
平成19年度	0	0	17	0	8	5	30	0
平成20年度	13	16	0	1	1	0	31	0
平成24年度	4	0	0	2	0	0	6	2
平成25年度	2	0	0	0	0	1	3	0
平成26年度	1	0	0	3	1	22	27	7
平成29年度	5	0	0	7	4	0	16	0
平成30年度	2	6	0	4	2	9	23	4
令和元年度	1	0	5	4	3	20	33	0
令和2年度	12	2	3	1	0	5	23	0
令和3年度	9	3	0	48	0	3	63	0
合計	309	408	58	1,318	50	249	2,392	116

■令和3年度新収蔵作品

No.	作者名	タイトル	制作年	技法・材質	サイズ (cm)	取得形態
1	蛭川式胤	山城国上賀茂景	1880-81 (明治13-14)年	混合技法・板	56.8×75.0	購入
2	亀井至一	東京上野之景	1874(明治7)年	油彩・キャンバス	24.1×31.3	購入
3	亀井竹二郎	蛭川与志肖像	1877(明治10)年	油彩・キャンバス	34.1×25.7	購入
4	亀井竹二郎	大和国龍田川景	1876-78 (明治9-11)年	油彩・ボード	22.8×29.6	購入
5	亀井竹二郎	大和国春日ノ神社ノ若宮ノ夜景	1875-78 (明治8-11)年	油彩・キャンバス	48.3×66.0	購入
6	吉井 忠	静かなる冬	1930(昭和5)年	油彩・キャンバス	50.0×60.8	購入
7	佐藤潤四郎	グリーン大杯・ガラスの神様	1980年代	ガラス(宙吹き・プランツ、グラヴェール)	14.0×10.0	購入
8	佐藤潤四郎	花器	1980年代	ガラス(宙吹き・プランツ)	23.5×12.5	購入
9	蛭川式胤	明治十年徴募巡査不二川ヲ通行スルノ図	1880(明治13)年	混合技法・板	56.7×74.8	蛭川親靖氏寄贈
10	亀井竹二郎	老女肖像	1877(明治10)年頃	油彩・キャンバス	33.5×25.0	蛭川親靖氏寄贈
11	高山良策	血化洞尻酢池場留	1975(昭和50)年	油彩・キャンバス	162.0×130.3	柳沼文子氏寄贈
12	佐藤潤四郎	陶板・窯	1970年代後半 -1980年代前半	陶器	28.5×21.3×2.3	高木義人氏寄贈
13	人見純一	花売り娘、ロンドン	1923(大正12)年	水彩、鉛筆・紙	10.7×12.3	丹尾安典氏寄贈
14	人見純一	編物をする少女、キングストン・ヒル	1923(大正12)年	水彩、鉛筆・紙	17.0×8.6	丹尾安典氏寄贈
15	人見純一	羊	1945(昭和20)年	鉛筆・紙	5.3×12.2	丹尾安典氏寄贈

No.	作者名	タイトル	制作年	技法・材質	サイズ (cm)	取得形態
16	画工兼出版人誠協堂 渡辺忠久	貴顕肖像	1887(明治20)年	石版・紙	30.0×38.4	丹尾安典氏寄贈
17	山本芳翠画 合田清刻	北溟漁史武田忠臣君肖像	1889(明治22)年	木口木版・紙	44.5×25.5	丹尾安典氏寄贈
18	画工印刷兼発行人 学術用幻燈及映画製造所 吉原秀雄	貴顕之肖像	1889(明治22)年	石版、手彩色・紙	36.7×28.2	丹尾安典氏寄贈
19	画作者岡村政子 石画者酒井鈴子 信陽堂岡村竹四郎発行	義朝之妾常盤	1889(明治22)年	石版、手彩色・紙	25.9×35.3	丹尾安典氏寄贈
20	画作者岡村政子 石画者酒井鈴子 信陽堂岡村竹四郎発行	皇国貴顕之像 (明治天皇と皇族)	1889(明治22)年	石版・紙	28.7×37.6	丹尾安典氏寄贈
21	画作者岡村政子 石画者酒井鈴子 信陽堂岡村竹四郎発行	皇国貴顕之像 (明治天皇・皇后)	1889(明治22)年	石版・紙	29.1×39.4	丹尾安典氏寄贈
22	画作者岡村政子 石画者酒井鈴子 信陽堂岡村竹四郎発行	小野道風	1890(明治23)年	石版・紙	40.5×30.8	丹尾安典氏寄贈
23	画作者岡村政子 石画者酒井鈴子 信陽堂岡村竹四郎発行	張良	1890(明治23)年	石版・紙	40.9×29.7	丹尾安典氏寄贈
24	画作者岡村政子 石画者酒井鈴子 信陽堂岡村竹四郎発行	阿新丸	1890(明治23)年	石版・紙	40.6×29.2	丹尾安典氏寄贈
25	画作者岡村政子 石画者酒井鈴子 信陽堂岡村竹四郎発行	行成卿	1890(明治23)年	石版・紙	41.2×28.8	丹尾安典氏寄贈
26	画作者岡村政子 石画者酒井鈴子 信陽堂岡村竹四郎発行	下野公助	1890(明治23)年	石版・紙	41.1×29.5	丹尾安典氏寄贈
27	画作兼印刷発行者 四方堂上條與茂太郎	帝国至尊之御影	1890(明治23)年	石版・紙	33.4×44.8	丹尾安典氏寄贈
28	画作兼印刷発行者 四方堂上條與茂太郎	大日本兩陛下御尊影	1901(明治34)年	石版・紙	32.7×41.3	丹尾安典氏寄贈
29	画作印刷兼発行者 新彩館榎本賢次郎	大婚廿五年祝典舞樂之図	1894(明治27)年	石版・紙	29.0×39.5	丹尾安典氏寄贈
30	国民教育会発行	明治四十一年秋奈良地方特別演習(表紙付)	大正期	写真	20.2×27.4	丹尾安典氏寄贈
31	水野孤芳画 玄々堂石印	憲法発布式場之図 (『朝野新聞』号外)	1889(明治22)年	石版・紙	27.1×42.0	丹尾安典氏寄贈
32	S OYAMA画 泰錦堂石印	和氣清麿使於宇佐八幡宮途 遇基友路豊永見賜之図 (『朝野新聞』第5522号附録)	1892(明治25)年	石版・紙	28.0×39.5	丹尾安典氏寄贈
33	韭一舎印行	(会議図) (『新潟新聞』第3912号附録)	1890(明治23)年	石版・紙	21.9×31.9	丹尾安典氏寄贈
34	T.T画 新潟新聞石版部印行	霜台公軍當賞月図 (『新潟新聞』第5000号附録)	1893(明治26)年	石版・紙	30.4×42.1	丹尾安典氏寄贈
35	(生巧館刻)	板垣伯 大隈伯 鳥尾子 井上伯 大井氏 後藤伯 谷子 (『国民新聞』第92号附録)	1890(明治23)年	木口木版・紙	24.0×36.7	丹尾安典氏寄贈
36	久保田米僊画	宇治拾遺物語 (『国民新聞』第196号附録)	1890(明治23)年	石版・紙	39.5×28.2	丹尾安典氏寄贈
37	久保田米僊画	戦場としての平壤 (『国民新聞』第1426号附録)	1894(明治27)年	木版・紙	49.8×35.2	丹尾安典氏寄贈
38	久保田米僊画	敵国降伏 (『国民新聞』第1447号附録)	1894(明治27)年	石版・紙	51.0×27.0	丹尾安典氏寄贈
39	亀井至一画 泰錦堂石印	(美人弹琴図) (『東京中新聞』第2852号附録)	1890(明治23)年	石版・紙	29.7×41.9	丹尾安典氏寄贈
40	菊池容齋画 吉田急刻	(日本武尊) (『あづま新聞』第84号附録)	1891(明治24)年	木版・紙	40.8×30.3	丹尾安典氏寄贈

No.	作者名	タイトル	制作年	技法・材質	サイズ (cm)	取得形態
41	佐久間文吾画 泰錦堂石印	護良親王芳野山陣中に 於て最後御盃之図(『小 国民』第4年第7号附録)	1892(明治25)年	石版・紙	28.0×45.1	丹尾安典氏寄贈
42	小柴英侍石印	芳名千秋 朱染亭の討死 (『二六新聞』第285号附録)	1894(明治27)年	石版・紙	24.3×35.8	丹尾安典氏寄贈
43	高橋勝蔵画 猶興舎製版 忠愛社印行	雪 (『時事新報』第4157号附録)	1894(明治27)年	写真製版・紙	21.6×27.6	丹尾安典氏寄贈
44	浅井忠画 東京信陽堂石印	帝国軍艦富士及八島 (『時事新報』第4792号附録)	1897(明治30)年	石版・紙	32.1×48.8	丹尾安典氏寄贈
45	浅井忠画 東京信陽堂石印	此歳の獲物 (『時事新報』第5418号附録)	1899(明治32)年	石版・紙	28.4×41.1	丹尾安典氏寄贈
46	浅井忠画 信陽堂石印	狩 (『時事新報』第5783号附録)	1900(明治33)年	石版・紙	31.1×46.0	丹尾安典氏寄贈
47	平井武雄画 東京印刷株式会社印刷	(大正天皇・皇后) (『時事新報』第10530号附録)	1913(大正2)年	オフセット・紙	27.4×39.4	丹尾安典氏寄贈
48	白瀧幾之助画 東洋印刷株式会社印刷	御即位式御正装之尊影 (『時事新報』第11570号附録)	1915(大正4)年	オフセット・紙	36.7×49.1	丹尾安典氏寄贈
49	T.CHIYA画 邨揚堂刀	台北城内 (『日本』第2152号附録)	1895(明治28)年	木版・紙	47.0×33.7	丹尾安典氏寄贈
50	東京国文社製	(迪宮裕仁親王) (『徳島日々新聞』第7614号附録)	1902(明治35)年	石版・紙	30.3×22.5	丹尾安典氏寄贈
51	(小杉未醒画) 猶興舎印行	遼陽の大決戦 (『戦時画報』第21号附録)	1904(明治37)年	写真製版・紙	26.6×41.0	丹尾安典氏寄贈
52	小川一真製版印刷	ドゥンアンジュアン北端ヨ リ首山堡砲撃ノ図 (『長野新聞』第1847号附録)	1905(明治38)年	写真製版・紙	24.4×38.0	丹尾安典氏寄贈
53	満谷国四郎画 日本精版印刷会社印刷	日本国歌・英吉利国歌・露西亜 国歌・仏蘭西国歌 (『大阪毎日新聞』第11289号附録)	1915(大正4)年	石版・紙	36.6×51.1	丹尾安典氏寄贈
54	満谷国四郎画 大日本精版印刷会社印行	(大正天皇) (『大阪毎日新聞』第11562号附録)	1915(大正4)年	石版・紙	46.9×33.3	丹尾安典氏寄贈
55	山内愚僊画 森川印刷所印刷	長閑 (『大阪朝日新聞』第9633号附録)	1909(明治42)年	石版・紙	7.8×34.0	丹尾安典氏寄贈
56	和田英作画 森川印刷所印刷	(明治天皇) (『大阪朝日新聞』第10363号附録)	1911(明治44)年	石版・紙	46.9×33.9	丹尾安典氏寄贈
57	中沢弘光画 改進黨印刷	(大正天皇・皇后・皇太子) (『東京朝日新聞』第9493号附録)	1913(大正2)年	石版・紙	50.1×35.9	丹尾安典氏寄贈
58	和田英作画 改進黨作版印刷	(船上の大正天皇) (『東京朝日新聞』第9858号附録)	1914(大正3)年	石版・紙	47.6×34.1	丹尾安典氏寄贈
59	和田英作画 改進黨作版印刷	御学問所の皇太子殿下 (『東京朝日新聞』第10223号附録)	1915(大正4)年	石版・紙	47.0×33.9	丹尾安典氏寄贈
60	和田英作画 改進黨製版印刷	紫宸殿上御即位式の図 (『東京朝日新聞』第10527号附録)	1915(大正4)年	石版・紙	50.1×72.7	丹尾安典氏寄贈
61	和田英作画 森川印刷所作版印刷	鳩 (『東京朝日新聞』第10588号附録)	1916(大正5)年	石版・紙	47.9×34.3	丹尾安典氏寄贈
62	和田英作画 改進黨作版印刷	(大正天皇・皇后) (『東京朝日新聞』第11319号附録)	1918(大正7)年	石版・紙	48.0×33.4	丹尾安典氏寄贈
63	和田英作画 森川印刷所作版印刷	朝晴雪 (『東京朝日新聞』第11684号附録)	1919(大正8)年	石版・紙	33.8×48.6	丹尾安典氏寄贈



1 蛭川式胤《山城国上賀茂景》



2 亀井至一《東京上野之景》



3 亀井竹二郎
《蛭川与志肖像》



4 亀井竹二郎《大和国龍田川景》



5 亀井竹二郎
《大和国春日ノ神社ノ若宮ノ夜景》



6 吉井忠《静かなる冬》



7 佐藤潤四郎
《グリーン大杯・
ガラスの神様》



8 佐藤潤四郎《花器》



9 蛭川式胤
《明治十年徴募巡査不二川ヲ通行スルノ図》



10 亀井竹二郎《老女肖像》



11 高山良策
《血化洞屍酢池場留》



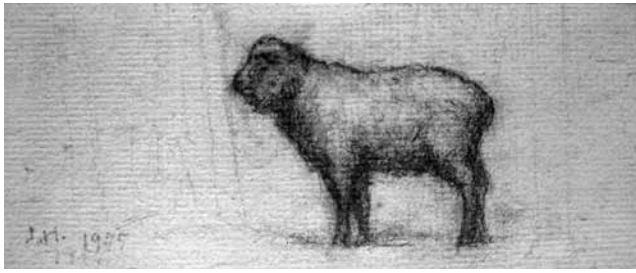
12 佐藤潤四郎《陶板・窯》



13 人見純一《花売り娘、ロンドン》

14 人見純一
《編物をする少女、
キングストン・ヒル》





15 人見純一《羊》



16



17



18



19



20



21



22



23



24



25



26



27



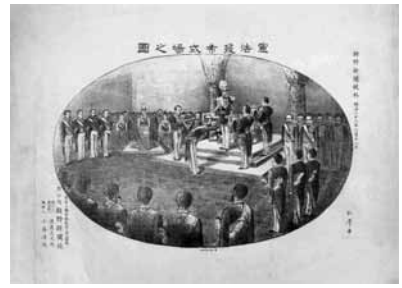
28



29



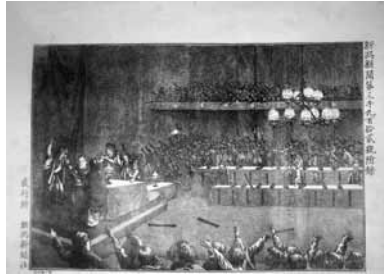
30



31



32



33



34



35



36



37



38



39



40



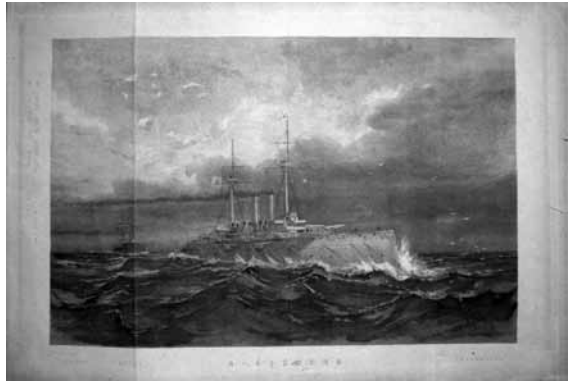
41



42



43



44



45



46



47



48



49



50



51



52



53



54



55



56



57



58



59



60



61



62



63

作品収集・
保存管理事業

2) 収蔵作品貸出状況

作者名	作品名	展覧会名	会場	会期
ジョン・セル・コットマン	ルーアン、ラ・ピュセル広場のブルトルルド館	#映える風景を探して -古代ローマから世紀末 パリまで	町田市立 国際版画 美術館	令和3年4月24日(土) ～6月27日(日)
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	コニストンの荒地			
ジョン・コンスタブル	虹、ソールズベリー大聖堂			
デイヴィッド・コックス	『若い芸術家のための 臨画手本』			
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ネッカー川対岸から見た ハイデルベルク			
ジョン・ヴァーレー	『遠近画法と風景画の構想 についての論文』			
ジョン・セル・コットマン	クロイランド修道院、 リンカンシャー			
ジョン・セル・コットマン	ハウデン教会、ヨークシャー	長野県立美術館 グランドオープン記念 森と水と生きる	長野県立 美術館	令和3年8月28日(土) ～11月3日(水)
ジョン・ウィリアム・ウォーターハウス	フローラ			
アルフレッド・ウィリアム・パーソンズ	箱根の秋	没後80年 郷愁の画家 丸山晚霞 一師友とその時代	長野県立 歴史館	令和4年1月15日(土) ～2月27日(日)
サー・アルフレッド・イースト	荒れ模様			
ジョン・ヴァーレー・ジュニア	雪の京都、祇園へゆく道			
中川八郎	早春			
大下藤次郎	蓮池			
河合新蔵	ノウゼンカズラのある宿場			

※会期は変更になっている場合があります。

3) 収蔵作品等の掲載

- ・床次正精《西郷隆盛像》
公益財団法人西郷南州顕彰会『敬天愛人』第39号、令和3年9月24日。
- ・バーバラ・ヘップワース《ふたつのフォルム(青)》、ヘンリー・ムーア《彫刻のための絵画的構想と設定》、《環の内側(ストーンヘンジⅣ)》
『名古屋画廊 Uncommon Art of 20th Century 1995-2002』、令和3年12月。
- ・五姓田芳柳《風俗図屏風》
細井聖著『朝焼けと狩人一幻の画家・笠木治郎吉の生涯』かまくら春秋社、令和3年12月。
- ・北沢楽天《やまとひめとブリタニヤ》
『歴史総合演習ノート』実教出版、令和4年1月25日。
『詳述歴史総合』実教出版、令和4年1月25日。
- ・佐藤潤四郎《タンブラー》、《ルーマー杯・なみなみのワインを》、《オブジェ・羊車》、《奈良・薬師寺玄奘三蔵院舎利器(控)No.1》、《オブジェ・仏足跡》、《手吹きウイスキーボトル《スーパーニッカ》東京五輪1964モデル》および常設展示室・企画展示室写真
鈴木誠一著『郡山市立美術館と佐藤潤四郎調査研究の軌跡～作品収集とふたつの企画展をとおして～』『GLASS』第66号、日本ガラス工芸学会、令和4年3月。
- ・北川民次《芸者》
勝田琴絵著『北川民次《赤津陶工の家》再考』名古屋市美術館研究紀要、令和4年3月31日、および名古屋市美術館アートペーパー116号、令和4年4月1日。
- ・山本芳翠《園田銚像》
相川良彦著『広田先生の夢の女(2)一漱石『三四郎』覚書一』同人誌『群系』48号、令和4年6月、および『漱石の愛と悲哀』(仮題)、令和5年。
- ・ダンテ・ガブリエル・ロセッティ《マドンナ・ピエトラ》
YouTubeチャンネル「山田五郎 オトナの教養講座」、令和3年10月12日。
- ・郡山市立美術館敷地内、建物外観および敷地内オブジェの静止画像・動画
郡山健康科学専門学校国際交流委員会主催「ショートムービーコンテスト」出品作品、令和3年10月30日。
- ・サー・ジョシュア・レイノルズ《エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像》および館内での作業風景写真(修復研究所21撮影)
修復研究所21ウェブサイト。
- ・ジョン・ヴァーレー《ポントシスリット・アクアダクト》、リチャード・ウィルソン《キケロの別荘》、鹿子木孟郎《水車小屋》、アレクサンダー・カズンズ《川岸に神殿のある風景》
郡山市立美術館「常設展2021年度第4期」レビュー記事、ウェブサイト「これぼーと」。

4) 収蔵作品修復状況

◆川村清雄《滝》

技法材質：油彩・キャンバス

制作年：1919(大正8)年

寸法：60.5×41.0cm

修復者：(有)修復研究所21

修復前の状況

- 部分的にやや褐色の透明な塗膜層が認められ、有機溶剤に反応しないことから乾性油の可能性はある。
- 地塗り層からの剥落が広範囲に認められるが、特に右下部は冠水の影響から剥落が集中している。
- 全体に汚れが付着している。
- 下部の黒色部分にチョーキングが生じている。
- 下辺中央付近に、木枠と画布の間に挟まったゴミが影響し、凸型の支持体変形が生じている。
- 左上部に支持体変形が生じている。

修復内容

- 浮き上がり接着(膠水、加温加圧)。
- 支持体裏面の清掃、殺菌(エタノール水)。
- 支持体変形部の裏面を加湿・加温後、加圧しながら変形修正。
- 支持体の張りしろ裏面に、麻布をBEVAシートで接着し耳補強。
- 画面の洗浄(精製水)。
- 絵具層の剥落部分に充填剤(硫酸カルシウム+膠水)を注し整形。
- 画面に防黴材(チアベンダゾールなど)入りのワニスを塗布。

- 充填整形部や除去できなかった汚れ部分に修復用アクリル絵具で補彩。
- 画面保護と光沢調整のため、ダンマル樹脂ワニスを噴霧。
- 額縁と裏蓋(レキサンポリカーボネート板)を新調。

◆川村清雄《水郷》

技法材質：油彩・キャンバス

制作年：不詳

寸法：50.7×72.9cm

修復者：(有)修復研究所21

修復前の状況

- 部分的にやや褐色の透明な塗膜層が認められ、有機溶剤に反応しないことから乾性油の可能性がある。
- 固着状態が非常に悪く、剥落が広範囲に認められる。
- 厚塗り部分には亀裂とそれに伴う浮き上がりが見られる。
- 全体に汚れが付着し、虫糞が散在している。
- 画面上部に波型の変形が生じている。
- 裏面には水染みが見られることから、部分的に冠水したと思われる。
- 木枠には歪みと反りがあり、支持体はひし形状となっている。
- 額縁の材にも歪みと反りがあり、支持体同様にひし形状となっている。
- 装飾に欠損が見られる。
- 額縁の窓寸法よりも作品寸法が小さいため、額装が不安定な状態である。

修復内容

- 浮き上がり接着(膠水、加温加圧)。
- 支持体裏面の清掃、殺菌(エタノール水)。
- 支持体の張りしろ裏面に、麻布をBEVAシートで接着し耳補強。
- 画面の洗浄(精製水)。
- 支持体変形部の裏面を加湿・加温後、加圧しながら変形修正。
- 木枠にポリエステル布を張り、その上から作品を張り込み。
- 絵具層の剥落部分に充填剤(硫酸カルシウム+膠水)を注し整形。
- 画面に防黴材(チアベンダゾールなど)入りのワニスを塗布。
- 充填整形部と剥落部分に修復用アクリル絵具で補彩。
- 画面保護と光沢調整のため、ダンマル樹脂ワニスを噴霧。さらに光沢調整としてターレンス社のダンマルマットワニスを噴霧。
- 額縁を解体、額縁材を切断し寸法を調整。木工用ボンドで接着固定、泥足とL字金具設置。
- 額縁の欠損部に、型取りしたウレタン樹脂をエポキシ接着剤で接着し、アクリル樹脂絵具で補彩。
- 裏蓋(レキサンポリカーボネート板)を新調。

◆高木背水《英国帝室植物園》

技法材質：油彩・キャンバスボード

制作年：不詳

寸法：24.2×32.8cm

修復者：(有)修復研究所21

修復前の状況

- 全体に塗布されたワニスの光沢が不均一でやや黄化している。
- 画面中央に暗褐色の液体の垂れ跡があり、乾性油が劣化したものである可能性が考えられる。
- 細かな剥落が全体にあり、左上部には擦傷による大きな剥落が生じている。
- 黴や虫糞、付着物が散在している。
- 左上部に地塗り層からの剥落がある。
- 支持体には反りが生じており、裏面に傷が散在する。
- 額縁の四つ角の金色の装飾部分に緑青が生じている。
- 額縁の窓寸法と作品寸法がほぼ同じため、額装が不安定な状態である。

修復内容

- 浮き上がり接着(膠水、加温加圧)。
- 画面の洗浄(精製水)。
- 旧ワニスを除去(ミネラルスピリット+エタノール(2:1))。
- 付着物と虫糞をメスで除去。
- 支持体裏面に付着した汚れをケミカルスポンジで清掃、殺菌(エタノール水)。

- 絵具層の剥落部分に充填剤(硫酸カルシウム+膠水)を注し整形。
- 画面に防黴材(チアベンダゾールなど)入りのワニスを塗布。
- 充填整形部と付着物、黴跡、液体の垂れ跡に、修復用アクリル絵具で補彩。
- 画面保護と光沢調整のため、ダンマル樹脂ワニスを噴霧。
- 額縁を清掃後、損傷部をアクリル絵具で補彩。
- 面金を取り付け、窓寸法を調整。
- アーカイバルボードを緩衝材とし、T字金具で固定。
- 裏蓋(レキサンポリカーボネート板)を新調。

◆高木背水《港の風景》

技法材質：油彩・キャンバス

制作年：不詳

寸法：33.6×45.5cm

修復者：(有)修復研究所21

修復前の状況

- 全体に塗布された旧ワニスの黄化が著しく、塗布むらも目立っている。
- 旧補彩が広範囲に施されている。
- 中央付近に黴が集中している。
- 上辺と左辺に剥落が見られる。
- 四辺に画布の破れが散在している。
- 四辺に張りむらによる支持体変形が見られる。
- 左右に木枠当たりが生じている。
- 全体に汚れが付着し、くすんだ様子である。

修復内容

- 浮き上がり接着(膠水、加温加圧)。
- 支持体裏面の清掃、殺菌(エタノール水)。
- 支持体の張りしろ裏面に、麻布をBEVAシートで接着し耳補強。
- 画面の洗浄(精製水)。
- 旧ワニスを除去(ミネラルスピリット+エタノール(2:1))。
- 絵具層の剥落部分に充填剤(硫酸カルシウム+膠水)を注し整形。
- 画面に防黴材(チアベンダゾールなど)入りのワニスを塗布。
- 充填整形部と除去しきれなかった旧補彩に、修復用アクリル絵具で補彩。
- 画面保護と光沢調整のため、ダンマル樹脂ワニスを噴霧。
- 裏蓋(レキサンポリカーボネート板)を新調。

◆吉井忠《地の群れ》

技法材質：油彩・キャンバス

制作年：1963(昭和38)年

寸法：112.2×145.7cm

修復者：(有)修復研究所21

修復前の状況

- 細かな剥落が生じ、浮き上がりも数か所で認められる。
- 広範囲にチョーキングが生じ白濁した色調となっている。
- 全体に汚れが付着している。
- 張りしろの地塗り層には劣化が見られ、固着状態が悪い。
- 支持体下辺に波型の変形が生じている。
- 下辺の左右角には支持体のへこみがあるが、木枠が部分的に欠損した状態で画布が張り込まれている。
- 中棧が一本交換されているが、外枠との接合部の隙間が広すぎるため、不安定な状態である。
- 棒縁の額縁で、側面から釘で固定されている。

修復内容

- 浮き上がり接着(膠水、加温加圧)。
- 支持体裏面の清掃、殺菌(エタノール水)。
- 支持体変形部の裏面を加湿・加温後、加圧しながら変形修正。
- 支持体の張りしろ裏面に、麻布をBEVAシートで接着し耳補強。
- 木枠の欠損部分の形に合うよう木材を加工し、水性接着剤で接着して補填。
- 画面の洗浄(精製水)。

- 絵具層の剥落部分に充填剤(硫酸カルシウム+膠水)を注し整形。
- 画面に防黴材(チアベンダゾールなど)入りのワニスを塗布。
- 充填整形部に修復用アクリル絵具で補彩。
- 画面保護と光沢調整のため、ターレンス社のダンマルマットワニスを噴霧。
- 額縁と裏蓋(レキサソポリカーボネート板)を新調。

◆サー・アルフレッド・イースト《雨の湯本》

技法材質：水彩・紙

制作年：不詳

寸法：36.7×25.6cm

修復者：(有)修復研究所21

修復前の状況

- 厚み0.3mm程度の洋紙を用いている。
- 濃い褐色の斑状のしみが散在している。
- 全体にゆるやかな波打ち変形が生じている。画面右上と左下角に、半円形の皺がある。
- 裏面上辺と下辺に旧ヒンジ紙が残っている。
- 額縁に覆われていた周縁部と比較すると、窓から露出していた部分に絵具の褪色が観察される。

修復内容

- 粉末消しゴム、刷毛、練りゴムを使用し表面を乾式洗浄。
- 裏面上辺・下辺に残っていた旧ヒンジをピンセットで除去。
- 斑点状のしみ部分に、希アンモニア水を滴下した過酸化水素水を筆で注し入れ、部分的に漂白。しみが目立たなくなるまでこの処置を繰り返した。
- 低反射アクリル、窓マット・ベースマット、緩衝材、裏板、吊り金具、T字金具、黄袋新調。
- 旧裏蓋に接着されていたラベルを取り外し、和紙と生麩糊で裏打ち後、新しい裏蓋に移設。
- 和紙ヒンジとカルボキシメチルセルロースを用いて、作品をベースマットに固定。

◆ジョン・コンスタブル《ストーン・ヘンジ》

技法材質：メゾチント・紙

制作年：1843年頃

寸法：13.2×19.8cm

修復者：(有)修復研究所21

修復前の状況

- 厚み0.5mm程度の洋紙の中央に和紙を貼って印刷している。
- ウィンドウマットから露出していた部分が黄化し、褐色の斑状のしみが散在している。周縁部にも黄化あり。
- 全体にゆるやかなたわみが生じている。
- 印刷部分の裏面は黄化している。
- 裏面上辺の両端と右辺に旧ヒンジ紙が残っている。
- 裏面のプレートマークの内側に、水性のしみが生じている。

修復内容

- 粉末消しゴム、刷毛、練りゴムを使用し表面を乾式洗浄。
- 裏面上辺の両端に残っていた旧ヒンジをピンセットで除去。
- 斑点状のしみ部分に、希アンモニア水を滴下した過酸化水素水を筆で注し入れ、部分的に漂白。しみが目立たなくなるまでこの処置を繰り返した。
- 精製水、希アンモニア水、エタノールを使用し水洗処置を行い、乾燥させて変形修正した。
- 和紙ヒンジとカルボキシメチルセルロースを用いて作品を既存のBook型マットに固定した。
- しみ抜き処置後にシミの戻りが観察されたため、今後も長期的な経過観察が必要。

5) その他の保存管理事業

燻蒸

作業日時：令和4年1月27日(木)～2月2日(水)

燻蒸箇所：企画展示室(容積合計6,790m³)

使用薬剤：エキヒュームS

施工業者：関東港業株式会社 千葉営業所

効果判定：殺虫、殺卵、殺カビすべて100%(公益財団法人文化財虫菌研究所による判定)

V 利用者数

美術館総利用者数 91,461 人

1) 展覧会 73,704 人

展覧会観覧者数

(人)

展覧会名	会 期	日 数	観覧者数
挑む浮世絵 国芳から芳年へ	4月24日～6月6日	38	6,428
「無言館」展	6月19日～8月29日	62	9,870
郡山の美術とであう	9月10日～10月10日	27	2,149
やなせたかしの世界	10月23日～12月26日	56	25,225
スイス プチ・パレ美術館展	2月11日～3月27日 ※3月17日、18日は地震の影響により臨時休館	37	5,953
企画展小計		269	49,625
常設展	令和3年4月1日～令和4年3月31日		1,730
企画展観覧券で常設展も観覧した人数			22,349
合 計			73,704

(内訳)

(人)

		企画展計	挑む浮世絵 国芳から 芳年へ	「無言館」展	郡山の美術と であう	やなせたかしの 世界	スイス プチ・パレ 美術館展	常設展	企画展観覧券 で常設展も観 覧した人数	
有 料	個 人	一 般	21,927	3,410	3,182	655	12,155	2,525	571	9,966
		高・大	1,606	206	393	63	625	319	80	996
		65歳以上	8,074	1,044	3,086	396	2,016	1,532		3,583
		計	31,607	4,660	6,661	1,114	14,796	4,376	651	14,545
	団 体	一 般	179	4	29	2	121	23	4	92
		高・大	213	0	45	0	127	41	1	209
		65歳以上	194	61	0	21	112	0		194
		計	586	65	74	23	360	64	5	495
	友 の 会	一 般	434	106	107	46	88	87	33	180
		高・大	33	7	6	5	8	7	2	10
		65歳以上	426	76	109	55	84	102		156
		計	893	189	222	106	180	196	35	346
	小 計		33,086	4,914	6,957	1,243	15,336	4,636	691	15,386
	無 料	高 齢 者							287	
		シルバー＝友の会							15	
		一 般							108	
高・大								1		
中学生以下(個人)		6,887	248	622	46	5,756	215	185	1,342	
中学生以下(団体)		2,565	49	994	60	1,462	0	341	2,565	
減 免		132	80	52	0	0	0	0	132	
ピラ下券		2,220	538	337	194	733	418	0	877	
招 待 券		1,367	160	254	364	373	216	0	613	
関 係 者		983	119	237	150	340	137	56	545	
障 が い 者		1,094	187	258	44	425	180	18	510	
療育／精神		685	53	66	32	452	82	15	198	
同 伴 者		606	80	93	16	348	69	13	181	
小 計		16,539	1,514	2,913	906	9,889	1,317	1,039	6,963	
合 計		49,625	6,428	9,870	2,149	25,225	5,953	1,730	22,349	

2) 教育普及事業 17,757 人

事業名	回数	参加者数	備考
講演会	4	229	
アーティストトーク	2	110	
スライドトーク	10	303	
文化講座	1	54	
ワークショップ	2	26	
ミュージアム・シアター	6	304	
ミュージアム・コンサート	1	72	
風土記の丘の美術展	1	4,525	令和3年7月24日～8月20日
風土記の空	1	8,735	令和3年10月20日～11月23日
鑑賞学習対応	1	3,394	幼稚園5園、小学校33校、中学校18校、 高校2校、大学・専門学校他2校 計60校
博物館実習	1	5	令和3年7月30日～8月4日
合計	30	17,757	

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のためギャラリートークは中止。講座等については感染症対策を講じた上で、回数や参加者数を限定しながら開催した。

3) 過去5年間の利用者数推移状況

年 度		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
総利用者数(人)		42,039	104,151	65,965	61,352	91,461
展覧会	展覧会観覧者数(人)	33,313	89,305	54,115	56,376	73,704
	企画展本数(本)	2	3	5	4	5
普及事業	普及事業参加者数(人)	8,726	14,846	11,850	4,976	17,757
	普及事業回数(回)	62	58	48	15	30

※令和2年度の企画展本数は、「石田智子展」(令和元年度事業)を除く。

4) 教育普及事業別参加者数の推移状況

年 度		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
アート・トーク	参加者数(人)	239	395	248	令和元年度で 終了	令和元年度で 終了
	回数	3	4	3		
講演会	参加者数(人)	143	482	376	140	229
	回数	3	4	5	3	4
文化講座	参加者数(人)	-	-	-	14	54
	回数	-	-	-	1	1
美術講座	参加者数(人)	42	482	172	123	0
	回数	4	9	5	3	0
スライドトーク	参加者数(人)	-	-	-	-	303
	回数	-	-	-	-	10
アーティスト トーク	参加者数(人)	-	-	-	-	110
	回数	-	-	-	-	2
ギャラリートーク	参加者数(人)	66	208	470	新型コロナウイルス 感染症拡大 防止のため中止	新型コロナウイルス 感染症拡大 防止のため中止
	回数	4	8	18		
ワークショップ	参加者数(人)	253	107	160	新型コロナウイルス 感染症拡大 防止のため中止	26
	回数	10	4	4		2
ミュージアム・ シアター	参加者数(人)	67	181	316	74	304
	回数	2	2	4	2	6
ミュージアム・ コンサート	参加者数(人)	150	630	0	488	72
	回数	1	2	0	2	1
グリーティング・ イベント	参加者数(人)	-	-	222	-	-
	回数	-	-	4	-	-
風土記の丘の 美術展	参加者数(人)	3,335	5,431	4,304	新型コロナウイルス 感染症拡大 防止のため中止	4,525
	回数	1	1	1		1
風土記の空	参加者数(人)	0	2,351	1,793	1,787	8,735
	回数	0	1	1	1	1
鑑賞学習対応	参加者数(人)	3,325	3,773	3,780	2,270	3,394
	受入れ校数	48	50	47	49	60
博物館実習	参加者数(人)	5	5	5	5	5
	受入れ校数	3	3	5	3	3
ジュニア・ インターンシップ	参加者数(人)	3	3	4	0	0
	受入れ校数	2	2	2	0	0

利用者数

VI 管理運営

1) 関係法規

郡山市立美術館条例

【設置】

第1条 地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条第1項及び博物館法(昭和26年法律第285号。以下「法」という。)第18条の規定に基づき、市民の美術に関する知識と教養の向上を図り、文化の発展に寄与するため、美術館を設置する。

【名称及び位置】

第2条 美術館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名称	位置
郡山市立美術館	郡山市安原町字大谷地130番地の2

【管理】

第3条 郡山市立美術館(以下「美術館」という。)は、郡山市教育委員会(以下「教育委員会」という。)が、これを管理する。

【事業】

第4条 美術館の事業は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1)美術品その他美術に関する資料(以下「美術品等」という。)を収集し、保管し、及び展示すること。
- (2)美術に関する調査及び研究を行うこと。
- (3)美術に関する展覧会、講演会、講習会及び映写会等を開催すること。
- (4)前各号に掲げるもののほか、目的を達成するために必要な事業を行うこと。

(平22条例78・一部改正)

【観覧料】

第5条 美術館の常設展(美術品等の常設展示をいう。以下同じ。)を観覧しようとする者は、別表第1に定める常設展観覧料を納入しなければならない。ただし、次の各号のいずれかに該当するときは、常設展観覧料を無料とする。

(1)国民の祝日に関する法律(昭和23年法律178号)に規定する休日に観覧する場合

(2)次項に定める企画展を観覧する場合

2 美術館の企画展(常設展以外の展示をいう。以下同じ。)を観覧しようとする者は、別表第2に定める企画展観覧料を納入しなければならない。

(平10条例35・一部改正)

【撮影等の許可及び特別観覧料】

第6条 学術研究等のため、美術館に展示され、又は保管されている美術品等の撮影、模写又は模造等(以下「撮影等」という。)をしようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。

2 前項の許可を受けた者は、別表第3に定める特別観覧料を納入しなければならない。

【観覧料等の不返還】

第7条 既納の常設展観覧料、企画展観覧料及び特別観覧料(以下「観覧料等」という。)は、これを返還しない。ただし、次の各号のいずれかに該当するときは、その全部又は一部を返還することができる。

(1)観覧又は撮影等をしようとする者の責めによらない理由により、観覧又は撮影等ができなかったとき。

(2)その他教育委員会が特別の理由があると認めるとき。

【観覧料等の免除】

第8条 市長は、公用又は公益上特に必要があると認めるときは、観覧料等の全部又は一部を免除することができる。

【入館の制限等】

第9条 次の各号のいずれかに該当するときは、教育委員会は、美術館への入館を拒み、又は退館させることができる。

(1)公益を害し、又は風俗を乱すおそれがあると認めるとき。

(2)施設、設備又は美術品等をき損又は汚損するおそれがあると認めるとき。

(3)この条例及びこれに基づく規則に違反し、又はそのおそれがあると認めるとき。

(4)前各号に掲げるもののほか、管理運営上適当でないとき。

(平22条例78・一部改正)

【賠償責任】

第10条 施設、設備又は美術品等をき損、汚損、又は滅失した者は、教育委員会の指示に従い、その損害を賠償しなければならない。ただし、教育委員会がやむを得ない理由があると認めるときは、その額を減額し又は免除することができる。

(平22条例78・一部改正)

【美術館協議会】

第11条 法第20条第1項の規定に基づき、美術館に郡山市立美術館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

2 協議会の委員(以下「委員」という。)は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から教育委員会が任命する。

3 委員の定数は、10名以内とし、その任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(平成24条例31・一部改正)

【職員】

第12条 美術館に館長その他必要な職員を置く。

【委任】

第13条 この条例の施行について必要な事項は、教育委員会が規則で定める。

附 則

この条例は、平成4年7月1日から施行する。ただし、第5条から第9条の規定は、平成4年11月21日から施行する。

附 則(平成10年郡山市条例第35号)

この条例は、平成10年10月1日から施行する。ただし、第5条第1号の改正規定は、公布の日から施行する。

附 則(平成13年郡山市条例第31号)

この条例は、平成13年4月1日から施行する。

附 則(平成15年郡山市条例第25号)

この条例は、平成15年4月1日から施行する。

附 則(平成22年郡山市条例第78号)

(施行期日)

1 この条例は、平成23年4月1日から施行する。(経過措置)

2 この条例の施行の日前に撮影等の許可を受けた者に係る特別観覧料の額については、なお従前の例による。

附 則(平成24年郡山市条例第31号)

(施行期日)

1 この条例は、平成24年4月1日から施行する。(経過措置)

2 この条例の施行の際限にこの条例による改正前の郡山市立美術館条例の規定に基づく郡山市立美術館協議会の委員である者は、この条例による改正後の郡山市立美術館条例の規定に基づく郡山市立美術館協議会の委員とみなす。

附 則(平成30年郡山市条例第41号)

この条例は、平成30年4月1日から施行する。

別表第1 【第5条関係】

(平10条例35・平13条例31・平22条例78・一部改正)
常設展観覧料

区 分	観覧料	
	個人	団体
高校生、大学生及びこれらに準ずる者	1人1回につき 100円	1人1回につき 70円
一 般	1人1回につき 200円	1人1回につき 150円

備考

- 1 「団体」とは、20名以上をいう。
- 2 65歳以上の者は、無料とする。

別表第2 【第5条関係】

(平13条例31・平15条例25・平30条例41・一部改正)
企画展観覧料

区 分	観覧料	
	個人	団体
高校生、大学生及びこれらに準ずる者	1人1回につき1,500円の範囲内でそのつど市長が定める額	
一 般		

備考

- 1 「団体」とは、20名以上をいう。
- 2 団体観覧料は、個人観覧料の10分の8に相当する額とし、10円未満の端数が生じた場合は、これを10円に切り上げる。

別表第3 【第6条関係】

(平22条例78・一部改正)

特別観覧料

区 分	観覧料	
撮影	モノクローム	1点1回につき 1,600円
	カラー	1点1回につき 3,100円
模 写 模 造	1点1日につき	2,100円
熟 覧	1点1回につき	200円

備考

- 1 一双屏風は、一双以内を1点とする。
- 2 一揃えの卷子(巻物をいう。)は、一揃え以内を1点とする。
- 3 対幅は、対幅以内を1点とする。
- 4 写真撮影は、同一作品について原板3枚以内を1回とする。

郡山市立美術館条例施行規則

【趣旨】

第1条 この規則は、郡山市立美術館条例(平成4年郡山市条例第29号。以下「条例」という。)の施行について必要な事項を定めるものとする。

【観覧券の交付】

第2条 郡山市教育委員会(以下「教育委員会」という。)は、常設展観覧料を納入した者に対して郡山市立美術館常設展観覧券(第1号様式)を、企画展観覧料を納入した者に対してそのつど定める郡山市立美術館企画展観覧券を交付する。

【撮影等の許可】

第3条 美術品その他美術に関する資料の撮影、模写又は模造等(以下「撮影等」という。)をしようとする者は、郡山市立美術館撮影等許可申請書(第2号様式)を教育委員会に提出しなければならない。

2 教育委員会は、前項に規定する撮影等を許可したときは、郡山市立美術館撮影等許可書(第3号様式)を申請人に交付する。

【観覧料等の返還】

第4条 条例第7条ただし書の規定により返還する観覧料等の額は、次の各号に掲げる区分に応じ、それぞれ当該各号に定めるとおりとする。

(1) 観覧又は撮影等をしようとする者の責めによらない理由により、観覧又は撮影等ができなくなった場合
当該観覧料等の全額

(2) その他教育委員会が特別の理由があると認めた場合
教育委員会が認める額

2 前項に規定する観覧料等の返還を受けようとする者は、郡山市立美術館観覧料等返還請求書(第4号様式)を教育委員会に提出しなければならない。

【観覧料等の免除】

第5条 条例第8条に規定する観覧料等の免除は、次の各号に掲げる区分に応じ、それぞれ当該各号に定めるとおりとする。

(1) 市(市の機関を含む。)が主催する事業の活動として常設展を観覧する場合常設展観覧料を全部免除

(2) その他教育委員会が観覧料等を免除することが適当と認める場合教育委員会が認める額

2 前項の規定により観覧料等の免除を受けようとする者は、あらかじめ郡山市立美術館観覧料等免除申請書(第5号様式)を教育委員会に提出しなければならない。

3 教育委員会は、前項の規定による申請に基づき観覧料等の免除を決定したときは、郡山市立美術館観覧料等免除決定通知書(第6号様式)を申請人に交付する。

【開館時間】

第6条 郡山市立美術館(以下「美術館」という。)の開館時間は、午前9時30分から午後5時までとする。ただし、入館は午後4時30分までとする。

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会が必要と認めたときは、これを変更することができる。

【休館日】

第7条 美術館の休館日は、次のとおりとする。ただし、教育委員会が必要と認めたときは、これを変更し、又は臨時に休館することができる。

(1) 月曜日(その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日当たるときは、その翌日とする。)

(2) 1月1日から1月4日まで及び12月28日から12月31日まで

【遵守事項】

第8条 美術館の入館者は、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。

(1) 施設、設備、美術品等をき損若しくは汚損し、又はそれらのおそれのある行為をしないこと。

(2) 所定の場所以外で飲食し、喫煙し、又は火気を使用しないこと。

(3) 他人に危害又は迷惑をおよぼすおそれのある物品又は動物を持ち込まないこと。

(4) 風紀及び秩序を乱さないこと。

(5) その他職員の指示に従うこと。

【委任】

第9条 この規則に定めるもののほか必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

この規則は、平成4年11月21日から施行する。

附 則(平成6年教委規則第3号)

(施行期日)

1 この規則は、平成6年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この規則の施行の際、現に様式の規定に基づいて作成されている用紙は、この規則の規定にかかわらず、当分の間、使用することができる。

附 則(平成15年教委規則第4号)

1 この規則は、平成15年4月1日から施行する。

2 この規則の施行の際現に改正前の様式の規定により作成されている用紙は、改正後の規則の様式の規定にかかわらず、当分の間、所要の調整をして使用することができる。

郡山市立美術館協議会規則**【趣旨】**

第1条 この規則は、郡山市立美術館協議会(以下「協議会」という。)の会議運営について必要な事項を定めるものとする。

【招集】

第2条 協議会は、郡山市立美術館長(以下「館長」という。)が招集する。

2 会議開催の場所及び日時は、付議すべき事項とともに、あらかじめ委員に通知しなければならない。

【定例会及び臨時会】

第3条 協議会は、定例会及び臨時会とする。

2 定例会は年2回とし、臨時会は必要があるときに招集する。

【会長及び副会長】

第4条 協議会に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選によって定める。

2 会長及び副会長の任期は、2年とする。ただし、再選を妨げない。

【職務】

第5条 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

2 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

【会議】

第6条 協議会は、委員の過半数で成立する。

2 議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長が決する。

【庶務】

第7条 協議会の庶務は、郡山市立美術館において処理する。

【委任】

第8条 この規則に定めるもののほか、協議会の会議に必要な事項は、会長が定める。

附 則

この規則は、平成4年7月1日から施行する。

郡山市美術品収集評価委員会設置要綱**【設置】**

第1条 郡山市が美術品を収集するため、その適正な評価等を行うに当たり、有権者の意見を聴くために開催する郡山市美術品収集評価委員会(以下「委員会」という。)について必要な事項を定めるものとする。

【委員会の役割】

第2条 会議は次の事項について意見交換を行う。

- (1)美術品の選定評価に関すること。
- (2)美術品の寄託又は、寄贈に関すること。
- (3)美術品選定のための資料の収集その他専門的な事項に関すること。

【委員会の構成】

第3条 委員会の委員は、8名以内とし、美術に関する専門的知識を有する者のうちから教育長が依頼する。

2 委員の依頼期間は、2年以内とする。

3 委員会に座長を置き、委員の互選により定める。

【会議】

第4条 委員会の会議は、教育長が招集する。

2 会議は、座長が進行する。

3 座長に事故あるときは、あらかじめ座長の指名する者が会議を進行する。

【庶務】

第5条 委員会の庶務は、郡山市立美術館において処理する。

【委任】

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この要綱は、昭和63年6月8日から施行する。

附 則

この要綱は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、令和元年7月1日から施行する。

2) 名簿・組織（令和3年度）

郡山市立美術館協議会

- ◎会長 ○副会長
- (任期：令和2年6月1日～令和4年5月31日)
- 鈴木 裕之 郡山市立河内小学校長
- 半沢 一寛 郡山市立西田学園校長
- 源田 浩一 日本大学工学部情報工学科教授
- 馬場 典枝 FMいわきパーソナリティ
- 宗像 利訓 本郷焼・宗像窯9代目
- 高澤 俊郎 画家
- 齋藤由美子 白沢ふれあい文化ホール館長
- ◎荒木 康子 福島県立美術館専門員
- 瀬谷 賢次 福島交通株式会社郡山支社長
- 目黒 朋子 (一社)教育のための科学研究所

郡山市美術品収集評価委員会

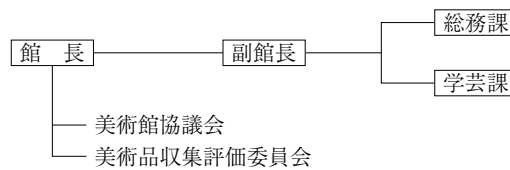
- (任期：令和元年7月1日～令和3年6月30日)
- 齋藤美保子 郡山女子大学短期大学部副学長
- 古田 亮 東京芸術大学大学美術館准教授
- 早川 博明 前福島県立美術館長
- 猿渡紀代子 (公財)三溪園保勝会副理事長
- 吉田 尊子 岩手県立美術館学芸普及課長
- 濱崎 礼二 宮城県美術館副館長兼学芸部長
- 杉村 浩哉 栃木県立美術館技幹兼学芸課長
- 唐澤 昌宏 東京国立近代美術館工芸課長

- (任期：令和3年7月1日～令和5年6月30日)
- 齋藤美保子 郡山女子大学短期大学部副学長
- 古田 亮 東京芸術大学大学美術館教授
- 早川 博明 前福島県立美術館長
- 猿渡紀代子 (公財)三溪園保勝会副理事長
- 吉田 尊子 岩手県立美術館学芸普及課長
- 濱崎 礼二 宮城県美術館副館長
- 杉村 浩哉 慶應義塾大学教授
- 唐澤 昌宏 国立工芸館館長

郡山市立美術館職員

- | | |
|-------------|-------|
| 館長 | 菅野 洋人 |
| 主幹兼副館長兼総務課長 | 神 彰 |
| 総務課主査 | 伊藤 恵子 |
| 総務課主任学務員 | 佐々木直人 |
| 学芸課長 | 杉原 聡 |
| 学芸課主任主査 | 中山 恵理 |
| 学芸課主任主査 | 永山多貴子 |
| 学芸課主任学芸員 | 富岡 進一 |
| 学芸課主査 | 田中有沙子 |
| 学芸員 | 新田 量子 |
| 学芸員 | 川上 恵理 |
| 学芸員 | 塚本 敬介 |
| 学芸員 | 鈴木えみこ |

■組織図



3) 建築設備概要・平面図・面積表

■敷地面積	38,420.24㎡
[建築概要]	
■建築面積	3,776.52㎡
■建築床面積	6,848.37㎡
■駐車場面積	3,300㎡ 収容台数 乗用車123台 バス 8台
■構造及び規模	鉄筋及び鉄骨鉄筋コンクリート造 地上2階地下1階
■仕上	
外壁	杉小幅板本実化粧型枠ホワイトコンクリート打放し
屋根	ステンレス鋼板フッ素樹脂加工
サッシ	アルミ電解二次着色
	カーテンウォール爪かけバックマリオン方式ペアガラス(二面サンドブラスト加工)
展示室壁	不燃クロス貼ペンキ拭取仕上げ
展示室床	木製フローリング(ホワイトオーク)
■設計	(株)TAK建築・都市計画研究所
■設計協力	
基本計画・ガラスデザイン	川上喜三郎
木製家具デザイン	(株)方圓館 坂本和正
サインデザイン	永原浄デザイン研究所 永原浄
造園	(株)和泉屋・石のアトリエ 和泉正敏
■施工	
主体工事	大林・東洋特定建設工事共同企業体
電気工事	(株)ユアテック郡山営業所
空調和建設工事	高砂・菱和特定建設工事共同体
情報防火設備工事	(株)ニノテック
給排水設備工事	東北設備工業(株)
昇降機設置工事	フジテック(株)仙台営業所
■工期	着工：1990(平成2)年12月18日 竣工：1992(平成4)年6月30日
■建築費	40億円
[設備概要]	
■電気設備	
受電	3相3線、6KV、50Hz
変圧器	電灯：単相3線、210/15V、100KVA×3 動力：3相3線、210V、500KVA×2、300KVA×2
蓄電池	シール形鉛蓄電池100AH/10HR
非常用発電機	ディーゼルエンジン228PS、出力3相200V、180KVA
照明設備	白熱灯、高輝度放電灯、蛍光灯、LEDスポットライト、直管式LED
■情報防災設備	
防災設備	自動火災報知機、防排煙、非常放送、誘導灯
防犯設備	ITV監視装置(監視カメラ、14型カラーモニター・四分割型)
その他	視聴覚設備、放送設備、中央監視設備

■空気調和設備

熱源設備

空冷ヒートポンプチラー(圧縮機50KW) 4台

暖房能力：524KW、冷房能力：724KW

水冷チラー(圧縮機40KW)

暖房能力：198KW、冷房能力：157KW

空調設備

4管式恒温恒湿制御方式(収蔵庫系統)、4管式再熱制御方式(展示室系統)

VAV方式(普及部門諸室系統)

外調機+ファンコイルユニット方式(事務管理諸室系統)

空調機+ファンコイルユニット方式(エントランスホール・ロビー系統)

その他

自動制御設備、換気設備、機械排煙設備

■給排水設備

給水設備

圧力給水方式 受水槽10㎡、副受水槽1.5㎡

給湯設備

電気温水器(貯湯量224ℓ、10KW)電気湯沸器(貯湯量40ℓ、4KW)

消火設備

屋内消火栓、連結散水設備、ハロンガス消化設備(収蔵庫)

■くん蒸設備

常圧・減圧兼用式4.0㎡、ミニガスベンベ脱着方式

■昇降機設備

乗用

750Kg,11人乗り(車椅子対応)

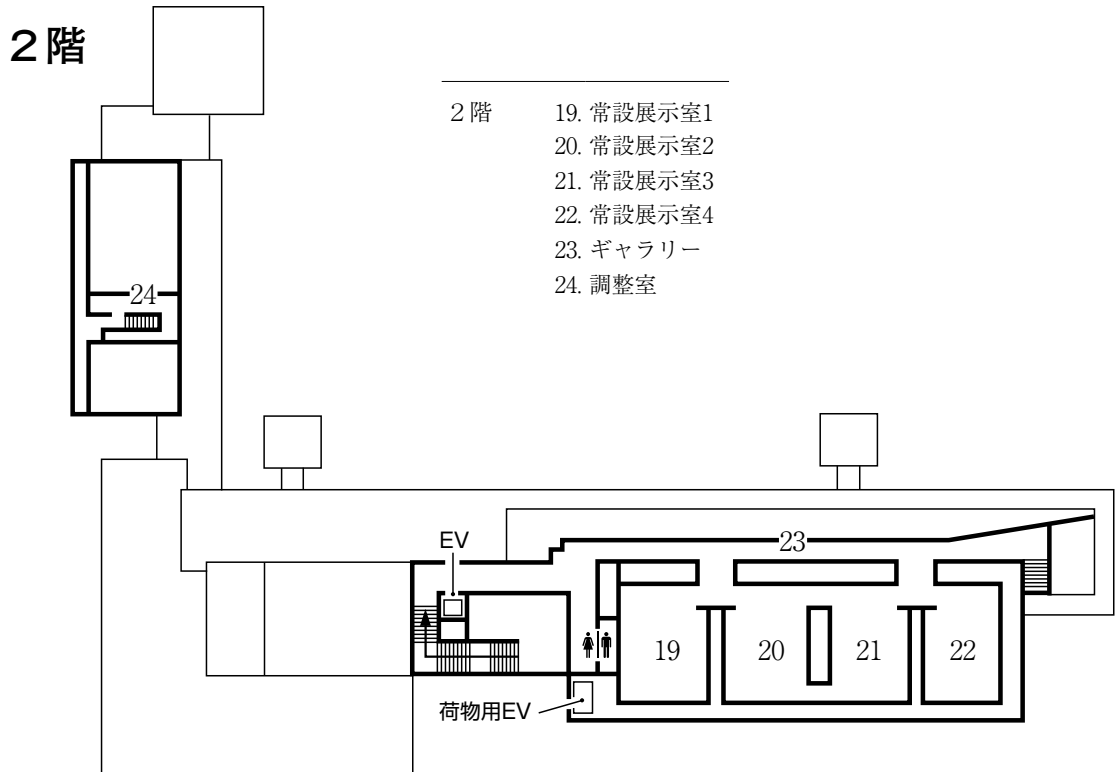
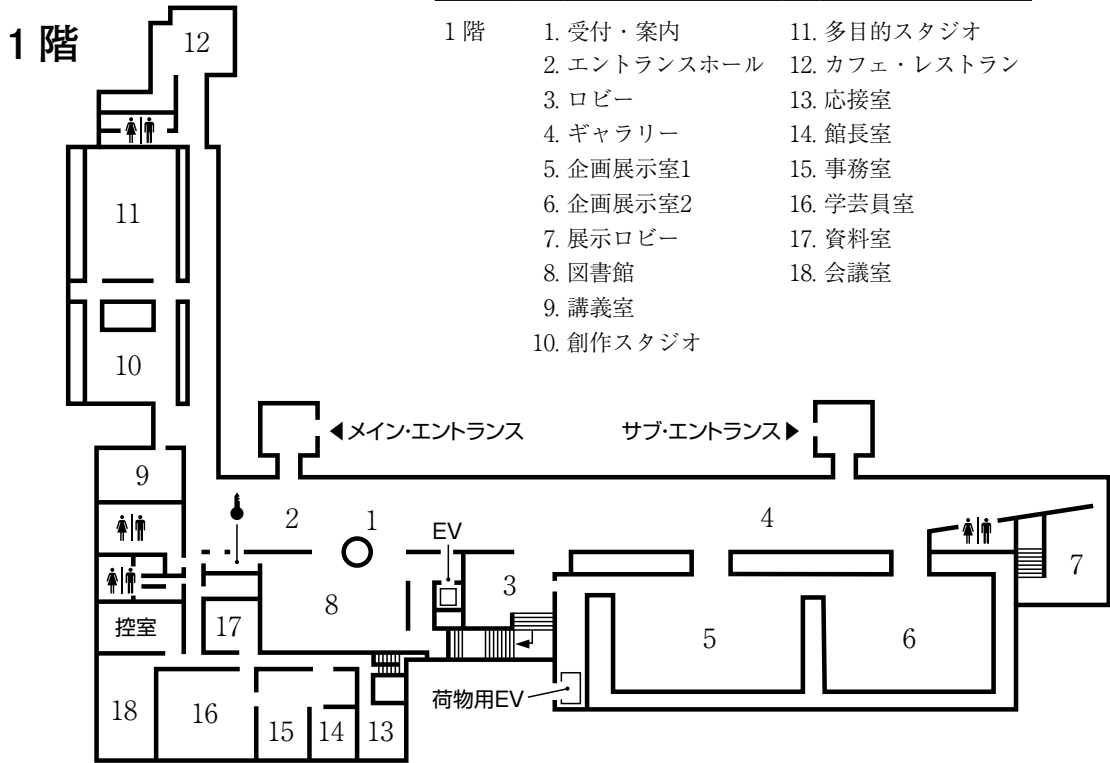
荷物用

3,000 Kg、油圧加速制御

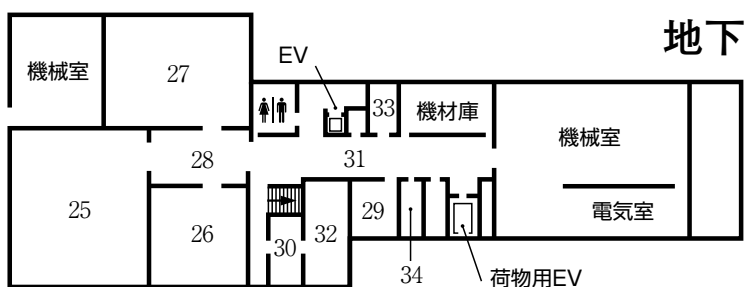
テーブルリフター

2,000 Kg

■平面図・面積表



- 地下
- 25. 収蔵庫1
 - 26. 収蔵庫2
 - 27. 収蔵庫3
 - 28. 収蔵庫前室
 - 29. 修復室
 - 30. 中央監視室
 - 31. 荷解場
 - 32. トラックヤード
 - 33. くん蒸室
 - 34. 清掃員室



部門名	面積	階	室名	面積
展示部門	2,330.38 m ²	2	常設展示室1~4	932.51 m ²
		1	企画展示室1~2、展示ロビー	1,333.24 m ²
		B1・1	器材庫、エレベーター前室	64.63 m ²
収蔵部門	1,040.28 m ²	B1	収蔵庫1~3	618.35 m ²
		B1	収蔵庫前室	61.48 m ²
		B1	器材庫	69.25 m ²
		B1	荷解場	238.71 m ²
		B1	くん蒸室	19.10 m ²
		B1	修復室	33.39 m ²
教育普及部門	570.34 m ²	1	多目的スタジオ	196.42 m ²
		1	創作スタジオ	122.40 m ²
		1	講義室	56.87 m ²
		1	図書室(ビデオコーナーを含む)	194.65 m ²
研究研修部門	117.45 m ²	1	学芸員室	117.45 m ²
管理部門	852.19 m ²	B1	中央監視室	24.22 m ²
		B1	機械室	520.43 m ²
		1	事務室	79.85 m ²
		1	館長室	32.48 m ²
		1	会議室	73.92 m ²
		1	応接室	38.10 m ²
		B1・1	控室	54.52 m ²
		1	資料室	28.67 m ²
サービス部門	702.62 m ²	1	エントランスホール	222.77 m ²
		1	ギャラリー	344.72 m ²
		1	ロッカールーム	16.69 m ²
		1	カフェ・レストラン	118.44 m ²
その他	1,235.11 m ²	B1・1・2	廊下、階段、便所、その他	1,235.11 m ²
計	6,848.37 m ²			6,848.37 m ²

4) 利用案内

■所在地

〒963-0666 福島県郡山市安原町字大谷地130-2

Tel : 024-956-2200 Fax : 024-956-2350

E-mail : bijutsukan@city.koriyama.lg.jp

ホームページ

<https://www.city.koriyama.lg.jp/site/artmuseum/>



■開館時間

午前9時30分～午後5時

(入館は午後4時30分まで)

■休館日

毎週月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)

■交通案内

●郡山駅から美術館まで約4km

●乗用車 駐車場(123台、バス8台収容・料金は無料)

●バス

郡山駅前5番のりばから『美術館経由東部ニュータウン行』乗車、「郡山市美術館」下車すぐ。(所要時間10分)



■観覧料

	常設展		企画展	
	個人	団体 (20名以上)	個人	団体 (20名以上)
一般	200円	150円	規模・内容等に応じて、その都度定めた額	
高・学大生	100円	70円		
65歳以上	無料			
中学生以下	無料			
障害者手帳をお持ちの方	無料(手帳を提示)			

郡山市立美術館年報

令和3年度

令和4年7月1日発行

発行 郡山市立美術館

〒963-0666 福島県郡山市安原町字大谷地130-2

TEL 024-956-2200 FAX 024-956-2350

E-mail bijutsukan@city.koriyama.lg.jp



